

二録目下ノ六

- 第三 兵馬ノ大權
- 第四 警保ノ大權
- 第十七款
- 第五 司法ノ大權
- 第十八款
- 第六 財務ノ大權
- 第七 監臨ノ大權
- 第八 教育方法ノ看護
- 第十九款
- 第九 權利施行ノ體裁即布告及命令
- 第二十款
- 第十 政府非常ノ權即國家不得已ノ權

國法汎論卷之六下

瑞士 イ、カ、ブルンチエリ 著
加藤弘之 譯

第十二款

第六 國家元首ノ權利、レフテ、デス、スターツ、

甲 マエステートノ權利、 〔按〕マエステートノ本義ハ、尊貴顯榮ニ用フルコ、〔按〕マエステートノ本義ハ、尊貴顯榮ニ用フルコ、 零漢土ノ陛下ニ相似タリ、然ルニ又君主ノ尊貴顯榮ニ關スル權利ヲモ亦、マエステートノ權利ト稱ス、〔按〕マエステートノ本義ハ、尊貴顯榮ニ用フルコ、 猶本文ニ詳ナリ、

〔第一〕君主ハ即スウエレイン 〔按〕國家ノ大權ヲ掌握スル者ノ義、 ナルヲ以テ、又國家ノ尊榮

貴顯榮ヲモ、一身ニ負荷ス、是故ニ君主タル者ハ、必マエステートノ權利ヲ有スル者ニシテ、〔按〕 縱令ヒマエステートノ尊稱ヲ得ル能ハサル所ノ君主ト雖ヒ、此權利ヲ有スルニ至リテハ、決シテ異ナルコトナシ、〔按〕 方今ハマエステートノ尊稱ヲ以テ、唯カイセルニ以下皆帝ト譯ス、故及

一下ノ六

二下ノ六

ケイニグ〔按〕通常王ト譯ス、故ニノミ用ヒテ、其他ノ君主ハ、縱令ニ國家ノ主權ヲ掌握ス、雖モ、決シテ此尊稱ヲ用ヒス、元來此尊稱タルヤ羅馬ニテ帝位ヲ尊稱スルニ用ヒタルヨリ起リ、次テ佛朗哥國ニテ用ヒ、又夫ヨリ傳ヘテ獨乙帝ニモ用ヒタリ、其後又中古ノ末ニ至リテ、王ヨリ帝ヲ尊崇スルニ此稱ヲ用ヒタリ、去レ王ハ帝室ヨリ、此稱ヲ受ルヲ能ハサリキ、

○又エストハイレンノ講和〔按〕一千六百十八年ヨリ、其四十八年ニ至ストハイレンニテ、始メテ和陸整フノ後ニ至リテハ、獨乙政府〔按〕即帝リ、世之ヲ三十年ノ戰爭ト稱ス、後ニ至リテハ、獨乙政府ノ政府ナリ、ヨリ、王ヲ尊崇スルニ、マエステートノ語ヲ用フルトナリ、且司選侯ルスト、モ亦、此尊稱ヲ受ノヲ望ムニ至レリ、

但シマエステートノ權利ナシト雖モ、唯此尊稱ヲ得ルニ於テ妨ナシ、是故ニ后妃及ヒ既ニ位ヲ禪リテ、政權ヲ辭セル君主ニモ、其尊榮ヲ表スルカ爲メ、此尊稱ヲ用フルヲ通例トス

マエステートノ權利ハ、復此尊稱ノ有無ニ關スルヲナシ、是故ニ君主ノ

三下ノ六

國家元首ナル尊榮ヲ毀損スル者アルハ、之ヲマエステートベライダグング 羅句語ニキリメン、レセ、マエスグチスト、ノ罪ヲ犯セル者トシテ、云〔按〕君主ノ尊榮ヲ毀損スル罪科ノ義、臣民ノ體面ヲ毀損セシヨリハ、更ニ重キ刑ヲ加ヘタリ、

方今民主國ノ國法ニテハ、其元首ニマエステートノ權利、及ヒ其尊稱ヲ與フルヲナシト雖モ、舊羅馬民主國ノ法ニテハ、其主長ニマエステートノ權利ヲ與ヘタリ、但シ尊稱ハ與ヘザリキ、

〔第二〕君主ハ敢テ侮辱ス可ラス、ウンヘルレツト爲シ、且ツ君主ノ身ハ、即チ神聖リフト、ナリト爲ス、而シテ此事モ亦、羅馬ノ國法ニ於テ、始メテ詳定セシナリ、元來羅馬ニテホルクストリブン ①ノ權利ヲ確保センカ爲メ、若シ之ヲ侮辱スル者アレハ、天神必、其身軀、及ヒ其所有物ヲ沒入ス可シ、サシロサト定メタリ、然ルニ其後羅馬帝起ルニ至リテ、此ホルクストリブンノ權利、及ヒ此規律〔按〕天神必、身軀所有物ヲ合セテ、共ニ帝ニ移傳シ、且ツ基督沒入ス可シト云フ規律、チ合セテ、共ニ帝ニ移傳シ、且ツ基督教行ハル、ニ至リシヨリ、帝ヲ以テ神聖ト爲スノ意、益確實トナレリ、

○〔按〕古時羅馬ニパトリシール及ヒアレベスト云ヘル二種ノ民アリテ、パトリシールハ貴族、アレベストハ平民ナリシカ、一時此二種ノ民不和ヲ生シテ、遂ニアレベストノ族ハイリグベルグト云ヘル山中ニ移住セシニ、其後又パトリシールト條約ヲ爲テ、爾後アレベストノ中ヨリ、代議者ヲ出シテ、パトリシールト共ニ、國事ヲ議スルヲ定メタリ、仍テ此代議者ヲ稱シテ、ホルクストリブント云ヒシナリ、加特力教ヲ奉スル所ノ國ニテハ、此二件〔按〕君主ヲ侮辱ス可ラサルノ件、ノ意、今仍盛ナリ、但シ波羅特士且教ヲ奉スル國ニテモ、君主ノ侮辱ス可ラサルノ規律ハ、國法ニ於テ甚ク緊要トシテ、嚴ニ之ヲ定ムト雖モ、君主ヲ以テ神聖ナリト爲ス規律ニ至リテハ、方今全ク廢シタリ○

○巴以里國一千八百十八年文政元年ノ國憲ニ云「王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又西班牙國一千八百三十八年天保九年ノ國憲ニ云「王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可カラス、又云、王敢テ保任ノ責ヲ負ハス、

〔接〕保任ノ事、本卷第十三款ニ詳ナリ、又填地利一千八百四十九年嘉永二年ノ國憲ニ云「帝ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又云、帝敢テ保任ノ責ヲ負ハス、〔按〕三國ハ、皆專ラ加特力教ヲ奉スルノ國ナリ、故ニ今仍君主ヲ以テ神聖ト爲スノ規律ヲ存ス、然ルニ荷蘭一千八百四十八年嘉永元年ノ國憲、及ヒ普魯士國一千八百五十年嘉永三年ノ國憲ニハ、唯王ヲ侮辱ス可ラサル旨ヲ載スルノミ、〔按〕此二國ハ波羅特士以テ神聖ト爲スノ規律ナシ、

〔第三〕君主ハ其尊榮及ヒ威嚴ヲ表スルカ爲メニ、必ズ國ノ表章ヲイフスイテ、擣帶ス、冠ハ乃マエステートノ表章、劍ハ乃正善ヲ保護シ、邪惡ヲ懲罰スル威權ノ表章、環ハ乃公明仁慈ノ表章ナリ、其他猶各國皆各種ノ表章アリ、譬ヘハ古時獨乙帝ノ位ニ即クニ方リ、始メテ得シ所ノ金ノライフスアッペル〔按〕菓實ノ如ク、球ハ即地球ヲ統御スルノ表章、又双頭ノ鷲ハ、昔時獨乙ノ内相和セスシテ、互ニ抗拒セシテ、國王始メテ立ツニ迫テ、之ヲ和セシメ、以テ一體トナセシテ、示スノ表章ナルカ如ク、其他又百合花ハ佛國

國ノ表章、獅子ハ英國王ノ表章ナルカ如シ、儘又王自ラ好テ、各種ノ表章ヲ用フルコトアリ、

〔第四〕其他王位ノ隆榮ヲ表スル者二類アリ、其一ハ、即王室ノ職官、ホフス、

其二ハ、即君主ヲ崇敬スルニ要スル所ノ善美ノ儀禮ニシテ、是レナリ、古時

佛朝哥國ニテ、王室ニ四種ノ職官〔按〕四種ノ官トハ、用度ヲ掌ル官、府房

ノ事ヲ掌ル官、是レナリ、マイエル氏著ス所ノ官、審藏ノ事ヲ知ル官、閑廐

ヘルサチオンス、レキシコン王室ノ部ニ詳ナリ、チ置キシヨリ、中古ノ

諸王室、亦皆此制度ニ倣ヒタリ、而今時王室ノ職制、亦之ニ淵源スル者

多シ、又今時君主ヲ崇敬スルノ儀禮ニ至リテハ、古時ビツアンツ帝國〔按〕

三百九十五年ニ於テ、羅馬帝ヲオドシケス、デル、ゴローセ羅馬國ノ版圖

ヲ二分シテ、東西ノ二國トナシ、以テ其二子ニ與ヘタリ、其東國ヲ稱シテ

東羅馬又ビツアンニテ、用ヒタル儀禮ニ倣フモノアリ、但此國ノ儀禮ニ於

テハ、君主專治國ノ意、甚盛ナルノミナラス、尙且、東方諸國〔按〕亞細亞ノ

風習ニテ、教法ノ意、萬緒ノ事體ニ關係スルカ如シ、此儀禮中ニモ亦、教法

ノ意寓スルモノニシテ、大ニ方今文明開化國、自由ノ道理ニ戻レル者ナキ

ニアラス、

〔第五〕君主ハ必、隆盛豐饒ナルヲ要ス、然ラサレハ、決シテ巍々タル尊貴ヲ

示スニ足ラス、然ルニ民主國ノ如キハ、之ヲ以テ緊要トスルコトナシ、但シ

縱令、民主國ト雖モ、其主長タル者、衣食ニ乏シク、困厄貧窶、其生ヲ送ルヲ

以テ、主適トスルノ理ハ、決シテアル可カラス、蓋、主長タル者此ノ如クナ

ルキハ、皆ニ豪后ノ壓倒スル所トナルノミナラス、尋常富民モ亦、睥睨ス

ルニ至ル可シ、○君主國ニテハ、國家億兆仰ク所ノ榮光、常ニ君主ト、其戚

族ノ身ニ哀マリ、煥然トシ、其光輝ヲ發揚スル者ナレハ、君主ノ豐饒ナル

ハ、實ニ緊要ノ事ト云フ可シ、

君主ノ家産ハ、其君職ヲ盡スカ爲、ニ、必要ナル費ヲ支償スルヲ以テ、足レ

リト爲ス可カラズ、其家産ヲ以テ、尙汎ク國民ニ慈惠ヲ施シ、且、國內ノ學

術技藝ヲ勸導獎勵シ、以テ人財ヲ育セスハ、アル可カラス、非的利、デル、ゴ

ローセノ論ニ、人君ハ猶天ノ日夜雨露ヲ降シ、常ニ下土ヲ潤シテ、止マサ

六ノ下八

ルカ如クナル可シト云ヘリ、故ニ君主ノ多ク財ヲ費スヤ、唯節度ヲ失テ、奢侈淫蕩ニ流ル、ノ弊ヲ生スルニアラサレハ、却テ國家安康ノ爲甚緊要ナルヲニシテ、決シテ惡シキヲト爲ス可カラズ、○是故ニ王室ノ貧富ハ、猶君主ノ一身ニ於ルカ如ク、殊ニ全國ノ利害ニ關係スル者ニシテ、決シテ臣民ノ貧富ノ、其一身ニ止マルカ如キニアラス、故ニ王室ノ財政ハ、民人ノ家事ト、其意全ク相異ナリ、

羅馬國ノ帝國トナリシ以來ハ、其民主政體ノ時ニ於テ、國家ノ所有タリシ財用ヲ、漸ク帝ノ有トシテ、之ヲ自己ニ屬セルヒスルニ至リ、總テ國家ノ所有ヲ以テ、其諸法典ト共ニ、悉皆帝ノ專ラニスル所ト爲セリ、又中古羅馬人種、及ヒ日耳曼人種ノ各國〔按〕羅馬人種ノ各國トハ、歐羅巴ノ南方、及ヒ南西方ノ各國ニシテ、殊ニ以太利、西班牙、葡萄牙國等ヲ云ヒ、又日耳曼人種ノ各國トハ、歐羅巴、中央、及ヒ北方ノ各國ニシテ、殊ニ獨乙、荷蘭、噠國、瑞典、那威等ニテモ、君主巨大ノドメーン〔按〕君主ニ屬スル土田ナリ、チモ、恣ニ用フルノ權ヲ有シタリ、但シ政府ノ定費、及ヒ法院ノ費用等ハ、總テ、

其所有ヲ以テ、之ヲ償フノ義務ヲ荷フタリキ、然ルニ近今ニ至リテハ、大ニ公私ノ分別ヲ明ニシテ、此ノ如キ混同ヲ廢シタリ、

- 甲 眞ニ國家ノ所有タル可キ者ハ、決シテ獨リ君主ニ屬セス、必ク國家全體ニ屬スル者ニシテ、國家ノ諸歲入ハ、悉皆國家ノ所有スル所ナリ、故ニ又此所有ヲ以テ、諸歲出諸公費ヲ償フコト當然ナリト爲ス、
- 乙 王室ノ費用ヲ償フカ爲ニ、國家ニリ君主ニ附與スル所ノ財用ハ、即チチヒールリステト稱スル者ニシテ、之ヲ以テ王室ノ私事ニ費スハ、君主ノ自由ニ任ス、
- 丙 眞ニ王室ノ私有タルモノ、

六ノ下九

始メテチヒールリステノ制ヲ設ケシハ、英國ニシテ、最初ハ毎年パルメント會議ニテ、其額ヲ定メシカ、後世ニ至リテハ、預定額ヲ立テ、屢變更スルコトナシ、○但シ其初メニ於テハ、從來王室ニ收受セシ國家歲入、及ヒ稅餉ヲモ、チヒールリステニ加ヘタリシカ、輒近ニ至リテハ、全ク此等ノ稅餉ヲ除去ス

○一下ノ六

ルトナリ、且、近今各國立憲君主國トナルニ及ヒ、國憲ニ於テ、全ク此ノ如キ混同ヲ廢スルヲ確定シタリ、○但、此ノ如キ公私ノ混同ヲ全廢セシ以來、君主歲入ノ額ハ、全ク代國府ノ議定ニ因ル者トナリテ、從前公私混同セシ世ノ如ク、全ク王室ノ自由ヲラサルハ、固ヨリ論ナシ、去レヒ此混同ヲ廢セシカ爲メ、王室會計ノ規則能ク整ヒ、又、屢費用多寡ノ差ヒヲ生スルノ憂、或ハ俄ニ許多ノ費ヲ銷スル等ノ憂全ク止ミ、且、額數既ニ定マレルカ故ニ、預メ費用ヲ算定シテ、其節制ヲ設ルヲ、自ラ又容易トナリ、其他國民モ亦國家ノ經濟ニ預ルヲ得テ、王室奢侈ノ爲メ、収歛セラル、等ノ患除キ、又王室竊カニ代國府ニ賄屬シテ、若干ノ徵稅ヲ議定セシムル等ノ弊止ミ、且、時勢ノ變化ニ隨テ、ナヒールリステノ額ヲ定ムルヲ甚々容易トナリ、君民共ニ大ニ便ヲ得ルニ至レリ、

○一千六百八十九年、元錄、名聲盛ナル顛覆ノ後、維廉第三、及其妃馬亞即位ノ時ニ於テ、始メテ定額ヲ立テタリ、〔按〕一千六百八十九年ニ神教及ヒ暴政ノ事ニリ顛覆起リ國王ヤコブヲ第

二、遂ニ佛國ニ奔リタリ、

パトリモニアール、スタート〔按〕本卷第二款ニ出ツ、ニテハ、國家ヲ以テ、王室ノ私有

トナスカ故ニ、決シテナヒールリステノ制アル可キ理ナシ、然ルニ方今歐洲各國ノ君位ノ如ク、盛強ノ威望ヲ以テ、其全權ヲ一身ニ負荷セル者ニ、ナヒールリステヲ附與スルハ、眞ニ當理ノ事ト云フ可シ、頭首ハ其滋養ヲ、體軀ノ各部ヨリ資取スルニアラスヤ、然ラハ則國家全體ノ爲、其理治ニ勞スル君主ニシテ、其需用ヲ國家全體ヨリ資取スルヲ、何ソ非理トセンヤ、

一一下ノ六

總テ國家ヨリ王室ニ附與スル者ヲ云フ英國ニテハ、君主ノ即位毎ニ巴力門憲法〔按〕王ト兩院ト相議シテ、定メタル憲法ヲ云、ヲ以テ、其君主在位中ノ定額ヲ立ツ、佛國亦其恢復〔按〕一千八百十四年、ボウルノ時ヨリ、此制ニ倣ヒ、比耳時モ亦此制ニ倣フテ、國憲第四十三條ニ、其旨ヲ記載シ、荷蘭亦此制ヲ取テ、其國

六ノ下二

憲第二十七條ニ、之ヲ記載セリ、其他ノ各國、亦此制ヲ取ル者多シ、唯獨乙各國ニテハ、或ハ預メ金額ヲ定メテ、終始變更セサル國アリ、或ハ國家ヨリ王室ノ所屬トセルドメーン〔按〕前ノ稅餉ヲ以テ其歲入トスル國アリ、○又西班牙ノ如キハ、其國憲第四十九條ニ據ルニ、君主ノ即位毎ニチヒールリステノ額ヲ定ムルヲ、專ラコルテス〔按〕立法ノ議ニ委任ス、葡萄牙ノ國憲第二十七條ニ載スル所モ亦之ニ同シ、又希臘國ニ於テハ其國憲第三百五十七條ニ、十年毎ニ會議ヲ以テ、チヒールリステヲ改正スル由チ載ス、○但シ兩院ヲシテ其欲スル所ニ隨テ、屢君主需用ノ額ヲ變更セシメ、且、此額ヲ以テ朋黨相爭フノ候正ト爲サシムルカ如キハ、實ニ君主ノ君主タル威望ヲ損スルノ甚ダシキ者ト云フ可シ、

○〔巴〕以里國一千八百三十四年天保五年ノ國憲第二十三條、及普魯士國一千八百二十年文政三年ノ國憲第五十九條ヲ參看ス可シ、

○〔ダールマール〕按、獨乙人、一千七百八十五年、ノ政學書ニ、毎年金額ヲ定ムルカ如キハ、一私人ノ家事ニ於テスラ、尙堪ユ可カラス、去ルチ國家第一等ノ王室ニシテ、此ノ如キ制アルハ、實ニ笑フヘキヲナラスヤト云ヘリ、理アル論ト云フ可シ、

六ノ下三

チヒールリステヲ以テ、他ノ國家所有ト全ク相分テル國ニ於テハ、國家ノ歲入、其歲出ヨリ多キトハ、則之ニ由テ國家ノ儲蓄ハ増益スレト、君主ノ富有ハ決シテ増益セス、又君主國家ヨリ收受セシチヒールリステヲ節用シテ、貯蓄ヲ爲ストハ、若シ他ノ事故アルニ非レハ、君主ノ富必ズ増益スルヲ得可シ、

王子及王族ノアパナーセ〔按〕王子王族ノ費用ノ爲ニ、國家ヨリ附與スル所ノ金額、ハ之ヲチヒールリステノ内ニ算入セスシテ、別個ニ附與スルチ良法トス、總テ君主ノ位置ハ、國家至重ノ者ナルカ故ニ、其チヒールリステヲ以テ、兼テ多少ノ王子王族ノ需用ニ充テシムルハ、甚可ナラス、王子王族ハ、自ラ王室所有ムヘタルメーゲンス、ノ貧富ニ準シ、其品位ニ應セル活計ヲ營ム可キノ權アル

六ノミ、而シテ此活計ノ方法ハ、殊ニ私法ノ規律ニ屬シテ、國法ノ規律ニ屬セ
ス、然ルニ君主ノ權利ハ、殊ニ國法ノ規律ニ屬シテ、但シ王子王族ノ活
計ノ方法モ、亦自ラ王室ノ顯榮、國家ノ威嚴ニ關係ナシト云フ可ラスト
雖モ、決シテ大關係アル者ニハアラス、○歐洲各國ニテ、國土ヲ治ムルノ
權ハ、必、唯一ナラサル可ラサルノ理、輒近始テ明瞭トナリテ、國法ニ於テ

此理ヲ貴重セシカ故ニ、版圖ハ必、分割ス可ラサルノ法トナリ、且、ドメー
ン及ヒコロングート〔按〕王室ニ屬スル土地ニ至テモ、共ニ王位ヲ繼ク所ノ君ニ傳フ
ルコトナリシヨリ、始テアパナーセノ制起リタリ、故ニ昔時ハ其他ノ王
子王族等、皆王室ノ所有ヲ君主ノ遺物トシテ、分取スルノ權利ヲ有セシ
カニ、輒近此權利ヲ廢シテ、始テアパナーセノ制ヲ立テ、王子王族等、之ヲ
以テ其需用ニ充ツルコトナリ、而シテ其額數ハ、王室所有ノ貧富ニ準シ、且、王
子王族ノ需用ニ應シテ、國君自ラ之ヲ定メタリ、但シ近今ノ國法ニテハ、必、
憲法ヲ以テ、其額數ヲ定ムルコトナリタリ、

第十三款

乙 不保任、ウンヘルアントナ及ヒ保任、ヘルアントナ

〔第一〕國家ノ元首タル者、自己ノ處置ヲ保任スルヲ以テ、良法トスヘキヤ
否ノ論、古來各國ニ於テ、相同シカラス、羅馬ノ國法ニテハ、民主政體ノ時
ニ於テスラ、政府ノ主長タル者、尙其職掌區域内ノ事ニ就テハ、敢テ保任
セサルノ法ナリキ、然ルニ古時日耳曼ノ法ハ、全ク之ニ以シテ、縱令君主
ト雖モ、必ス保任スルヲ以テ當然ノ事ト爲シタリ、○方今君主政體ヲ立
ル所ノ歐洲各國ニテハ、全ク羅馬ノ法ヲ取テ、君主ハ敢テ保任セサル者
トス、但シミニステルヲ以テ、其政令ヲ保任ス可キ者トナシ、而シテ君主
ハ必スミニステルノ輔佐ヲ得サレハ、敢テ政令ヲ施行ス可ラスト爲ス
カ故ニ、君主不保任ノ權利モ、其實ハ自ラ限制セラル、所アリ、唯獨リ佛
國ナポレオン破倫氏ノ國憲ニ於テハ、君主敢テ保任スルノ法ヲ立ツ、方今ノ民主
國ニ至リテハ、概シテ日耳曼ノ法ヲ取テ、主長保任ノ制ヲ用フ、○今左ニ

六ノ下

五ノ下

六 古來保任不保任ノ因テ起リタル所以ヲ論ス、

六一下〔第二〕羅馬國ニテハ、素ク政權ノ盛強ナルヲ以テ、專ラ緊要ノ事ト爲シタリ
但シ其民主政體ノ時ニ於テハ、政權甚ク強大ニ過キテ、遂ニ專横ニ至ルヲ
懼レシカ故ニ、之ヲ預防センカ爲メ、主長在職ノ年限ヲ短縮シテ、屢々之ヲ
改選スルノ法ヲ立テ、且ツ政權ヲ一人ニ托セスシテ、其勢ヲ分割スルノ法
ヲ立テタリ、去レモ若シ主長タル者、其在職ノ年限中、必ク其政令ヲ保任セサル
可ラサルノ法ヲ立シトモ、主長ノ威力、遂ニ之ヲ爲メニ減殺セラレ、且ツ其尊貴
顯榮、亦之レニ因テ、陵夷スルニ至レンコトヲ恐レ、加之、國家第一等ノ高官タ
ル者、同等若クハ下等官員ノ審判ヲ受ルハ、條理甚ク紊ル、コト爲セシ
カ故ニ、主長不保任ノ法ヲ立テタルナリ、○是故ニナベリウス、ガラフス
〔按〕羅馬民主政體ノ時ニ於テ、ホルクスストリブンノ一人、カ、其同僚マル
ナリ、ホルクスストリブンハ本卷第二款〔第二〕ニ詳ナリ、カ、其同僚マル
クスオククヒウスノ職ヲ放ツノ議ヲ唱ヘテ、遂ニ之ヲ遂ケシハ、即チ從來
ノ法ヲ破リタルナリ、既ニ西塞羅ノ説ニコンスルニ於テ、羅馬民主政體ノ時

人員二、ノ職ハ、決シテ罪ヲ以テ放ツ可カラスト云ヘリ、其後州縣ノ長官、
名トス、ノ職ハ、決シテ罪ヲ以テ放ツ可カラスト云ヘリ、其後州縣ノ長官、
縱令ヒ罪アリト雖モ、必ク其在職ノ期滿ル後ニアラサレハ、決シテ法院ニ於
セ、審判ヲ受クルコトナカリキ、○其後帝國トナルニ及ヒテハ、縱令ヒ其官員罪
アリト雖モ、帝自ラ其罪ヲ問フニ非サレハ、亦他人ノ之ヲ糾彈スルヲモ
許サ、リキ、○帝必ク自ラ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ負ハサルニアラス、去レ
モ若シ時アリテ、自ラ憲法ノ區域ヲ超エ、或ハ不正ノ事ヲ爲スコトアリモ、決
シテ此罪ヲ問フノ方法ハ有ラサリキ、是故ニ帝ナル者ハ、絶テ憲法ノ爲メ
ニ、東縛限制セラル、者ニ非スト云フニ至レリ、

〔第三〕中古日耳曼ノ論ハ、全ク羅馬ノ論ト相反セリ、日耳曼人ノ意ニテハ、
縱令ヒ政權ヲ握リテ、國家ノ尊貴ヲ負ヘル者トイヘモ、罪アレハ之ヲ問
フハ、當然ノコトニシテ、公正ノ法ハ、敢テ曲ク可ラストセリ、故ニ通常ハ上
等ノ法官、下等ノ官員ヲ審判スルノ法ナリシカモ、若シ上等ノ法官、自ラ法
ヲ犯シテ、國家ノ安寧ヲ害スルコトアルモ、其代者〔按〕下等ノ法官ニシ
テ、上等ノ法官ニ代ハ

六一下

七 下

八一下ノ六

ル者、上官ノ罪ヲ審判スルノ法ナリキ、
 中古ノ頃ニハ、王公侯伯、罪ヲ犯スニ至リテハ、帝之ヲ審判スルヲ以テ、當
 然ノコトセリ、去レ此ノ事ノ實ニ行ハレシハ、唯帝ノ統御内ナル獨乙羅馬
 合國ノミニシテ、其他ハ、基督教ヲ奉スル各國トイヘ、決シテ行ハレサ
 リキ、〔按〕帝獨乙羅馬ヲ合シテ、之ヲ統御セシ故、此法此合國ニハ行ハレ
 タレ、〔按〕其餘ノ各國ハ、實ニ帝ノ統御ヲ仰カサリシ故、行ハレサリシ
 云、但、右此各國ノ王公モ、亦絶、テ帝ノ統御ヲ仰カサリシト云フニハ非
 サレ、只殆ト帝ノ爵位ヲ尊崇セシノミニシテ、實ニ全ク其統御ヲ受ケ
 シニ非サレハナリ、○其後ニ至リテ、帝獨乙各國王公ノ爵位ヲ放ツニ方
 リテハ、必^ク先^ク「〔按〕獨乙〔按〕合議府」ノ許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スル
 一能ハサルノ法トナリシガ、後年獨乙帝國崩解〔按〕一千八百零六年、
 ルニ辛未ノ歲ニ至リ、普魯士王ノ時ニ至ル迄、各國共ニ、猶帝ノ此權ヲ專
 ニスルヲ認許シタリキ、
 最大至高ナル帝ノ權威ハ、天神ノ授托スル所トシテ、極メテ之ヲ尊重セ

九一下ノ六

シカ、是ニヨリテ、決シテ帝ノ不保任ヲ許スコトハ有ラサリキ、若シ帝ノ
 犯罪輕ウシテ、其位ヲ失フニ至ラサル者ナレハ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 之ヲ審判セリ、去レ其罪大ニシテ、帝位ヲ放ツ
 カ如キハ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」ノ權ニアリキ、○〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 ノ規則ヲ取用スルニ至リ、且^ツスウエネ^レテテ^トト〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 一^款ニ出ツ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」ノ權ニ出ツ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 開明セシユリシールヒユルストノ權ヲ以テ、帝位ヲ放ツノ非理ナル所
 以、世ニ明瞭トナリテ、學者大ニ此法ヲ排斥セリ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 既ニ之ヲ選擇セシ後ハ、帝ノ統御ヲ仰ク者ナリ、然ルニ猶帝ヲ廢スルハ、
 權アルキハ、即^チ下ニシテ、上ヲ罰スルモノニシテ、甚^ク國家ノ大權ニ害アル
 ナリ、
 〔第四〕近今ノ法ニテハ、君主ノ不保任ニ三様アリ、其一ハ、私法ニ關セル不
 保任、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」ノ法トナリ、フトリヘ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 トリヘ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」ノ法トナリ、フトリヘ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 トナリ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」ノ法トナリ、フトリヘ、〔按〕「〔按〕獨乙〔按〕合議府」
 ト、是レナリ、

○二下ノ六

羅馬ノ法ニテハ、帝ノ專權ヲ准許セシカモ、私法ノ事ニ至リテハ、帝ト雖
 モ必ス自ラ保任スルヲ當然ノ事トセリ、但シ臣民直ニ帝ヲ負債者トシテ
 法院ニ訴フルコト能ハス、去レモ帝亦實ニ一私人ナラスト云フ可ラス、帝果
 シテ一私人ナレハ、必ス他人ニ相對シテ、私法ニ屬スル所有ノ關係ナキ
 能ハス、是ニ於テ帝ノ所有ヲ以テ、帝ノ私身ニ代ヘ、之ヲ以テ他ノ私人
 テト同等ノ者ト視做セシナリ、是ニ於テ國家ノ所有タルヒスリス、
 云、ト論セシ如ク、古時ノ法ニテハ、國家所有ト王室所有トヲ分別スルコト、
 時ノ如ク判然クサリシ故、茲ニヒスリスヲ以テ、國家ノ所有ト稱スレ
 モ其實ハ始ト王及ヒヒスリスニ同シキ權利義務ヲ有セル、王室ノ私有
 チ、一個ノ負債者ト視做シテ、之ヲ法院ニ訴フルノ權利、臣民ニ在リシカ
 故ニ、臣民實ニ法院ノ保護ヲ受ル者ニシテ、決シテ帝ノ爲メニ其權利ヲ枉
 害セラル、ノ憂ナカリキ、
 又方今各國ノ國法トイヘモ、臣民君主ノ負債ノ事ニ就キ、之ヲ訴ヘント
 スルヲ阻止スルノ理、決シテアル可ラス、實ニ羅馬ノ國法ニ從フヘキコト

一ニ下ノ六

固ヨリ當然ナリ、但シ日耳曼ノ法ノ如ク、臣民直ニ君主ヲ負債者トシテ訴
 フルヲ許シ、以テ其管下ノ法官ヲシテ君主ヲ審判セシムルカ如キハ、條
 理ニ戻ルコト、甚シウシテ、實ニ君主ノ體面ヲ毀損スルコト、甚ナカラサルヲ
 不可ラス、是故ニ輒近スウエレトテ、トノ理開明セシヨリ、遂ニ此法
 ナ廢棄スルニ至リタリ、○方今ハ臣民國家ノ所有ニ就テスラ、尙訴訟ヲ
 爲シ得ルノ法ナレハ、況テ君主ノチヒールリステ、或ハ其私有ニ就テ訴
 フルヲ得ルコト、固ヨリ當然ナリ、
 然ルニ英國ニテハ、此事ノ規律未ダ開明セスシテ、獨乙ノ法ニ劣ルコト甚
 タシ、何者、英國ノ法ニ於テモ、君主ノ負債ニ就テ、臣民ノ之ヲ訴フルヲ許
 シ、以テ臣民ヲ保護スルハ、獨乙ニ殊ナラスト雖モ、唯臣民ノ之ヲ訴フル
 權利ヲ以テ、決シテ其當然ノ權利トナサス、特ニ國君ノ慈惠ニ出ル者ト
 ナセハナリ、

○ブラックストン
 [按] 英人一千七百二十三年ニ生レ、八十年ニ死ス、ノ英法論ニ云、人若シ所有ノ

事ニ就テ、國君ノ事ヲ訴ヘント欲セハ、カソツライホフ
 可シ然ルキハ法官臣民ノ權利ヲ以テ、國君賜フ所ノ慈惠ト視做シテ、
 之ヲ保護シ、且、國君ノ此臣民ニ對セル義務ハ法ノ嚴ニ命スル所ト爲
 サス、特ニ國君慈惠ヲ臣民ニ施スカ爲、ノ務トナス」ト、蓋シブラッソ
 氏ノ說ハ、ブツヘンドルフ
 〔按〕獨乙人、一千六百三十二年ニ生レ、九十四年ニ死ス、カ唱ヘタル、考察
 性法論ス、ナルマインントリヘ、チ因襲スル者ナリ、其論ニ「賢明ナル君主ハ、
 敢テ臣民ニ對シテ、其約束ヲ破ルチ欲セサルハ、固ヨリナレトモ、縱令ヒ若シ
 之ヲ破ルコアリトモ、臣民タル者、上チ要シテ、此約束ヲ遂ケントスルハ、
 大ニ性法ノ理ニ戻レリ」ト云ヘリ、去レモ其論中相矛盾スル所アルハ、辨
 チ僕スシテ明ガナリ、〔按〕論中相矛盾スルト云ヘルコト甚シ難シ、但シ
 令ヒ約束ヲ破ルコアリトモ、賢明ノ君ハ、約束ヲ破ルチ欲セスト云ヒナカラ、縱
 ハ、即相矛盾スル所以ナル歟、猶再考ス可シ、
 〔第五〕刑法ノ事ニ就テハ、私法ノ事ニ於ケルカ如ク、國君ノヒスクス、若ク
 ハチヒールリステチ以テ、國君ニ代ハルヘキ者ト爲ス可ラス、何者、ヒ

スクス、チヒールリステ等ノ如キ物ハ、固ヨリ罪ヲ犯スヘキ者ニアラス、
 且、國君ニ罰ヲ加ントスル法院ハ、素ト國君管下ニ屬スル者ナルカ故ニ、乃チ
 下ニシテ上チ罰スルノ理ニシテ、甚々良法ト云フ可ラス、且、縱令ヒ法ノ良否
 ナ問ハス、敢テ之ヲ行フモ、君主ヲ罪犯人トシテ、之ニ刑ヲ加フルハ、其下
 タル者實ニ忍フヘカラサルノ極ニシテ、且、之ニ由テ大ニ君主ノ威嚴ヲ
 損シ、大ニ國家ノ安寧ヲ害スル患アレハナリ、○君主一罪アルニ方リテ、
 設、措テ之ヲ問ハサルキハ、必、其弊害ナシト云フ可ラス、去レモ問ハサルモ
 リ、生スル弊害ヲ以テ、君主ニ刑ヲ加フルヨリ生スル所ノ弊害ニ比シテ、
 之ヲ考フレハ、則問ハサルヨリ、生スル害ハ尙小ナリ、若シ君主ノ罪狀ヲ舉
 テ、之ヲ罰スルキハ、是ニ因リテ、遂ニ全國ノ秩序ヲ破リ、安寧ヲ害スルニ
 至ラント必セリ、是故ニ近今ノ法ニテハ、君主刑法ノ事ニ就テハ、全ク保
 任セスシテ、可ナルノ規律ヲ保守ス、
 〔第六〕政令ノ處置ニ就テモ、亦方今各國ノ國法、皆全ク保任セサルノ規律

六ノ下二四

ナ用フ、去レ此規律ヲ用フルノ意、並ニ其體裁ニ至リテハ、舊羅馬ニテ此規律ヲ用ヒシ意、並ニ其體裁トハ、全ク相異ナリ、

羅馬ニテハ君主ハ敢テ憲法ノ爲ニ限制セラレヌシテ、可ナル者ト爲セシカレ、方今無限ノ君權アラサル各國ニテハ、全ク此意ヲ取ラスシテ、君主ナル者ハ、必國憲及ヒ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ負荷セル者ト爲ス、故ニ此事ニ就テハ、方今ノ立憲國、皆共ニ羅馬ノ君權無限ノ法ヲ棄テ、而シテ日耳曼ノ法ヲ取テ、君主ハ國家法制ノ範圍中ニ於テ、其頭首ニ位スル者トシテ、必先ッ其法制ニ從テ、自己ノ權柄ヲ施行シ、且ッ其ニ其法制ヲ保護セサル可ラサル者ト爲スニ至レリ、○各國皆君主自カラ許可シテ、此ノ如キ義務ヲ負荷セサル可ラサル者トセリ、故ニ國憲誓約ヘルハッスングスナ遵奉スヘキ旨ヲ述ル誓約コロームングス及ヒ登祚誓約アイド〔按〕國憲ナ旨ヲ述ル誓約ナ及ヒ登祚誓約ナ祚ノ時ニ於テ爲ス所ノ誓約ナ〔按〕登ナヲ以テ之ヲ天神及ヒ人民ニ誓フテ常法ト爲ス、若シ君主ヲシテ現存ノ法ヲ遵守セシムルノ方法、愈少ナケレハ此ノ如キ制度、〔按〕誓約ヲ爲スノ制度、愈緊要ニシテ、且ッ良善

六ノ下二五

ナリトス、何者、此ノ如キ制度ハ、君主ヲシテ、義務ノ必守ラサル可ラサル所以ヲ辨識セシメ、以テ大ニ其心ヲ獎勵スルニ足レハナリ、

〔第七〕英國ノ國家學者、國君ノ國憲憲法及ヒ慣用法ヲ遵守スヘキ義務ト、其不保任ノ制度ト、全ク矛盾セサル理ヲ、明示セント欲シテ、「國君ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハス」ト云ヘリ、去レ此全ク取ルニ足ラス、蓋シ此語ノ意、國君ヲ以テ、完全具備、一點ノ過誤ナキ人ト爲ス者ニシテ、猶加特力教徒ノ教皇ヲ以テ、大成至聖一小瑕ナキ人ト爲スカ如シ、是レ即君職純清ナル所以ノ理、及ヒ君主政體完全ナル所以ノ理ヲ以テ、之ヲ體軀ヲ備ヘタル君主ニ移スナリ、○既ニ巴力門ハ此理ニ由テ、國君ノ言行ヲ誹謗セシ徒ヲ、屢繫獄ノ刑ニ處セシマ之アリキ、

○〔按〕蓋シ本文謂フ所「君職ハ、極メテ純清ナル者、君主政體ハ、極メテ完全ナルハ、固ヨリナレ、是唯十全ノ理ノミ、然ルニ此十全ノ理ヲ取リ、以テ活體ヲ具ヘタル君主ヲ論スルハ、甚誤ルト謂フヘシ、活體アル者

六ノ下二六

ハ終始十全ノ理ニ合スル者ニ非ラスト云フノ意ナリ、
去レ此ノ如キ事ハ唯天理政體イデチカラチ一按一實ニ國家ニ主タル
ノ國ニ適應ス可クシテ君主國ニハ決シテ適應セサルナリ、學者縱令百
方辨チ費シテ此ノ如キ理チ主張セント欲スルモ素ト古今萬國ノ事蹟及ヒ
天賦ノ人性ニ戻レル論ナレハ決シテ其非チ掩フ能ハス總テ人ノ良知
ノ許可セサルヲ以テ國法上ノ規律ト爲サント欲スルハ譬ヘハ猶霧霞
ノ上ニ宮殿チ造ルカ如シ其危殆固ヨリ言チ俟タス○君主若レ一小事チ
モ爲シ能ハサレハ必ス又一不正チモ爲シ能ハサル可シ君主木偶ニ同シ
ウシテ全ク他人ノ爲ニ其權チ竊マル、歟否ラサレハ君主自己ノ意思
チ以テ國家ノ治安チ謀ラント欲スルモ力及ハサルカ爲ニ遂ニ他人ニ
其權チ奪ハレテ奮ニ國事ノミナラス亦一身ノ事スラ尙之チ自在ニ爲
ス能ハサルニ至レハ君主ハ敢テ不正ノ事チ爲ス能ハスト云フモ可ナリ、
去レ此事體此ノ如キニ至リテハ君主ノ君主タル權力ハ全ク亡滅シテ一

六ノ下二七

ツモ存スル所ナシ故ニ「君主敢テ不正ノ事チ爲ス能ハス」ト云フ語言ハ、
君主タル者國家ノ政權チ一身ニ統一スル所以ノ條理ト全ク相矛盾ス
ルヲ明ニシテ且ツ君主及ヒ國家ノ爲ニ甚ク弊害アリ「君主ハ敢テ不正ノ事
チ爲ス勿レ」ト云ヘハ眞ニ當理ノ確言ト云フ可シ、
〔第八〕是故ニ君主不保任ノ法チ立ルヤ決シテ君主ノ身完全具備シテ、
一點ノ過誤ナキチ以テスルニアラス唯方今ノ世君主ノ上ニ位シテ之
チ審判スル所ノ法院ナキチ以テナリ且ツ又君主チ罪犯人トシテ之ニ刑
チ加フルキハ之ニ由テ生スル所ノ國家ノ災害タル實ニ君主ノ一二暴
業ヨリ生スル弊害ヨリモ更ニ甚クキチ以テナリ○若シ各國ノ上ニ位ス
ル大法院アリテ能ク各國君主ノ正邪曲直チ審判シ且ツ又此審判ノ爲
ニ國亂ノ生スルヲアルニ方リテハ能ク之チ制壓スルノ權力チ備フレ
ハ中古羅馬獨乙合國ノ制ニ倣テ不保任ノ法チ廢スルモ之ニ由テ災害
ノ生スルヲ決シテ有ル可カラス後世法理眞ニ開明スルニ至レハ遂ニ

六 能ク此ノ如キノ法モ行ハル可ク、且之ニ由テ君主ノ權力モ亦、強大トナルニ至ル可シ、蓋總テ保任ノ法ハ、人ヲシテ邪惡ヲ爲サシメサルニ足ルノミナラス、却テ亦舉措處分ヲ、自由ニナサシムルノ良法ナレハナリ、○英

國ニテハ、國君不保任ノ法ヲ立ルトイヘ、其ミニステルヲ舉ルニ方リテハ、必^ス巴力門多數ノ信スルト、否トテ視テ、然後ニ之ヲ舉ク、然ルニ北亞米利加ニテハ、大統領保任スルノ法アレ、其ミニステルヲ任スルニハ、敢テ代國府ノ信否ヲ窺ハスシテ、自由ニ之ヲ舉ク、又佛國ニテハ、曾テ不保任ノ權ヲ握リタル君主スラ、爲シ能ハサリシ事ヲモ、保任ノ義務ヲ負ヘル大統領ハ、却テ能ク自由ニ處分シ得タリキ、○

○路易那破倫（按）那破倫第三世ナリ、一千八百五十二年嘉永五年一月十四日ノ布告書ニ、左ノ旨ヲ述ヘタリ曰ク、「君主不保任ノ法ハ、嘗テ三次ノ顛覆ニ於テ、滅絶セシ者ナルヲ、猶此ノ如キ制度ヲ立テ、之ヲ國憲ニ載スルガ如キハ、實ニ民心ヲ欺クト云フ可シ」ト、去レ佛國ニ於テモ亦、保任ノ法、

決シテ眞ノ制度ト稱スルニ足ル地步ヲハ、占メサリキ

君主及^ヒ國家共ニ、天神ニ對シテ其所爲ヲ保任セサルノ理ハ、決シテアルヘカラス、且^ッ人世ニ於ケルモ、一時ハ能ク其所爲ノ非ヲ掩ヒ得ヘキモ、永世遂ニ之ヲ匿ム^{コト}能ハサルハ、必然ノ理ナレハ、君主不保任ノ規律ハ、實ニ君主國ノ條理ニ於テ、緊要ノ事ト云フ可カラス、止方今列國法、未完全ノ地位ニ至ラサルカ故ニ、君主保任ノ法ヲ用フルキハ、之ニ由テ國家ノ大騷亂ヲ生シ、其害却テ不保任ノ法ヲ用フルヨリ起ル所ノ害ヨリモ、更ニ倍蓰セ^ンコトヲ恐ル、カ爲^メ、已ムテ得ス、不保任ノ法ヲ用フルナリ、但不保任ノ法ト雖モ、決シテ全ク限界ナキニハアラス、必^ス之ヲ限制スル者ナシト云フ可ラス、其故ハ何ソヤ、君主實ニ此權利ヲ特^ニ、苛酷暴虐ヲ恣行スルキハ、臣民敢テ之ニ恭順セス、遂ニ顛覆ヲ謀リ、以テ嚴罰ヲ君主ニ加フルニ至レハナリ、

六 九二下
九 〔第九〕方今各國皆共ニ君主不保任ノ制度ヲ用フルハ、羅馬ノ國法ニ同シ

ト雖也又別ニミニスレル保任ノ制ヲ立テ以テ君主不保任ノ弊害ヲ救
 フカ故ニ羅馬ノ法トハ全ク同シカラス、
 立憲國ニ於テハ君主政令ヲ施行スルニ就テ必スミニスレルノ輔翼ヲ假
 ラサルヲ得スト爲ス是ニ於テミニスレル必ス政令ヲ保任スルノ法ヲ立
 テ政令若シ國憲及ヒ憲法ニ悖戾スルヲアルキハ則シミニスレルヲ以テ必ス其
 罪ヲ負當セサル可ラサル者ト爲ス是ヲ以テ不保任ノ權利ヲ有セル君
 主モ亦此法ノ爲メニ牽制セラレ自ラ不正ヲ爲ス能ハサルニ至ルナリ、
 蓋シミニスレルナル者君主ノ自ラ爲セル不正ニ代テ甘シテ其罪ヲ受ル
 者ハ殆ト希レナルニ由リテナリ○輓近スウエネローチテリートノ理大ニ開
明セシ以降古時日耳曼ニテ用ヒタル君主保任ノ制度ノ非ナルヲ知テ
遂ニ之ヲ廢シ之ニ代ヘテ君主不保任ノ法トミニスレル保任ノ法トヲ
並用スルニ至レリ此法創立セシ以來君權強大ニ過キテ其限界ヲ踰越
スルカ如キ弊熄ミ君主及其寵遇ヲ得タル黨與ニ至リテモ生平敢テ違

法戻典ノ擧アルコトナク且ツミニスレルモ亦現在ノ形勢ニ著眼シテ能ク
 細心ニ事ヲ處置スルニ至レリ故ニ此法アリト雖モミニスレル罪ヲ得
 テ審判ヲ受ルカ如キハ世甚ダ罕ニシテ却テ君主及ヒミニスレル等ヲ獎
 勵シテ心ヲ其義務ニ竭サシムルニ至レリ○但シ又此法立テシカ爲ニ君
 主ナル者保任ノ義務ヲ抱ケルミニスレルノ輔佐ヲ假ラスシテ恣ニ事
 ヲ設施シ且ツ臣民モ亦自然ニ之ヲ默許シテ其非ヲ論セサルカ如キ弊害
 全ク無シトハ云フ可カラス○又時アリテハ此法アルカ爲ニミニスル
 ル等ノ威權却テ君主ニ超過シ君主ハ徒ニ虛器ヲ擁キテ實權ハ全クミ
 ニスレルノ掌中ニ歸スルカ如キ弊害モ亦全ク無シトハ云フ可カラス、
 卷之四第二十一款及ヒ卷之七、
 第五第六款ヲ參看ス可シ、
 既ニ一二ノ國ニ於テ此ノ如キ弊害ノ生セ
 シコアリキ、

○佛國ニテ一千七百九十三年寛政八月十日ノ事〔按〕此時佛國ニ顛
 於テ路易第十六ニ起ルニ方リ衆人國君〔按〕路易第十六ナリ、
 迫リテ幽囚シタリ起ルニ方リ衆人國君〔按〕路易第十六ナリ、

カ爲、顛覆黨ヲ敬視セル者ト嘗テ相結ヒシヲ知リシ後、コンヘント
〔按〕議、ニ於テ君主保任不保任ノ制度ニ就テ、盛ニ激論アリシカ、暴
黨遂ニ此議ヲ決シ、國君ヲ黜ケ併セテ王位ヲ廢シタリ、

〔第十〕方今ノ諸民主國ニテハ、政府ノ主長、及ヒ其職員、共ニ必ス保任スル
ノ規律ヲ用フ、

私法ノ事ニ於テハ、主長職員、兩ナカラ皆尋常ノ法院ニ於テ、之ヲ審判シ、
且ツ刑法ノ事ト雖モ、尋常ノ罪科ハ、必ス通例ノ法ヲ以テ審判ス、○私事ニ
於テ不正ヲ爲セルニ方リテハ、其審判ノ法、全ク尋常ノ私人ニ異ナラス、職
官ノ故ヲ以テ、決シテ他法ヲ用フルコトナシ但シ官事ノ不正ヲ以テ、之ヲ審
判スルニ至リテハ、民主國ト雖モ、亦必ス別法ヲ用フ、蓋シ職官ノ威權、是ニ
由テ滅殺セシコトヲ恐ル、ナリ、若シ此ノ如キ官事トイヘニ必ス常立ノ法
院ニ於テ其審判ヲ行フコトハ、法院ノ威權自ラ政府ニ超過スルニ至リ、國
家ノ序次、甚ク錯亂スト云フ可ク、且ツ常立ノ法院ハ、政務ニ密涉セル事件

ニ就テ審判スルニハ堪ヘサル者ナリ、卷之七第六款 事理此ノ如キヲ以
テ、瑞士國ノ國憲ニテハ、政府其政令ノ施行ニ就テハ、專ラ立政府ニ對シ、
保任スルノ規律ヲ立ツ、即チ政令權柄ヲ掌握スル徒、立法權柄ヲ掌握スル
者ノ、審判ヲ受ルナリ、○又北亞米利加ニテハ、統領及其他ノ職員、罪犯ア
ルニ方リテハ、下院之ヲ訴ヘテ、上院之ヲ審判スルノ規律ナリ、○

○ 譬ヘハ、チエリフ 邦〔按〕瑞士合、ノ邦憲第十四條ニ云、「若シ邦憲、憲法或ハ
職務ニ悖戻セル處置アルキハ、ゴローセル、ラート
ルングスラート、〔按〕政、及ヒオーベルゲリフト
府ナリ、院ナリ、ニ將來ノコトヲ戒
諭シ、或ハ其職員ヲ召シテ、之ヲ審判ス」ト、○又瑞士合邦ノ國憲第七十四
條ヲ參看ス可シ、

○ 亞米利加合邦ノ國憲第一款第三條ニ云、「獨リセナート
國事ニ就テ審判スルノ權アリ、同上第二款第四條ニ云、「統領、副統領、及ヒ
其他諸政官、叛國ノ罪ヲ犯シ、或ハ賄賂ヲ貪リ、又ハ其他ノ重罪ヲ犯セ

ルカ爲ニ下院之ヲセナドトニ訴フルキハ其職ヲ放ツ可シト、○又佛
 國一千八百四十八年嘉永ノ國憲第六十八條ニ云「統領及ヒミニステル
 ハ自己ノ職掌ニ係レル事ハ、統テ之ヲ保任スヘシ、又九十一條ニ云「ナ
 チオナールヘルサムルンダ、〔按〕議、ヨリ統領、或ハミニステルノ罪狀
 チ訴フルキハ、オーベルステル、ゲリフツホフ〔按〕最高之ヲ裁決ス可
 シ、敢テ之ヲ他ノ法院ニ委スルヲ無ガル可シ、又九十二條ニオーベルス
 テル、ゲリフツホフノ官員ハ、法官五名、ゲスナルチ〔按〕重刑ヲ施スニ
 德望アル者數員ヲ擧テ、之ニ其罪ノ有無輕
 重ヲ商議セシム、之ヲゲスナルチト云フ、三十六名ナリト、

第十四款

丙 施政ノ權利、レギールン

外權、ステルヘルトレンーツ

〔第一〕國家ノ元首ハ、國家ニ代ハリテ、其尊榮、權利、及ヒ威力ヲ、他列國ニ示ス者

ナリ、而シテ其規律ニ於テハ、方今君主國民主國共ニ、大抵相同シ、唯君主ノ
 威權ハ、民主國元首ノ威權ニ比スレハ更ニ大ナルノミ、
 是故ニ公使〔按〕ノテ、チ外國ニ差遣シテ、之ヲ信任シ、或ハ外國ノ公使ヲ受ケ
 テ、之ヲ認ムル等、内外ノ公事ヲ掌ル權利、全ク元首ニ在リ、去レテ君主敢テ
 ミニステル〔按〕外務ニ、ニ輔佐ヲ假ラスシテ、公使ヲ選任シ、或ハ其章
 程ヲ設立スルヲ許サス、但シミニステルノ擧ント欲スル者ハ、君主之ヲ信
 セスト雖モ、強ヒテ聽從スルノ理ハ、決シテ有ルコトナク、又ミニステルノ爲メ
 ニ阻攔セラレテ、親ラ我公使ニ接遇スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ル
 ヘカラス、加之、立憲國ノ法ニテハ、君主敢テミニステルノ補佐告諭ヲ俟
 タスシテ、自ラ内外ノ情實ヲ觀察スルヲ許ス、唯内外交際ノ事ヲ決定ス
 ルニ方リテハ、必ミニステルノ許可ニ頼ラサルヲ得ス、○君主、外國ト事
 チ論定スルカ如キハ、必ミニステルノ輔佐ヲ假ルニアラサレハ、之ヲ擧
 行スルヲ許サス、去レテ外國朝廷若クハ其政府ノ情實、事體ニ就テハ、君主

六三下ノ六

直ニ其報告ヲ得テ、毫モ妨ケナシ、

國內ニ於テ君主ヲ除クノ外、自ラ外國ノ公使ヲ認ムル者、絶ヘテ是レ有ラス、君主ノ信任ヲ受ケスシテ、能ク公使ノ職掌ヲ施行スル者、亦絶ヘテアルコトナシ、總テ列國交際ノ大事件ハ、獨リ國家ノ元首、及其全權ヲ委任セラレタル者、能ク之ヲ掌ルヲ得、唯既ニ條約、ヘルト、慣用法、ヘルコ、或ハ憲法上、預メ載定セル民間私事、ブリハ、及ヒ警保事務、間ノ安寧平穩等ヲ警保スル事務ナリ、卷ノ七、第二ニ屬セル小事ノ處置ニ至リテハ、列國下等ノ官吏互ヒニ國界等ニ相會シテ、專對議定ス、○但シ縱令此ノ如キ小事ト雖モ、元首或ハ自ラ之ヲ措置セント欲スルモ、下等官吏ノ之ヲ掌ルヲ停ムルノ權アリ、即チ卑權ハ高權ニ對シテ、其勢力ヲ失フナリ、

〔第二〕君主ハ、宣戰講和ノ權利ヲ掌握ス、但シ此事ハ全ク國家ノ掌ル所ナレモ、君主必之ヲ一身ニ統轄スルナリ、故ニ黨人或ハ軍隊、君命ヲ俟クヌシテ、能ク外國人ト爭端ヲ開ク可シト雖モ、敢テ戰爭ヲ宣告スルヲ得ス、又

六三下ノ七

君命ヲ俟スシテ、能ク休戰スヘシト雖モ、敢テ和ヲ講スルヲ得ス、○若シ立法府ヲシテ、直ニ宣戰講和ノ義ニ參預セシムルモ、政府ノ權、殆ト立法府ニ移ルニ至ルヘシ、故ニ歐洲各國ニ於テハ、實ニ害アリトス、蓋シ立法府ニテ、此等ノ商議ヲ爲スモ、ハ、動モスレハ、敵國ノ利トナルコト多ク、自國ノ利トナルコトハ、殆罕ナリ、○今日下ノ事ニ應ジ、之ヲ處置スルニ方リテハ、必シ其情實事體ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ之ヲ決定シ、而シテ議既ニ決定セハ、時ヲ費サス、神速ニ之ヲ舉グルコト、甚ダ緊要ナリ、然ルニ立法府ノ如キハ、必シ黨論相分レ、商議輒ク一決セサルカ故ニ、此ノ如キ時ニ當テ、其情實事體ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ、之ヲ決定スルコト、甚難ク、且、既ニ決定スト雖モ、神速ニ舉行スルモ、亦甚ダ難シ、

但シ君主宣戰講和ノ事ヲ、獨決スルヲ得ルモ、君主ノ權甚ダ強大ニ至ルハ、論ヲ俟タス、而シテ其弊害ヲ數フレハ、君主若シ恣ニ無名ノ師ヲ興シ、或ハ無謀ノ戰ヲ開テ、若干ノ軍費ヲ要スルコトアルハ、民人必之ヲ償フノ義務

六ノ下三八

チ債ハサルヲ得ス、是時ニ至リ、立法府ニミステルノ罪、チ擧ケ、之ヲ罪スルモ、既ニ許多ノ人命ヲ殘ナヒ、若干ノ財用ヲ費シ、及ヒ國家ノ安寧ヲ傷リシチ如何セン、且ツ勢既ニ此ノ如クナルニ至リテ、軍費ヲ納ル、チ肯セサルハ、義ニ於テ爲ス可カラサル所ナリ、但シ假令ヒ義不義ハ措テ論セサルモ、若シ之ヲ肯セサルノ機アルキハ、君主兵力ヲ以テ、暴ニ臣民ニ迫ルチ如何セン、蓋シ獨リ君主宣戰講和ノ權ヲ專ラニスル、其弊ノ底ル所、大凡此ノ如シ、實ニ輕忽ニ考フ可カラス、去レ且又政府此ノ如ク無名ノ軍ヲ興シ、無謀ノ戰ヲ開クニ方リテハ、立法府能クミニステルノ罪ヲ責問スルノ權利アリ、此權利アルノ利タルヤ、實ニ少カラス、蓋シ立法府此權利ヲ握ルカ故ニ、政府亦能ク深謀遠慮シテ、敢テ輕舉妄動ノ事ヲ爲サス、且ツ立法府ノ衆論、政府ト相悖ルコト甚ダシキトハ、能クミニステルチ退黜セシムルニ足ル、故ニ是ニ由テ、遂ニ能ク廟謨ノ方向ヲ變改セシムルコトアリ、〔按〕蓋シ君主宣戰握スルノ弊害、必ス無シト云フ可ラス、去レ且若シ立法府チ此權利ヲ掌ラシムルトキハ、其弊害更ニ甚ダシ、是故ニ立法府ニ此權利ヲ與ヘサル

ナリ、

講和ノ事ハ、管ニ戰爭ヲ罷ムルノミニ止マラス、又此事ニ由テ、兩國ノ際、將來永續スヘキ規律ヲ立ルコト屢之アリ、是故ニ講和ノ約、又一種ノ國約スダラツヘトナリ、而シテ國約ノ規律ニ由テ限制セラル、

民主國ニテハ、宣戰講和ノ權、若シ政府ニアルキハ、是ニ由テ政府ノ威力、甚ダ強大ニ至ランコト恐ル、是故ニ北亞米利加合邦ノ國憲ニテハ、宣戰ノ權利ヲ以テ、〔按〕立法府ニ委テ、而シテ講和ノ權利ヲ以テ、統領ニ

委テタリ、但シ預メセナリト〔按〕上院ノ決議許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スルチ得ス、蓋シ此法ヲ立ルノ意タルヤ、戰端ヲ開クチ以テ、民主國ノ爲ニ甚ダ

害アリト爲シ、和ヲ講スルチ以テ甚ダ害ナシト爲シ、且ツ宣戰ノ事ハ、勉メテ爲シ難シ、講和ノ事ハ、勉メテ爲シ易スルチ以テ、良善ノ事ト爲シタルナリ、○瑞士合邦ノ國憲ニテハ、宣戰講和ノ二權利ヲ以テ、單ニブンデスヘルサムルンク〔按〕立法ニ委ヌ、

六ノ下三九

六ノ下四〇

六〔第三〕外國ト盟約ニツシ、及國約ヲ結フノ權利、亦元首ノ自ラ掌握スル所ナリ、縱令元首此權利ヲ施行スルノ全權ヲ握レル國トイヘ、亦自ラ之ヲ限制スル所ナキニアラス、何者、外國條約ト、國內ノ法ト、相關セル規律ニ至リテハ、必立法府之ニ預ラサルコトナク、且二三ノ國ニ於テハ、其國憲中、故ラニ外國條約ニ關セル規律ヲ載定スレハナリ。

○瑞典國ノ國憲第十二條ニ云、「君主外國ト盟約ヲ結フノ權利ヲ掌握ス、但シ必預メ外國事務ヲ掌レルミニステル、及ヒホフカンツレル

議ヲ聽カサル可カラス、○荷蘭ノ國憲第五十七條ニ云、「君主講和ノ約及ヒ外國ト諸條約ヲ結フノ權利ヲ握ル、○若シ條約ノ旨趣、國家ノ大事ニ關ス可シト思フコトアルキハ、必之ヲケテラール、スターテン

ノ兩院ニ告諭ス可シ、○若シ歐洲若クハ他洲ニアル所ノ荷蘭ノ版圖ヲ分割シテ、之ヲ外國ニ與ヘ、或ハ之ヲ外國所轄ノ地ト交易スルノ條約ヲ結フ歟、若クハ此條約中ニ、從來憲法ニ於テ定メタル權利ヲ改革シ

テ得スト、

シ、或ハ別ニ新法ヲ立ル等ノ條件アルキハ、必先ツ之ヲゲテラール、スターテンニ告諭シテ、其准可ヲ得ルニアラサレハ、君主恣ニ條約ヲ結フ

第十五款

丁 施政ノ權利、レギールン

内權、インテレ

施政ノ權柄ハ、徒ニ各殊ノ權利ヲ集成統合セル者ニハアラス、實ニ一點ノ中心ニ充積圓滿セル國權ノ、分レテ各殊ノ權利トナリ、煥然ト諸方向ニ於テ、發耀スル者ナリ、譬ヘハ、猶一點ノ光暉、其線ヲ六隅ニ映射シテ、饒ス所ナキカ如ク然リ、○君主國ニテハ、君主乃一點ノ中心トナリテ、國權ヲ一身ニ収攬撮合ス、故ニ君主ハ、立法權柄ニ於テ、實ニ示案ノ權利ニシテ、之ヲ商議セシムルノ權利ヲ握ルノミナラス、兼テ亦決定ノ權利ヲ決定シテ、眞法ト爲スノ權利ヲ握ル、故ニ獨リ君主法案ヲ查定シ

六ノ下四一

テ、之ヲ眞ノ憲法ト爲シ、而シテ直ニ之ヲ公告ス、是レ君主乃國家ノ中心トナ
 リテ、昭々タル一致和同ノ德光ヲ、其身上ニ彰ス者ナリ、○君主ハ、立法府
 ノ首領ナルヲ以テ、此府ノ議定ニ於ケル、或ハ決定シ、或ハ決定セサルノ
 權アリ、兼テ又施政權柄ヲ掌握スル者タルヲ以テ、其決定セル法ハ、直
 ニ之ヲ公告シ、以テ臣民ヲシテ、之ヲ遵奉セシムルノ權アリ、卷之五第十
 一款ヲ參看
 ス可シ、然ルニ民主國ニ於テハ、此制度全ク相異ナリ、例ヘハ北亞米利加ノ如
 キハ、統領決定ノ權ヲ握ルト雖モ、君主國ノ全キカ如クナラス、唯大ニ局促
 セル拒絶ノ權利ヘト、〔按〕立法府ノ議ヲ
 拒絶スルノ權利ナリ、テ掌握スルノミ、又瑞士國ノ如
 キハ、政府絶テ決定ノ權ヲ握ル能ハス、唯示案ノ權ヲ握ルノミ、但シ憲法ヲ
 公布スルノ權ニ至テハ、諸民主國ニ於テモ、全ク政府ニ在リ、
 其他君主内權ヲ施スノ權利ヲ以テ、決シテ單ニ行法權柄ホルチーヘン
 デ、ゲワルト、
 ト、爲ス可ラス、必シ獨立獨行シテ、能ク國家ノ秩序ヲ整理シ、臣民ヲ指揮シ、
 兼テ又保護シ、及ヒ監督誘導スル諸權柄等、悉皆君主ノ掌中ニ在リ、○凡

ソ國家ノ安寧ヲ保チ、及ヒ諸權利ヲ保護スルニ就テハ、殊ニ日々轉化ス
 ル所ノ形勢ニ、仔細ニ著眼スルコト、必要ナルヲ以テ、是等ノ諸件ハ皆專ラ
 君權ノ負荷スル所ナリ、故ニ憲法ナル者ハ、唯日常政令權柄ノ發動スル
 區域ヲ定メテ、決シテ之ヲ超ユルコト能ハサラシメ、且ツ政令施行ノ方向ヲ
 與ヘテ、常ニ之ヲ失ハサラシムルニ在ルノミ、現ニ政令ヲ施行スルノ事
 ニ至リテハ、獨リ君主能ク事情ヲ酌量シテ、自由ニ之ヲ爲スコト、固ヨリ當然
 ナリ、

是故ニ左ニ舉ル所ノ數件ハ、特ニ君主ノ主持スル所ナリ、

第一 授官ノ大權、アムツホ
 ーハイト、

君主ハ、國家諸職官ノ資テ擬ムル所ナリ、故ニ國家諸職官、一モ君主ノ授
 任ニ由テ、出テサル者ナク、亦君主ニ從屬セサル者ナシ、往昔既ニ此事ノ
 緊要ナル理ヲ知り、是ニ由テ大ニ國家ノ和同ヲ鞏固セシカニ、實ニ此理
 ノ明亮トナリシハ、全ク近今ノ君主國ニ在リ、又此理ニ循テ、諸職官中互

六ノ下四四

ニ亦其等級高卑ニ由リ、次第ニ高等ニ從屬スル、固ヨリ當然ナリ、
 立憲國君主握ル所ノ授官ノ大權ハ、其規模甚大ナリ、官等高ウシテ、愈君
 位ニ近ケレハ、君主ノ權愈自由ニ之ヲ黜陟スルヲ得、殊ニミニステルノ
 如キハ、君主ヲ輔佐シテ、其改令ニ參與スル者ナレトモ、之ヲ黜陟スルハ獨リ
 君主ノ自由ニスル所ナリ、○賢明ナル君主ハ、唯自己ノ偏見ヲ用ヒ、或ハ
 好惡愛憎ニ由リテ、ミニステルヲ舉ルコトナシ、必先ツ國家ノ爲ニ謀リ、
 實ニ其任ニ堪ユヘキ人物ヲ選任スルヲ本旨トナシ、且ツ政府ト立法府ト、
 其間能ク相和スルコト、甚ダ緊要ナルカ故ニ、必ス立法府ノ信ヲ得タル者ヲ、
 選任スルヲ以テ本旨トスルハ、固ヨリ、論ヲ俟タズ、去レトモ君主立法府ノ
 信不信ヲ窺ヒ、或ハ好惡等ニ隨テ、ミニステルヲ黜陟スルノ義務ヲ負フ
 カ如キハ、斷然アラサル所ナリ、唯現任ノ立法府、若ハ將來任スヘキ立法
 府ニ、信セラレヘキ人物ヲ撰テ、之ヲミニステルニ任スルハ、則チ政^ポチ^ック、ノ
 巧ミナル者ナリ、何者、立法府ノ政府ヲ惡ムコト、甚ダシキニ過ルトキハ、之ニ

六ノ下四五

由テ、政府ノ威權大ニ痿痺振ハサルニ至レハナリ、但シ君主敢テ立法府ノ
 薦舉ヲ希フニアラス、必ス自ラ舉任スルナリ、○舊ミニステルヲ罷メ、新ミ
 ニステルヲ舉ルニ方リテハ、君主之ヲ舊ミニステルニ議シ、其連署ヲ得
 テ、之ヲ舉ルト通法ナレトモ、此事決シテ必要ノ法ト云フニ足ラス、若シ舊ミニ
 ステル、君主ノ舉^ケント欲スル人物ヲ肯セサルコトアラハ、新任スル所ノミ
 ニステルヲシテ、自ラ其選任ニ連署セシメテ可ナリ、舊ミニステルノ肯
 ノセサルカ爲メ、君主自ラ舉^ケント欲スル人物ヲ、舉ル能ハサルノ理ハ、萬
 々有ルコトナシ、立憲國ノ法ニ於テハ、ミニステル選任ノ事ニ就テモ亦、之
 ヲ保任スル者、一人アレハ、則足レリトス、
 其他ノ官員ヲ選任スルニ至テハ、君主獨リ之ヲ專ラニスル能ハス、必スミニス
 テルノ贊輔ヲ假ラサルヲ得サルナリ、但シミニステルノ薦ムル所ノミチ
 取テ、之ヲ任スルヲ要スルニアラス、又能ク必ス其任ニ堪ユヘキ者アルヲ
 知ラハ、自ラ之ヲミニステルニ詢リ、或ハミニステルノ薦ムル所、若シ自己

ノ意ニ適セサレハ、之ヲ拒ム、固ヨリ自由ナリ、○能ク注意シテ、此ノ如キ權ヲ施行シ、以テ其任ニ堪ユヘキ人物ヲ簡ンテ、之ヲミニステルニ任スルハ、古來賢明ノ君主ノ獨能ク爲ル所ナリ、故ニ縱令君主他ニ如何ナル權利ヲ握ルモ、唯之ニ由テノミ、大ニ國家ノ安危盛衰ヲ生スルニ至ラズ、大ニ國家ノ安危盛衰ヲ生スル所以ノ者ハ、唯君主ノ聰慧ト否ラサルニ由ルノミ、

合衆國ノ統領、其諸官員ヲ選任スルノ制度モ、大概亦之ニ同シ、唯別種權要ノ職官ヲ選ムハ、統領獨リ之ヲ授任スルヲ得ス、必ス先ツ之ヲセナート上院ナニ諮リ、其許可ヲ得サル可ラス、但シ下等ノ官員ヲ選任スルニ至リテハ、〔按〕兩院ナリ、此權ヲ以テ、單ニ統領或ハ法院、ツホフ、若シハ諸省ノ長官ニ委附ス、○瑞士國ノ法ハ、諸職官ヲ授任スルノ事ニ於テ、大ニ政府ノ權ヲ限制シ、多クハ代國府、若シハホルクヲシテ選任セシム、但シ此制度アルトキハ之ニ由テ、遂ニ諸職官中ニ朋黨起リ動モスレハ、政府ノ一和

ヲ傷リ、且ツ政令諸務ヲ施行スヘキ諸官員、皆上權ヲ侮慢シテ、之ニ恭順セサルカ故ニ、政府ノ氣力遂ニ痿痺シテ、振ハサルニ至ルノ害アリ、甚恐ル可シ、

○北亞米利加合邦憲グンデスヘルハッスング、ホソ、ノールドアメリカ第二章第三條ニ云、

統領
心ナートト議シテ、左ノ諸官ヲ授任ス、即チ公使、及其他外國ニ遣スヘキ
ミニステル〔按〕上ニ云フ所ノミニ
ス〔按〕通常領事官ト譯ス、並ニ上等法院ノ法官、其他未ク曾テ國憲或ハ憲法ニ於テ、授任ノ制度ヲ載定セサル諸職官等是ナリ、但シ縱令此諸職官ト雖モ、〔按〕コングレスニテ樞要トセサル身官ナレハ、統領及ヒ法院、或ハ諸省ノ長官等ニ命ヲ傳ヘテ、之ヲ授任セシム可シト、○又佛國一千八百四十八年嘉永ノ國憲第六十四章ニ云、統領自由ニミニステルヲ黜陟ス、但シ其他高官ノ黜陟ハ、之ヲミニステルニ議シ、身官ハ其省ニミニステルノ建白ニ因テ、之ヲ黜陟ス可シト、

第二 授譽ノ大權、エトレンホ

貴爵、ア、イ、デル、〔按〕通例、勳爵、ナル、デル、〔按〕通例、國事、軍事、及ヒ學術等ニシテ、其人ノ終、品階、ハ、英國ノ如キハ、上等ノ勳功ヲ奏セシ者ニ與フル爵ニ身ニ止マル、品階、ハ、英國ノ如キハ、上等ノ勳功ヲ奏セシ者ニ與フル爵ニ階アリ、及ヒ稱號、殿、下、閣、下、等、ノ如キ者、並ニ官名ヲモテ、ハ、皇國ノ後、功勞アリシ官吏ニハ、退職ノ等ノ如キ、總テ臣民ノ名譽顯榮ヲ表スル者ハ、通常君主ノ授クル所ナリ、臣民ノ勳勞ヲ鑒定シテ、之ヲ敬重スルハ、實ニ君主ノ美麗ナル特權ト云フ可シ、君主此一難術〔按〕即臣民ノ勳勞位ヲ授テ、チ舉行スル、其宜シキヲ得ルハ、大ニ臣民道義ニ進ムノ心ヲ獎勵シ、且ツ臣民ヲシテ、實ニ愛國ノ志ヲ奮起セシムルニ足ル、蓋シ此ノ如クナルハ、天神ノ好ント善徳ヲ賞スルノ心ニモ、亦能ク協合スト云フ可シ、○然ルニ二百年以來、延寶天和以降、各國君主、恣ニ濫賞ヲ行ヒシヨリ、其弊風今仍革マラス、之レカ爲、指紳家ノ風俗習慣頹敗シテ、其爲ス所兒戲ニ異ナラス、遂ニ眞ニ國家ノ爲ニ其身ヲ勞セント欲スル者ナキニ至レリ、故チ以テ賢君英主時ニ世ニ出テ、此弊ヲ矯メント欲スルモ、陵夷ノ

久シキ之ニ服スル者多カラサレハ、又如何ヒス可ラス、豈歎ス可キノ極ニアラスヤ、既ニ歐洲大地ノ數國ニテハ、君主臣民ニ賜フ所ノ榮譽ハ、却テ侮辱ノ表記ノ如ク、若シ此榮譽ヲ得テ、高貴ノ人トナルハ、即其負罪ノ明證ヲ公示スルカ如ク見ユルニ至レリ、○今世ハ漸ク虚ヲ賤シミ、實ヲ貴ムノ時トナレハ、君主此權利ヲ施スニ於テモ、古時ノ如ク先ッ能ク其勳勞ノ虚實ヲ鑒定シテ、然後ニ之ヲ施行スレハ、甚ク可ナリ、決シテ全ク此權利ヲ廢棄スルヲ要セス、

○ 那破倫第一世カエーレンレギチン〔按〕勳爵ナリ、チ設立セシハ、蓋シ能ク

此理ヲ知レハナリ、既ニ一千八百四十八年ニ於テ、嘉永元年、佛國民主政體ヲ復セシ時ニハ、衆論頗ル貴爵ヲ惡ミシカレ、其國憲第百零八章ニ、仍チ此エーレンレギチンチ存スル旨ヲ記載セシハ、那破倫ノ卓見ヲ證スルニ足ル、蓋シエーレンレギチンノ如キ勳爵ノ具存スルハ、自ラ人々榮譽ヲ貪ルノ情起リテ、頻リニ之ヲ求メント欲スルニ至ルハ決シテ

疑フヘキニアラス、去レレ今日ニ在テハ、人性未タ全ク此情ヲ脱スルニ至ラス、加之此情却テ人々ノ相競フテ、勳功ヲ奏スヘキ一具トナル者ナレハ、今殿ニ此情ヲ奪ハンヨリハ、寧之ニ良好ノ目的ヲ與ヘテ、以テ立功ノ一要具ト爲スチ善シトス、○那破倫カシント、ヘレナニ於テ著セル書中ニ、勳爵ニ就テ左ノ如ク云ヘリ、曰「太古ノ善良ナル民ヲ治メシ術ヲ取テ、以テ今時ノ老衰セル民ヲ治メント欲スルハ、甚ダ不可ナリ、今時ノ民、専ラ國家ヲ愛テ、一身ヲ顧ミサル者ハ、實ニ百千萬人中僅ニ二人ニ過キス、其餘ハ皆自己ノ身ヲ愛シ、自己ノ利ヲ貪リ、自己ノ榮ヲ謀ルニ汲々タル者ノミ、凡、工人ハ、其己ニ屬スル所ノ材ヲ、恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス、余曾テ君主政體ヲ恢復シ、勳爵稱號等ヲ復興セシハ、余カ秘策ニシテ、全、此理ニ出ルナリ、○佛國今世ノ開化ヲ考フルニ、民人各衆人ノ爲ニ尊崇セラル、チ欲シ、且ツ他人ノ爲ニ尊敬セラル、徒ノ、自ラ亦尊敬スルヲ許ス、一、一般ノ情意ナリ」ト

〔按〕以上那破

倫ノ語 ○凡ソ稱號ヲ好ムノ情意アルハ、支那人ヲ除クノ外、獨乙人ヲ以テ最モ盛ナリトス、然ルニ一千八百四十八年、嘉永元年、フランソホルトニテ獨乙各國會議ノ時ニ於テ、其代議者等職掌ヲ帶ヒサル稱號〔按〕職掌ナキ官名ニシテ、唯、ハ、必ス廢スヘキ旨ヲ論シタリ、即チ獨乙人甲極ニ尊稱トナル者ヲ云、ハ、必ス廢スヘキ旨ヲ論シタリ、即チ獨乙人甲極ニリ俄ニ轉シテ、乙極ニ飛行セリ、實ニ驚クニ堪ヘタリ、〔按〕獨乙人ハ、素情意盛ナリシニ、俄ニ此ノ如キ論ヲ立テシハ、全ク元來ノ情意ニ相反スルヲナルカ故ニ如斯云フナリ、

○〔按〕本文凡ソ工人云々ハ、蓋シ「人君ノ民ヲ治ムルヤ、猶工人ノ工事ヲ營ムカ如シ、工人其工ヲ施サント欲セハ、必先己レニ屬スル所ノ材ヲ恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス、人君其民ヲ治メント欲セハ、必先其情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ術ヲ知ラサル可ラス、余カ君主政體ヲ恢復シ、勳爵稱號等ヲ復興セシハ、即チ佛人ノ情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ秘策ナリキ」ト云フノ意ナリ、當路者宜シク注目スヘキ所ナリ、

第十六款

第三

兵馬ノ大權、ミリテール、ホーハイト、

君主ハ軍政ヲ統掌スル所ノ首領ナリ、故ニ親ラ海陸二軍ヲ統轄シ、軍兵ヲ徵募シ、其將校ヲ選任シ、而シテ將軍ニ號令ヲ委任シ、城郭堡塞ノ建築ヲ命ジ、及ヒ兵器戰艦ヲ監督ス、

中古ノ世ニハ、貴戚豪族亦各兵ヲ備ヘクリシカモ、此ノ如クナルモ兵權大ニ分レテ、國家ノ一致和同ヲ損シ、其害遂ニ國內ノ和平ヲ破ルニ至ルヲ以テ、今世ハ決シテ此ノ如キヲ許サス、號令ノ一途ニ出ルハ、軍隊ノ勢力ヲ盛ニシ、及ヒ其目的ヲ確定スルニ於テ、甚ダ緊要ナルコトナリ、軍隊ハ、單ニ君主ノ號令ノミニ肅遵スヘキ旨ヲ誓ハシムヘキヤ、將兼テ國憲ヲモ遵奉スヘキ旨ヲ誓ハシム可キヤ、其可否ニ至リテハ、今時仍論說紛然トシテ、未タ一定セス、君主若シ自己ノ權力ヲ恣ニナシ、國憲ノ條規ト相戾レル廢置ヲ以テ、其軍隊ヲ使令セント欲スルコトアルモ、此論

實際上ニ於テ大關係ヲ生ス、○今他ノ情實ニ關セスシテ、只自由ニ論スルモ、國憲誓約ヘルハッスングアイド、〔接〕國憲ノ文中ニ、軍隊ハ敢テ國憲ニ悖戾セル所業ヲ、助ケサル旨ヲ載定スルコト、甚ダ緊要ニシテ、自カラ君主ヲシテ、輒シ國憲ノ規律ヲ破ル能ハサラシムルニ足ルカ如シ、去レモ軍隊ヲシテ單ニ君主ノ號令ニ肅遵スルノミナラス、亦兼テ國憲ヲモ遵奉スルノ誓約ヲ爲サシムルモ、軍隊乃チ重複ノ義務ヲ負フノ理ナルカ故ニ、軍情自ラ岐分シ、法令自ラ錯亂シ、其一致和同破レテ、勢ヒ遂ニ相爭鬪スルニ至ルノ害アルヲ知ラサル可ラス、○軍隊ハ、素ト唯號令ヲ奉シテ、一ニ之ヲ肅遵ス可キ者ニシテ、決シテ之ヲ是非スヘキ者ニアラサレハ、軍隊自ラ號令ノ善惡良否ヲ考思シテ、然後ニ之ヲ遵奉ス可キト、否トヲ定ムルヲ許スカ如キハ、甚ダ害アリ、○今世ノ如ク、人々自在ニ事ノ善惡良否ヲ評論スルヲ得ルノ時ニ於テハ、殊ニ害アリトス、○軍隊既ニ國憲誓約ヲ爲スト雖モ、必、君主ノ號令ヲ嚴奉スルハ、決シテ背ク可ラサル

六ノ下五六

スル者ハ、即チミニステル〔按〕兵部ミニ或ハ元帥コムマンダーノデグ子ラル、ナリ、其號令ヲ遵奉スヘキ將校及ヒ兵卒等ハ、決シテ保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、○但シ若シ誓約ニ就テ、國憲中ニ他ノ意ヲ詳載シ、以テ軍隊中ニ不和ヲ生スルノ害ハ、君主ノ兵權ヲ弄スルノ害ヨリモ、却テ小ナリトセバ、他ノ論旨自ラ當理トナル可シ、○

○即瑞典ノ國憲ノ如キ是レナリ、其第三十八章ニ云「國君ヨリ出ス所ノ號令ハ、其布令ヲ掌ル者、之ニ連署シテ保任スルヲ要ス、但シ此者國君ノ決定スル所、國憲ニ悖戾スルヲ知ラハ、必ス之ヲスターツテ、〔按〕國政ヲ參議ニ質ス可シ、王若シ猶其決定スル所ヲ遂ケント欲シテ止マサル官、敢テ之ニ連署セサルノ權利、及ヒ義務ヲ得ヘシ、但シ此ノ如クナルハ、此者必ス其職ヲ退ク可シ、而シテ其後ライフスステンデ〔按〕立法院、其論ノ是非當否ヲ判決スルニ至ル迄ハ、敢テ再任ス可ラス、去レテ其官俸ハ未タ奪フ可ラス」ト、

六ノ下五七

君主ハ徒ニ大元帥ノ號ヲ有スルヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必ス親ラ六軍ヲ統御シ、兵權ヲ以テ實ニ之ヲ一身ニ綜歸ス可シ、〔按〕非的利第二世フリートの普魯士王ナリ、曰ク「英明ナル君ハ、必ス親ラ六軍ヲ號令ス可シ、六軍ハ即チ君主ノ京都ナリ、君主ノ利益ナリ、君主ノ義務ナリ、君主ノ榮譽ナリ、其他千萬ノ事故ニ由テ、君主ハ、必ス親ラ六軍ヲ號令セサル可ラス」ト、是故ニ君主ハ、必ス君主ノ職ヲ以テ、六軍ヲ號令スル者ナリ、君主若シ六軍ヲ號令スルノ器アララスシテ、親ラ六軍ニ臨ムハ、大ニ謀ヲ誤テ、遂ニ六軍及ヒ國家ノ敗亡ヲ速クニ至ル、豈恐レサル可ンヤ、凡ソ政府ノ權力ヲ、務メテ微弱ニセント欲スルハ、今世ノ民主國ヨリ甚クシキハナシ、是ヲ以テ政府主長〔按〕統領ノ類、若シ兵權ヲ掌握スルハ、大ニ之ヲ恣ニシテ、其威權遂ニ國君ノ如クナルニ至ラン、イテ恐レテ、此念慮ヲ放擲スル能ハス、一統領ヲ主長トセル民主國ニ於テハ、殊ニ然リトス、○是故ニ北亞米利加ニテハ、管ニミリツ〔按〕有事ノ日ニ臨テ徴集スル兵隊、〔按〕編制

六ノ下五八

スルノ權ノミナラス、亦之ヲ徵集シ、及ヒ叛賊ヲ平定スルノ權等、總テ皆コ
 ングレス〔按〕立法ニ在リテ、統領ハ僅ニ小數ノ常備兵、及ヒ合邦ノ軍艦
 ナ都督スルノミ、其他各邦ノミリツツニ至リテモ、コングレス之ヲ徵集ス
 ルニ非レハ、統領決シテ之ヲ號令スルコト能ハス。○佛國民主國ヨリシ時ニ
 ハ統領軍隊ヲ調理スルノ權ヲ有セシカモ、親ラ之レカ元帥トナリテ、號令
 スルノ權ハナカリキ。○瑞士國ニテハ、ブンデスヘルサムルング〔按〕立法
 府ナリ、
 閉會ノ時ニ於テハ、ブンデスラート〔按〕政能ク軍兵ヲ徵集スルノ權ヲ
 握ル、但シ之ヲ使役スルノ時間久シキヲ要スル歟、若クハ徵集スル所ノ
 兵數二千人ヲ超ユル時ニ於テハ、必スブンデスヘルサムルングヲ集會
 セシメ、而シテ此府ノ會議ニテ、軍隊ヲ調理スルヲ俟ツヲ要ス、
 第四 警保ノ大權、ポリツアイホ
 總テ國家警保ノ事ハ、皆ニ君主ノ名ヲ用ヒ、其指揮ニ隨テ之ヲ施行スル
 ノミニ止マラス、時宜ニユレハ、君主親ラ此事ヲ施行スルヲ要ス、但シ其

時宜ナル者ハ、殆希ナリ、即國家大危難ノ事起ルニ方リテ、之ヲ救防スル
 ヲ要スル時、若クハ通常警保官吏ノ爲ス、所ヲ監察シテ、其擅恣ヲ防止ス
 ルヲ要スル時、云フナリ、○日常警保ノ事務ニ至リテハ、殆、涯際ナシ、決
 シテ一人ノ能ク爲スヘキニアラス、故ニ別ニ官吏ヲ置テ、間斷ナク此事
 務ヲ行ハシム、是故ニ警保ノ理、及ヒ其制ニ至テハ、次卷ニ於テ更ニ詳論
 ス可シ、〔按〕卷之七、第八、第
 九ノ二款ニ詳論ス、

第十七款

第五 司法ノ大權、ユスチツツホ

太古中古ノ世ニハ、君主親シク最上等ノ法官トナリテ、獄訟ヲ總掌セリ、
 是ヲ以テ獨乙帝ハ、獨乙各國君主ノ司法ノ權ヲ保護シ、且ツ之カ嚮導トナ
 レリ、故ニ帝各國ヲ巡行スル時ニ於テ、親ラ其法院ニ臨ミ、輒獄訟ヲ掌レ
 リ、而シテ是時ニ方リテハ、地方ノ法院ハ、必、其權ヲ失ヘリ、

然ルニ輓近一二百年前ヨリ此法一變シ君主決シテ獄訟ノ本務ヲ掌ラ
 サルノミナラス此職務ニ關係スル所ノ君權モ亦殆ト消滅シテ此職務遂
 ニ全ク法官ノ手ニ移ルトナレリ但此法官ハ君主ヨリ其職掌ヲ受ケ
 且君主ノ名號ヲ以テ獄訟ヲ掌ル者ナリト雖モ必不羈獨立スル者ニシ
 テ決シテ君主ノ指揮號令ヲ奉シテ其職ヲ掌ル者ニアラス○是故ニ獄
 訟ノ事ハ悉ク君主ヨリ出ツト云ヘル古言ノ意今世ニ在リテハ大ニ變
 換シ且其意ノ涉ル所モ甚限局スルニ至レリ世人動モスレハ君主ハ全
 シ獄訟ノ事ヲ知ラサルヲ以テ善シトスル者アリ果シテ然ラハ頗ル君
 主國ノ理ニ戻ルト云フ可シ其故ハ何ソヤ凡ソ國家ノ職官君主ノ統下
 ニ屬セサル者一ツモアル可キノ理ナキニ因テナリ○輓近ニ至リテハ
 法官獄訟ノ事務ヲ行フノ實事上ニ於テ君主ノ指揮ヲ遵奉スルノ法ハ
 全ク廢亡セリ蓋確然タル法律アリテ緊ク法官ヲ束縛シ決シテ其擅行
 ヲ許サハルヲ以テ此ノ如クナルヲ要スルナリ君主若實ニ獄訟ノ事ヲ

掌ルハ其強大ナル威權ヲ恃テ遂ニ獄訟ノ公正ヲ害シ以テ法律ノ正
 理ヲ紊スニ至ル可シ○是故ニ立憲君主國輓近ノ制ハ君主親ラ獄訟ヲ
 掌ルノ法ヲ廢セシカモ法官ハ尙君主ヨリ其職掌ヲ受ルト且其形貌ニ於
 テハ必君主ニ從屬スルノ規律ニ至テハ永存シテ亡フルヲナシ○〔接〕
 於テ君主ニ從屬スト云フハ即實事ニ於テ君主ニ從屬スルノ反對ナリ
 實事ニ於テ君主ニ從屬スルハ必君主ノ命令ヲ遵奉セサル可ラス故
 ニ本文ニ論スルカ如キ害アリ

○瑞典一千八百零九年文化ノ國憲第十七章及廿一章ニ據レハ其君
 主親ラ最高等ノ法院ニ參列スルノ權アリ他ノ立憲國ニテハ絶テ無
 キ所ナリ

然リト雖モ其他司法ノ權ノ尙君主ノ掌握ニ在ル者左ノ數條ニ舉ルカ如シ、
 ①國憲並ニ獄訟ニ就キ遵守スヘキ憲法ノ區域内ニ於テ獄訟ノ總
 規則ヲ示令スルノ權利君主ノ手中ニ在リ、
 ②法官ヲ任シ其職權ヲ授ルノ權利亦君主ノ手中ニ在リ但シウールダ

イレルシニハ、及ヒゲスナルヲニ預ル者ナリ、卷之八ニ詳ナリ、如キハ、必シモ司法ノ職權ヲ有スル者ニアラス、唯時アリテ、法院ニ列シ、法ヲ論スル者ナリ、故ニ法官トハ全ク其歸ヲ殊ニス、故ニ君主是等ノ者ヲ授任スルハ、必緊要ノ事ニアラス、加之、獄訟ノ事ハ、務メテ公明正大ヲ貴フト云フノ理ニ據テ、之ヲ考フレハ、則君主是等ノ職任ヲ任スルハ、尤モ良善ノコニアラス、

四 審判斷定セル事ハ、必君主ノ名號ヲ以テ、之ヲ示命シ、且ツ施行ス、蓋シ君主自ラ國家ノ正義公直ヲ保護スル所以ノ理、茲ニ於テ發顯スルナリ、

○ 普魯士國ノ國憲第六十八章ニ云、「憲法ノ外、決シテ他ノ權ニ從屬セサル法官ナル者、君主ノ名號ヲ以テ、司法ノ權柄ヲ施行ス、○斷定セル事ハ、國王ノ名號ヲ以テ、之ヲ施行ス、」ト、

三 獄訟ノ處置如何、其次第如何、國家秩序ノ保護如何、獄訟ニ係レル

文書如何、並ニ司法省コスタツ、ミニステリウム、〔按〕直ニ獄訟ヲ司及、其屬司ニ於テ、右文書ノ處置如何ヲ監察探索スルノ權利、皆君主ノ手中ニ在リ、又總テ獄訟ノ事ニ就テ其官吏ヲシテ、形勢表ヲ作り、之ヲ報知セシムルノ權利、亦君主ニ在リ、

四 國家ノ安寧ヲ破リ、及ヒ政令ヲ害スル罪犯者アルニ方リテ、政府ノ權力ニアラサレハ、之ヲ追捕スル能ハサルキハ、則追捕ノ命ヲ下スノ權利、特ニ君主ニ在リ、蓋シスターツアーンワルト〔按〕追捕ノ權ヲ掌レル官ナ

リ、詳ナルコトハ卷之八、第カ、常ニ視察スル所ノ區域ハ甚ダ狭ウシテ、高遠ナル治術ニ著意セサル者ナレハ、動モスレハ、其勉力スル處、却テ宜キニ適セス、或ハ甚ダ急劇ニ失シ、或ハ甚ダ緩慢ニ流レ共ニ國家ノ害ヲ生シ、易シ能ク此弊ヲ防クハ、獨リ君主ノ力ニ在ルノミ、何者、君主ハ

總テ治體ノ諸關係ヲ徧察シテ、洩ス所ナキヲ以テナリ、
四 刑法ニ關セル審問ヲ停止スルノ權利、亦君主ニアリ、○ 但シ正義公

直チ害セサランカ爲ニ、必、此權利ニ就テ、限制スル處アルヲ要ス、

○普魯士ノ國憲第四十九章ニ云、「獨リ君主既ニ就緒セル審問ヲ、

別格ノ憲法ニ從テ停止スルノ權ヲ握ル」ト、然ルニ巴以里ノ國憲

第八款第四章ニ記ス所ハ之ト相反ス、曰ク、「君主決シテ就緒セル

審問ヲ停止スル能ハス」ト、

○罪科ヲ減シ、及ヒ赦スノ權利、亦君主ニ在リ、凡ソ人ヲ憐ムノ情ハ、素

良心ニ備ハル者ニシテ、君主仁恤ヲ以テ、罪科ヲ減シ、或ハ赦スノ權

利ハ、既ニ時勢ニ愜ハサル法ノ刻薄ナル所ヲ和厚ナラシメ、及ヒ硬

固ニシテ、變通シカクキ法ヲ、今日千狀萬態ノ景況ニ隨テ、變通セシ

ムルニ、缺ク可ラサル者ニシテ、蓋、君主ニ此權利アルハ、實ニ君主國

ノ、大ニ他ノ政體ニ優ル所以ナリ、○君主ハ決シテ親ラ人ヲ罪スル

能ハス、法官之ニ代リ、君主ノ名號ヲ以テ、憲法ニ由テ人ヲ罪ス、去レト

モ君主ハ反テ、親ラ人ノ罪ヲ赦スヲ得ルナリ、君主若シ婦人ノ仁ヲ行

フトハ、甚、國家ノ安寧秩序ヲ傷ル可シ、去レト寛裕ノ心ヲ以テ、眞ノ仁

恤ヲ行フトハ、更ニ國家ノ安寧秩序ヲ堅固ナラシムルニ足ル、○仁

恤ノ處置ト雖ヒ、亦法ニ合セサル可ラサルヲ以テ、立憲君主國ニ於テ

ハ、必、ミニステルノ連署ヲ取ルヲ緊要トス、

○マルチン、ルテル〔按〕獨乙人、一千四百八十三年ニ生レ、五百七十

年ニ死ス、加特力教ノ大ニ基督ノ本旨ニ背クヲ

歎シ、別ニ波羅特士且教ノ曰ク、「仁恤ト法律トハ、君主必、之ヲ行フ

一派ヲ立テシ宗祖ナリ、曰ク、「仁恤ト法律トハ、君主必、之ヲ行フ

可シ、君主絶、テ赫怒ノ威ヲ震ハス、空シク姑息ノ小惠ヲ施ストハ、管

ニ王室ノミナラス、其弊ノ及フ處、國國民人、亦悉ク化シテ惡人トナ

リ、且、禮儀廉恥地ヲ拂フニ至ル可シ、又若シ君主宜シク怒ル可ラサル

ニ、却テ憤怒ヲ逞フシ、無益ノ刑ヲ濫施スルキハ、遂ニ苛酷ノ政令行

ハレ、實ニ神ヲ敬スル善人スラ、尙之ニ恐怖シテ、一日モ安居スル能

ハサルニ至ル可シ、ハイデ〔按〕眞神ヲ知ノ言ニ、嚴刻ナル法律ハ、大

ニ不正ノ法ナリ」ト云ヘリ、余又之ニ加ヘテ言ハシ、「無益ノ仁恤ハ、大

ナル不仁ナリ」ト、○父ノ子ニ於ケルノ理ニ同シ、凡ソ人ノ父タル者、絶テ其鞭策ヲ加ヘス、其放恣ノ行ヲ縱セハ、却テ是レ不慈ノ尤モ甚シキ者ト云フ可シ、何者、若シ此ノ如クナルキハ、其子悛ムル處ナク、遂ニ重刑ヲ蒙ルニ至ルハ、必然ニシテ、即父自ラ之ヲ殺手ニ附スルニ、異ナラサレハナリ」ト、

田死刑ノ施行ヲ許可スルノ權利、亦君主ニ在リ、故ニ君主自ラ之ヲ許可セサレハ、敢テ死刑ヲ行フヲ得ス、蓋シ臣民ノ生命ヲ敬重スルニ於テ、至要ノ規律ナリ、

四斷定セル刑罰ヲ施行スヘキ命令ヲ下スノ權利、君主ニ在リ、

四法院ニテ訴訟ヲ採用セス、或ハ其裁斷ヲ怠ルコトアルニ方リテ、訟者之ヲ君主ニ訴フルコトアルハ、直ニ命令ヲ法院ニ下シテ、其審判ヲ促シ、或ハ政務ニ就テ起レル訴訟ヲ、裁決スルノ全權ヲ任スルノ權利、又ハ獄訟事務ノ妨害ヲ、除去スルノ權利、皆君主ニ在リ、

四負債返償ノ延期ヲ許スノ權利、君主ニ在リ、道理ヲ辨別セサル債注アリテ、國內災厄ノ時ニ當リ、甚ダムヲ得サルニ非スシテ、暴ニ負債者ニ迫リ、償還ヲ促スニ違ヘハ、君主已ムヲ得ス、其權ヲ私法ノ區域ニ施シテ、償還ノ延期ヲ許スヲ得ルコト、甚ダ緊要ナリ、○此權利ハ、始テ羅馬ニ起立シ、其後獨乙帝國ノ國憲ニ於テ、帝ノ特權トシテ、載定セシカ、爾來獨乙各國ノ君主モ亦、此權ヲ掌握シテ、動モスレハ之ヲ濫用シタリキ、抑、此權利タルヤ、實ニ全ク廢ス可ラスト雖モ、然レモ、素、一時債主ノ權利ヲ奪フコトナルカ故ニ、必ス熟慮シテ、眞ニ已ムヲ得サルノ時ニアラサレハ、決シテ之ヲ施行ス可ラス、是故ニ必ス別ニ一法ヲ設立シ、以テ君主ノ特有セル、此權利ヲ限制ス可シ、且若シ別種ノ憲法ヲ以テ、此權利ヲ施行スル所ノ國ニ於テハ、兼テ立法者〔按〕即立法府ノ權ヲモ、必ス限制スルコト緊要ナリ、

但シカビテ、ツ、ユスチツ〔按〕君主親テ獄訟ノ諸制ハ、既ニ全ク廢止セリ、

六ノ下八

方今ノ民主國ニ於テ、獄訟ノ事ハ、通常全ク政府ニリ分隔シ、形貌ニ於テモ、亦全ク政府ニ從屬セサル者ト爲ス、古時主長ノ司法權柄ニ就テ、掌握セシ諸權利中、今僅ニ存スル者ハ、司法職官ヲ授任スルノ議ニ預ルノ權利、罪人ノ追捕ヲ命スルノ權利、及ヒ斷定セシ所ヲ施行スルノ義務等是レナリ、
○但シ合衆國ニテハ、政務ニ於テ犯セシ罪科ノ外ハ、統領其罪ヲ減シ、及ヒ之ヲ赦スノ權利ヲ握ル、佛國民主政體ノ時ニ於テモ亦、此權利ヲ握リタリキ、瑞士國ノ政府ニハ、全ク此權利アルコトナシ、

第十八款

第六 財務ノ大權、ヒナンツ、ホ

國家ノ需要ヲ供給シ、及ヒ之ヲ供給セシカ爲メ、國家ノ所有ルモノ、
管理シ、稅餉ヲ收取シテ、之ヲ公費ニ供用シ、及ヒ歲入歲費ヲ算計スル等ノ事務モ、綜テ亦必、君主ノ統括スル所ナリ、此事ニ於テハ、民主國ノ制度

ト雖、亦甚、君主國ニ異ナラス、民主國ニ於テモ、財務ハ亦必、一途ニ出テサルヘカラサル所以ト、且、其規律ノ完全具備セサル可ラサル所以ヲ知ル、是ヲ以テ眞ノ權柄ニ係レル事務ハ、國民決シテ全ク之ヲ政府ニ委託スルナシト雖、財務ニ至テハ、大抵政府ニ委託シテ、國民之ニ關ント欲スルノ情意ヲ抱クコト少シ、
〔按〕財務ノ權ハ、他ノ諸權ノ命令、指揮、保護等給テ、主トナスカ故ニ、權柄ノ意自ラ少シ、是ヲ以テ眞ノ權柄ニ係レル事務ト、分別スルナリ、

第七 監臨ノ大權、オ、ベル、ア、ウ、フ

監臨ノ權ハ、他ノ施政權利トハ、全ク其趣ヲ異ニシテ、命令、指揮、保護等ノ如キ、眞ノ施政權ヲ行フテ先務トセス、今日現ニ實際ニ顯ハル、情實、事態ヲ通察スルヲ以テ、先務ト爲シ、次テ右ノ施政權ニ及ホス者ナリ、是故ニ君主ハ、國家職官ノ規制職掌ヲ、監臨スル權アルノミナラス、又實ニ自主自立シテ、國家ノ訓督ニ賴ラサル、人物及ヒ事件
〔按〕私人、私ヲモ、兼テ總監スルノ權アリ、

六ノ下九

○七下ノ六

政府ハ其版圖内ニ起リテ國家ノ利病ニ係リ、或ハ國家ノ法制ニ關スヘキ諸事ヲ舉ケ、總テ之ヲ通察スルノ權ヲ有ス、○政府ハ右等ノ諸件ヨリ國家ニ忠害ノ生スルヲ深慮シテ、其安寧ヲ長全スルニ適當セル方法ヲ、機會ヲ失ハスシテ、設ケンカ爲、常ニ著意シテ、怠ラサルヲ要ス、古時佛朗哥國ニテ、發遣使ポンドヲ置キ、方今復各國ニ於テ、形勢官スダナセル、ブロン「按」版圖内チ置クカ如キハ、即君主監察ノ權ヲ施行センカ爲ナリ、殊ニ發遣使ノ如キハ、通常形勢表スダナヲ設ルノ外、更ニ親シク州縣ノ情實事體ヲ視察セシムルカ爲、必要ナル者タルヲ以テ、今時ト雖、此制ノ全ク亡ヒタルニハ非ス、○但、國家タル者臣民私事ノ秘密、及其親族間ノ秘密ヲ嚴密ニ探索シテ、遂ニ民人ノ自由ヲ妨ルニ至ル等ノ一ハ、敬テ爲ス可ラス、且、縱令ニ必要ノ事ト雖、之ヲ探索スルニ不正ノ術ヲ用フルハ、甚善カラス、其他國家ノ宜シク關係ス可ラサル事ニ關係シテ、遂ニ臣民ノ後見ベホールムノ如クナルニ至ルハ、又尤善カラストス、

殊ニ邑社ゲマインデ「按」卷及諸會社等ヲ創立スルニ、其事態、若シ國家ノ利害得失ニ關係スヘキ者アルトハ、政府必、其許スト否トヲ、考定ス可キヲ以テ、必預メ其情實事體ヲ、監察セサル可ラス、去レテ會社ヲ結フノ事、唯民人互相ノ私事ノミニシテ、絶テ國家ノ利害ニ涉ラサル者ナラハ、政府敢テ之ニ關ス可ラス、○

○羅馬帝國ノ法ニテハ、縱令ニ國家ニ利害ナキ會社ノ事ト雖、政府必、之ニ關シテ、人民ノ自由ヲ限制シタリキ、

第八 教育方法ノ監護、ソルゲ、ヒュール、ギー、ソル

一七下ノ六

國家ハ人材教育ヲ監護ス可シ、凡、學術諸科、大小學校ノ規制ノ如キハ、專ラ國家ノ設立スヘキ者ニハアラサレ、其良否得失、大ニ、國家ノ成敗ニ關係アルカ故ニ、必、之ヲ監護シテ、其弊害ヲ救ヒ、以テ教育ノ方法ヲシテ、國家ニ裨益アラシムルハ、實ニ政府ノ權利、及、義務ト云フ可シ、神教會ハ、國家ノ内外ニ通セル大會ニシテ、自ラ國家綱範ノ外ニ在テ獨

六ノ下七二

立スル者ナレハ、政府亦之ヲ監察シテ、其弊害ノ國家ニ及フヲ防止セサル可ラス、是等ノ事ハ、總テ第九卷ニ於テ詳論ス可シ、

第十九款

第九 權利施行ノ體裁、ホルメン、デル、ア、
即チ布告、ヘルオル、及ヒ命令、

以上論說スル所ヲ以テ、施政權柄全ク斯ニ盡セリト爲ス可ラス、上文論スル所ハ、所謂一點ノ中心ニ圓滿セル國權ノ、散シテ各殊ノ權利トナリ、發耀セル者ト云フ可キノミ、
〔按〕本卷第十五款、内ニ是故ニ此國權ハ國家ニ生スレハ、隨テ復其新方向ニ發耀ス、眞ニ無盡ノ泉源ノ如ク然リ、
施政權柄ヲ施行スルノ體裁、乃チ左ノ如シ、

甲 アルゲマイニス、ヘルオルドスング
〔按〕政府憲法許ス所ノ區域
内ニ於テ、徧ク令スル所ノ布

告、
ナ示シテ此權柄ヲ施行ス、
乙 事ニ當リ時ニ臨ミ、アーンオルドスング、ベヘール
〔按〕共ニ
命令ノ義、及ヒ

ヘルポット
〔按〕禁、
止ノ義、
ナ示シテ、此權柄ヲ施行ス、
卷之五第九款チ

甲行ニ舉ケタル布告ノ事ニ就テハ、既ニ上卷ニ論述セリ、
參看スヘシ、
乙行ニ舉ル命令、及ヒ禁止ノ如キモ亦、眞ニ政府ノ施政權柄ニ屬ス、○政府

チ以テ、獨リ更務ノミチ掌レル者ト爲シ、決シテ命令指揮ノ權柄ヲ握ルヘ
キ者ト爲サ、ルハ、乃チ當今ノ通病ニシテ、其義ノ害タル、甚クナラス、凡ソ國

家ノ國家タル所以チ、失ハサラント欲セハ、政府唯臣民チ訓戒說諭スル
等チ以テ、足レリト爲ス可ラス、緊要ノ事ニ至テハ、必共ニ確手不拔ノ威

嚴チ以テ、命令指揮ヲ出シ、臣民チシテ、必之ニ聽從セシムルノ權アラサ
ル可ラス、○政府ノ命令指揮ナル者ハ、即チベヘール
〔按〕命令ノ義、
アウフマラダ、
〔按〕委任ノ義、
レスクリプト、
〔按〕臣民ノ請願ニ
コンツエツシオン、
〔按〕請願ノ
評容、
パン

六ノ下七三

〔按〕嚴、ヘルボット、〔按〕禁止ノ義、及其他尙許多アリ、

○華盛頓ノ人ト爲リハ、國權ノ專恣ニ至ルヲ惡ム、尤甚ダシ、去レヒ一千七百八十六年、天明第六年第十月三十一日ノ書翰ニ、左ノ文ヲ述ヘタリ、足下余

ニ勸ムルニ、メッセチニセツツ、〔按〕合衆國ノ一部、ノ騷亂ヲ鎮定スルニ、政府宜シク訓

戒説諭ヲ用フ可シト云ヘリ、去レヒ余ハ訓戒説諭ヲ用フルノ方法、如何ヲ知ラス、縱令今之ヲ用フルノ方法アルモ、恐ラクハ此ノ如キ大騷亂ヲ鎮定スルニ於テ、適應セル妙術ト云フ可ラス、夫レ訓戒説諭ハ、決シテ政府ノ威權ト爲スニ足ラスト、○

○〔按〕メッセチニセツツニ騷亂起リシ時、其地ヨリ合衆國政府ニ請ヒ、訓戒説諭ヲ用ヒテ、和平ヲ謀ランコト欲セシ故、華盛頓之ニ答フル、注文ノ如シ、蓋シ華盛頓ノ意謂ラク、政府ノ權ヲ以テ、僅ニ訓戒説諭ヲ爲スニ過キストスルハ、甚ダ不可ナリ、此ノ如キ、大騷亂發ルニ方リテハ、政府宜シク其威嚴ヲ張テ、之ヲ鎮壓セサル可ラス、訓戒説諭ヲ用フ

ルカ如キハ、適政府ノ弱ヲ示ス者ニシテ、決シテ威權ヲ顯スニ足ラスト、信ニ確論ト云フ可シ、

政府此命令指揮ノ權ヲ、若クシ施行スルニ於テハ、必現存ノ國憲、憲法、及ヒ其他ノ規律ニ限制セラル、故ニ敢テ之ヲ毀損スルヲ許サス、又敢テ其區域ヲ超ユルヲ許サス、○政府ハ公益ノ爲メニ已ム可ラサル所アレハ、則チ必之ヲ施行スヘキ命令ヲ下ス可シ、但シ施行スル者ヲメ、必正善ノ方法ニ由ラシムヘシ、

此ノ如キ限制ハ、施政權柄ニ於テハ、立法權柄ニ於テヨリモ、施シ易ク、且速ニ施シ得可シ、○殊ニ法院ノ如キハ、其職掌内ニ於テ審判斷定スルニ方リテハ、縱令政府ノ命令ト雖モ、形貌或ハ事理ニ於テ、憲法ニ合セサル所アレハ、決シテ之ヲ遵奉セサル權アルノミナラス、尙且、其職掌當然ノ事ニ於テハ、全ク政府ノ意思ニ戻レル處分ヲ以テ、國家ノ法制秩序ヲ保護スルノ權アリ、○然リト雖モ、法院ハ、政府ノ監官トナリテ、專ラ政府ノ

六下七六

處分ヲ監督スルノ權アラズ、且ツ又政府ノ命令指揮、形貌事理ニ於テ、或ハ憲法ニ悖戾スルコトアリト、敢テ之ヲ審問スルノ權ナシ、○是故ニ、臣民政府ノ處置ヲ以テ、法院ニ控訴スルハ、通常許サ、ル所ナリ、卷之八第五款ニ於テ、猶詳論スヘシ、政府ノ下等官員ノ如キニ至テハ、其職掌ノ區域内ニ於テ、政府〔按〕スル等云、ヨリ命セラレシコトハ、事理上ニ於テ、縱令憲法ニ悖戾スル所アルヲ察ルモ、必之ヲ遵奉セサルヲ得ス、何者、下等官員ハ、全ク政府ニ從屬スル者ニシテ、決シテ獨立スル者ニアラサレハナリ、是故ニ此等ノ輩ハ、政府ノ處分ニ就テ、毫モ保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、實ニ保任ノ義務ヲ負フ者ハ、自ラ其事ヲ處分セル政府、即チミニステルナリ、卷ノ七第三款ニテ、參看ス可シ、但、國憲或ハ憲法等ニ於テ、儘全ク此規律ニ相反スルコトナキニアラス、

第二十款

第十 政府非常ノ權、アウスナームスレフ、即チ國家不得已ノ權、ト、ホソ、レギールンク、ト、ホソ、レギールンク、即チ國家不得已ノ權、ト、ホソ、レギールンク、

國家ハ、高尊ノ者ナルヲ以テ、之ヲ保護スルハ、乃チ政府ノ第一義務タリ、是故ニ國家ニ已ムヲ得サルノ事體、ノ大危亂ヲ云、〔按〕發スルニ方リテ、之ヲ救ハンカ爲メニハ、縱令民ノ私權利ヲ毀損シ、或ハ現存ノ法制秩序ヲ傷害スルモ、決シテ妨ナシトス、實ニ國家ノ大危亂ヲ救フニ於テ、他術アラサレハ、一二私人ノ權利ヲ枉ルハ、論スルヲ須ヒス、衆多群民ノ權利ト雖モ、必之ヲ壓抑セサルヲ得ス、〔國家ノ安寧健康ハ、至要ノ事ナリ〕ト云ヘル格言アルニ非ラスヤ、故ニ此安寧健康ヲ保ツニ、必要ナルコトハ、力ヲ極メテ爲サ、ル可ラス、但シ政府ヲ利シ、民ヲ害スルノ意ヲ以テ、民權ヲ犯スハ、極メテ不可ナリトス、

六下七七

〔第一〕所謂政府非常ノ權、即チ政府不得已ノ權ナル者ハ、全ク此理ヨリ生スル者ニシテ、所謂ホルク不得巳ノ權利〔按〕本卷第三款〔第一〕其理同一ナリ、〔按〕施行スル者ハ、全ク異ナレトモ、其國、但シ政府若シ此權ヲ施行スルハ、人民ノ權利、及自由ニ於テ、決シテ損害ナキヲ保ツ可ラス、且ツ若シ政府此權

チ施行スルヲ以テ、常規ト爲スルハ、其權遂ニ限制スル所アラヌシテ、全
 シ暴政ニ陷ルハ必然ナリ、故ニ平常ニ當テ、非常權ヲ施行スルハ、決シテ
 許サ、ル所ナリ、去レハ實ニ已ムヲ得サルノ事體發スルニ方リテハ、此權
 ナ用フルニアラサレハ、僅ニ其一部ヲ庇フカ爲ニ、全體却テ大災害ヲ被
 ルニ至ル、是故ニ此權決シテ缺ク可ラス、○船艦颶風ニ遇フテ、殆、遁ル、
 ノ術アラサルニ方リテハ、船長實ニ其職ヲ辱シメサルノ器アレハ、斷然
 船客ノ物品ヲ激浪ニ投シ、敢テ惜マス、又苦戰ノ時ニ於テ、數隊ヲ捨ルニ
 アラサレハ、決シテ全軍ノ捷ヲ奏スル能ハサル歟、若シハ全軍ヲシテ、妨
 碍ナク、退行セシムル能ハサルニ臨テハ、老成ノ將ハ、斷然數隊ヲ捨テ、
 敢テ願ミサルハ、必然ナリ、國家大危亂ノ時ニ臨ミ、君主タル者ノ處置、豈
 獨リ之ニ反スルヲ得ンヤ、〔按〕全體ヲ救ハシカ爲ニハ、已ムヲ得ス、
 治體ニ通曉セル國ニ於テハ、夙ニ此理ヲ辨識セシカ故ニ、既ニ國憲上ニ
 於テ、預メ此ノ如キ、非常權ノ制ヲ、設立シタリ、往古羅馬ニ於テ、ギクタト

ル〔按〕國家大危亂ノ時ニ於テ、一〔按〕時無限ノ大權ヲ掌握セル官、一〔按〕チ立テシハ、即チ此理ニ出ル者ニシテ、
 彼ノ「コンスラート」天下ノ事ヲ以テ、自ラ任スルハ、決シテ惡キコトニアラ
 ス、ト云ヘル規律ハ、實ニ確言ト云フ可シ、又非厄西亞ニ於テハ、國家大危
 亂ノ時ニ臨テハ、屢ニ數人共ニ國家ヲ救フノ權ヲ掌握シタリ、其他英國
 ニ於テハ、ヘアス、コルプスアツテノ規律〔按〕一千六百七十九年ニ於テ、
 スルキハ、必ス二十四字間ニ糾問ス可ク、決シテ之ヲ過コシ、長シク幽囚スル
 者ナリ、チ一時廢棄スルノ法、ス、ハ、ペン並ニ歐洲大地各國ニ於テ、ベテ
 ゲルングス、ツウスタンド及ヒスタンドレフトノ法、〔按〕共ニ守城、或ハ大
 暫ク常律ヲ廢シ、嚴密ノ處アルカ如キ、皆非常權ノ已ム可ラサルヲ以テナリ、
 置テ爲シ得ルノ法ナリ、
 君主國民主國ニ論ナク、絶テ已ムヲ得サル事體ノ生セサル理ハ、決シテ
 有ル可ラス、然ルニ儘其國憲上、全ク此非常權ヲ、設定セサル國アリ、或ハ
 能ク之ヲ設定スルモ、甚ダ細詳ヲ得サル國アリ、又ハ非常權ノ、遂ニ專横ニ
 至ランヲ恐レ、故ニ之ヲ禁スル國ナキニシモ、アラス、去レハ國家焉ソ

已ムヲ得サル事體ノ、絶ヘテ生セサル理アラシヤ若シ此ノ如キ國ニ於テ、一旦大危亂ノ生スルアルニ遇ヘハ、之ヲ救防スルノ術、殆ト難シ○但シ此ノ如キ國ニ於テモ、英邁ナル王公輔弼ハ、已ムヲ得サル事體ノ生スルニ遇ヘハ、必ス紙上ノ憲法ヲ捨テ、能ク天理法ナツールゲセツ、按ヲ取用シ、而シテ自ラ保任ノ義務ニ背イテ、破法ノ責問ニ違フテモ、顧忌セス、敢テ國家ヲ救フヲ以テ、其專任ト爲ス、[○]去レテ其勢已ムヲ得サルニ方リテハ、彼ノテクカトールノ無限權ヲ許スノ規律ヲ預メ國憲ニ載定セル國ニ於テ、事ヲ濟スニ比スレハ、其處分ノ難キ實ニ數倍ナリ、何者、臣民直ニ其處分ノ國憲ニ背ケルヲ責問スルコト、必然ナレハナリ、○然ルニ暗弱ナル王公輔弼ハ、國家内患外寇アルニ方リテモ、決シテ此ノ如キ勇斷ヲ爲スコト能ハスシテ、空シク國家ヲ亡滅ニ附シテ、救フ能ハス、

〔按〕ミニステルハ、政令ノ國憲ニ合スルヲ保任スルノ義務アルコト、既ニ本卷第十三款ニ詳論スルカ如シ、去レテ賢輔良弼ハ、此ノ如キ

時ニ臨ミ徒ニ國憲ヲ墨守シテ、國家ヲ危ウスルコトナク、必ス自己ノ名利ヲ棄テ、身命ヲ抛テ、國家ヲ救フヲ以テ、其專任ト爲ス、

〔第二〕非常權ヲ施行スルコトハ、已ムヲ得サルノ事體、既ニ發シタル時、若シハ未ダ發セサルモ、其機既ニ現然トシテ、遂ニ除ク可ラサル時ニ於テス可シ、唯國家全體ノ利益ヲ増進スルノ目的ヲ以テ、此權ヲ施行スルハ甚々非理ナリトス、何者、若シ唯國家全體ノ利益ヲ増進スル爲メ、非常權ヲ用フルヲ許スレハ、此權遂ニ常權トナルニ至ル可シ、此權若シ常權トナルキハ、國家ノ法制秩序モ、變亂ノ爲メ、遂ニ滅裂スルニ至リ、且シ自由ノ權モ、亦共ニ保存スル能ハサルハ、必然ノ勢ナレハナリ、○國家ノ法制、並ニ臣民ノ自由ヲ保護スルハ政府ノ常義務ナリト雖モ、此義務ヲ盡サンニハ、必ス現存ノ法ヲ守ラサル可ラス、

又非常權ヲ限制センカ爲メ、預メ已ムヲ得サル事體ヲ認定指示スルノ規律ヲ綿密ニ立テタル國アリ、即チ羅馬ニ於テハ、セナートノ議ヲ以テ、已

ムヲ得サルノ事體ヲ決定シ、英國ニ於テハ、已ムヲ得サルノ事體ヲ認定シテ、彼ノハベアス、コルプス、アクトテチ一時廢棄スルハ、獨リ、巴力門ノ權ニアルノ規律ヲ立テタリ、○佛國一千八百四十八年嘉永ノ國憲、第二百零六章ニ、唯憲法上ニ已ムヲ得サル事體トシテ、認定セル、景況ノ發シタル時ニ於テノミ、ベラーゲルングス、ツウスタグンド

〔按〕前ノ〔第〕チ用フヘキ旨ヲ載セ、復普魯士國ニテハ、戰爭及反亂ノ起リシ時ヲ以テ、已ムヲ得サル事體トナシ、而シテ此ノ如キ時ニ於テハ、國憲ノ二三條規ヲ、一時全ク廢止シ得ルコト爲セリ、○但、古來王公輔弼、實際ニ臨ミ、非常權ヲ施スニ方リテ、此ノ如キ限制ヲ拘守スルキハ、決シテ國家ノ急ヲ救フニ足ラサルヲ知リシ時ニハ、此限制ヲ超ヘテ、尙其歩ヲ進メタリキ、

已ムヲ得サル事體ヲ、指示スルノ規律ナキ國ニ於テハ、必ズ國家元首、之ヲ決定スルコト當然ナリ、但、立憲君主國ノ如キハ、此時ニ於テ、君主ト共ニ連署スル所ノミニステル、其處分ヲ保任スルハ、固ヨリ當然ニシテ且、預メス

ターツラート

〔按〕國政ニ參議スル高官、ニ謀レハ、更ニ善ナリ、○但、此決定ヲ以テ、國家元首ニ托シテ、代國府ニ托セサルハ、何ソヤ、蓋、代國府ハ、已ムヲ得サル事體ノ發スル時ニ臨ミ、必ズシモ現ニ集會スル者ニアラス、且、

代國府ハ、事情切迫ノ時ニ臨ミ、神速ニ救防ノ策ヲ運シ、以テ適宜ノ處分ヲ施スノ職官ニアラス、加之、決シテ此ノ如キ職掌ニ堪サルヲ以テナリ、○但、此權ハ政府ノ常權ト異ニシテ、素ト強暴ノ權ナルヲ以テ、政府若、已ムヲ得サルニ非スシテ、恣ニ此權ヲ施行スルコト、輒近獨逸各國ニ於テ、其政府恣ニ此暴權ヲ施行セシカ如クナルキハ、臣民塗炭ニ苦シムノ恐レ少カラストス、是故ニ政府此權ヲ施行スルニ方リテハ、必ズ兩院之ヲ監督スルノ權ヲ握ル、甚々緊要ナリ、

六〔第三〕縱令、事體已ムヲ得サルノ時ト雖、猶國憲憲法ニ悖戾セサル處分ヲ以テ、防護シ得ルノ術アル間ハ、決シテ非常權ヲ用フルヲ許サス、又已ムヲ得サルノ事體、將ニ起ラントスルノ機、先ツ現ハル、カ爲、ニ能ク憲法

六 二由テ、防護スヘキ方法ヲ設ケ得ルキハ、則非常權ノ區域、自ラ滅縮ス、〔按〕
非常權ト爲セル條規モ、預メ憲法ヲ以テ、姑ク之ヲ常權ノ區域、自ラ滅縮スルナリ、〔本來〕
ケルカ如ク、已ムテ得サル事體ノ生スル時ニ於テハ、政府一旦救時ノ憲
法ヲ、告示スルノ權ヲ握ルル國ニ於テハ、政府ノ此權ヲ施行スルヤ、決シ

テ非常權ヲ施行スト云フ可ラス、既ニ預メ國憲及其他ノ憲法ヲ以テ限定
セル權利ヲ、施行スト云フ可シ、

〔第四〕古時羅馬ニテハ、已ムテ得サルノ事體生スルニ方リテハ、〔按〕

官ヲ立テサル國ニ於テハ、國家元首、必ス此權ヲ施行ス可シ、決シテ從屬
スル所ノ職官輩、之ヲ施行スルヲ許サス、但シ寇賊俄ニ襲來スル時等、防禦
瞬間ヲ爭フニ方リテハ、官吏ハ勿論、縱令ヒ一私人ト雖モ、亦能ク一旦此權
利ヲ施行シ、危急ヲ救フニ於テ、決シテ妨ケナシ、但シ直ニ之ヲ政府ニ報シテ、
其後ノ處置ニ就テハ、政府ノ號令ヲ俟ツヲ要ス、

去レモ若シ國家元首、其職ニ堪ヘサルカ爲メ、遂ニ已ムテ得サルノ事、起ル時
ニ於テハ、必ス重要ノ職官、非常權ヲ施行セサルヲ得ス、即チミニステル、及ヒ兩
院、或ハ時宜ニヨリテハ、將軍等之ヲ施行ス可シ、

〔第五〕救防ノ目的ニ從テ、其方法ヲ設定シ、及ヒ之ヲ限制ス可シ、

未ダ事ナキ時ニ於テ、預メ救防ノ方法ヲ設定セント欲スルハ、徒ラニ無益
ノ勞ト云フヘキノミ、凡ソ已ムテ得サルノ事體發スルニ當リテハ、一時公
權利ヲ阻止シ、又ハ之ヲ廢棄シ、或ハ私權利ヲ毀損スル等、固ヨリ妨ナシ
トス、例ハ公事ノ商議及ヒ會合ヲ禁止シ、出版ノ自由ヲ、一時阻止シ、又ハ非
常法院アウツセルオルデントヲ設ル等ノ如キ、都テ公權利ヲ阻止廢棄ス
ル所以ナリ、所謂國家已ムテ得サルノ事體ナル者ハ、素ト國事ニ關スルコ
ナルカ故ニ、此事發スルニ至リテハ、是等公權利ヲ阻止廢棄スルハ、私有
ヲ毀損シ、或ハ私人ノ日用交際、及ヒ自由ノ權利ヲ限制スルニヨリ、更ニ緊
要ナリトス、但シ國家安寧ニ存在スルノ權利ハ、元ト至高ノ權利ナルカ故ニ、

六ノ下八五

已ムヲ得サルノ事體、發スルニ方リテ、國家存在ノ爲ニ、妨礙トナルヘキ諸權利ハ、舉テ之ヲ禁止スルコト、甚ク緊要ナリトス、
救防ノ方法ヲ限制スルハ、非常權ノ區域亦自ラ定マルナリ、即チ左ノ如シ、

甲 救防ノ方法ハ、救防ノ難易ニ適應スルヲ要ス、決シテ不適宜ニ嚴

ナル可ラス、又此方法ヲ施スカ爲ニ、現存ノ方ヲ毀損限制スルモ、亦救防ノ難易ニ隨テ、其可ニ適スルヲ要ス、決シテ不適宜ニ大ナル可ラス、

乙 既ニ救防ノ志ヲ達シタル後、仍ホ非常權ヲ施行スルヲ許サス、是故ニ

前ニ權ヲ施行スル時限ヲ短小ニ定ムル國アリ、蓋
此權ヲ施行スル時限、遷延久シキ時ハ、遂ニ變シテ暴虐ノ權トナルヲ恐ル、ナリ、

丙 其事體唯一時ノ方法ヲ設ケテ、救防シ得ヘキハ、決シテ悠久ノ

方法ヲ施ス可ラス、且ツ立法院ハ、常ニ此方法ノ舉行ヲ監督シ、速ニ

平常ノ法制ニ復セシムルヲ務ルノ權アリ、殊ニ已ムヲ得サル事體發起ノ際ニ於テ、一時令シタルアルゲマイチ、ヘルオールドスング
〔接〕前、款ノ如キハ、立法院其時機ヲ察シ、務メテ速ニ廢止セシムルコトニ、心ヲ用フ可シ、

丁 事休方ニ般ナルヲ以テ、縱令大イニ非常權ヲ施スコトアリモ、主トシ

之ヲ施行セシミニステルハ、其方法ニ就テ、必ッ自ラ保任セサル可
ラス、何者、若シ此ノ如キ時ニ於テ、ミニステル保任ノ義務ヲ負ハサル
ルハ、是レ即チミニステル唯私利ノ爲ニ、國難ヲ救防スト云フ可ク
シテ、決シテ實ニ國家ノ爲ニ其難ヲ救防ストハ、云フ可ラサレハ
ナリ、○非常權ヲ施行スル、愈嚴猛ナレハ、之ヲ施行スル者、其方法
ノ已ムヲ得サルニ出ル所以ヲ、保任スルノ義務モ亦愈、大イナ
リ、

戊 非常權ヲ施行スル時ニ於テ、悠久ノ新法ヲ立ルコトハ、通常許サ、ル

所ナリ、然レモ唯已ムヲ得サルノ事體ナルヲ以テ、現存ノ法ヲ毀損
 スト雖モ、實ニ之ヲ犯法ノ處分トセサルノミナラス、却テ緊要ノ
 處分ト爲スナリ、去レモ法ニ合セサル事ヲ舉ケテ、之ヲ法ト爲スカ
 如キハ、甚ダ不可ナリ、凡ソ非常權ハ、唯非常ノ事發スルカ爲メニ已
 ムヲ得スシテ、緊要ト爲ス者ニシテ決シテ、新法ヲ立ルカ爲メニ緊
 要ト爲スニアラス、是故ニ政府ノ威權ヲ逞ウシテ、新ニ私法ヲ設
 ケ、或ハ法院ノ審判裁斷ヲ經スシテ、恣ニ刑罰ヲ施ス等ノ處置、及ヒ
 其他現存ノ國憲ヲ、永シ變革スル等ノコトハ、通例非常權ノ已ムヲ
 得サル處分ト、目スルヲ許サス、○但シ此ノ如キ處分ト雖モ、或ハ認
 許セサル可ラサルコトアリ、凡ソ已ムヲ得サルノ事體ヲ、救防スルノ
 術ハ、素ト此事体ノ大小緩急ニ應ジ、舉指セサル可ラス、此事体ノ起リ
 タル原因ヲ推スニ、若シ國憲ノ不善ヨリ生スル者ナルハ、國憲ニ
 隨テ、其原因ヲ除去スル能ハサルハ、固ヨリ論ナシ、故ニ此ノ如キ時

ニ方リテ、國家ノ艱難ヲ救ハント欲スル者ハ、預メ國憲ヲ改革セシ
 コチ企テ謀リテ、之ヲ遂ケサル可ラス、既ニ輓近各國ニ於テ、顛覆
 及ヒ復舊顛覆シテ、又舊制ニ復センカ爲メニ、起ス所ノ顛覆ヲ云、
 爲メニ、國憲數次顛地シテ、遂ニ不具トナリシカ故ニ、此ノ如キ改
 革屢アリキ、○此ノ如キ改革ヲ爲スニ方リテハ、從來ノ立法院、若
 シハ新ニ選任セル立法院等、能ク其方法ヲ監察シ、以テ現法ヲ犯
 ス所ノ新法ヲ認許シテ、遂ニ之ヲ眞實ノ法ト爲スノ權アル可シ、
 ○

○ 普魯士王非的利維廉第四世 一千七百九十五年ニ生ハ、一千
 八百四十九年 嘉永ニ於テ、非常權ヲ施行シ、復佛國統領路易那破倫
 第三世ナリ、一千八百五十一年 嘉永第十二月二日ニ於テ、非
 常權ヲ施行シタリ、即チ非的利維廉第四世ハ、第二院
 廢シテ、獨リ自カラ代議者選擇ノ法ヲ改革シ、復路易那破倫ハ、十

チオナールヘルサムルング
シタルチ云フナリ、○此ノ如キ非常權施行ノ方法ヲ以テ、或ハ
正ト爲シ、或ハ不正トナス者アリテ、其論一定セサレトモ、普國佛
國共ニ、遂ニ之ヲ認許シテ全ク遵奉スルニ至リシハ、又疑フ可
ラス、

大井潤一 校

國法汎論卷之六 下終

國法汎論卷之七 上 目錄

國家職務及眞ノ政令

- 第一款 國家職務ノ品類及法ニ關セル性
- 第二款 國家官吏ノ任用
- 第三款 國家官吏ノ權利及義務
- 第四款 國家職務ノ止息
- 第五款 輔弼ノ官

瑞士 イ、カ、ブルンチニリ 著

加藤 弘 之 譯

國家ノ職務、スタートツギ及ヒ真ノ政令、アイゲントリヘ、レギメント、〔按〕
ルハ無シ、然リト雖、立法、司法ノ如キハ、直ニ政令ヲ施ス權柄ニアラ
ス、直ニ爲シテ他ノ權柄ト爲スル者ハ、獨リ施政權柄ノミ、故ニ此權柄ヲ以テ、真ノ
政令ト爲スルナリ、

第一款 國家職務ノ品類、アル及ヒ法ニ關セル性、〔按〕國家職務ノ性
關セル者ト、道ニ關セル者ト、是ナリ、然レ、法學ニ於テハ、
唯法ニ關セル性ヲ論ス、道ニ關セル性ハ、專ラ道義學科ノ
所ナリ、

〔第一〕國家職務ナル稱ノ眞義、全ク開明セシハ、實ニ近今國家ノ眞理始メテ
開明セシニ由ルナリ、故ニ中古ノ世ニ於テハ、國家職務中ニ、私法ノ意ヲ
混交シ、又其後ニ至リテハ、君權無限ノ意モ、共ニ之ニ錯交シテ、其公正ナ
ル所以ヲ喪瀆シタリキ、凡ソ國家職務ト云ヘル言辭ハ、以テ能ク二義ヲ

二上ノ七

徴スルニ足レリ、即チ其一ハ、國家元首ノ特任ヲ以テ、公事ヲ掌ルノ義、其二ハ、國家ノ爲ニ、公事ヲ掌ルノ義ナリ、故ニ此ノ如キ特任ヲ膺シ、以テ國家ノ爲ニ、其權ヲ施行スル者ニアラサレハ、決シテ國家官吏スターツ、ト稱ス可ラス。

○按〔國家職務ト云ヘル言語ハ、本文論スルカ如キ二義ヲ掲徴スルカ故ニ、此二義中其一ヲ缺ク者ハ、國家ノ職務ト目スルヲ得ス、故ニ縦令ニ國事ヲ掌ルモ、特ニ君主ノ委任ヲ受ケサル者、及ヒ君主ノ委任ヲ受クルモ、亦國事ヲ掌ラサル者等ハ、決シテ國家官吏ト稱ス可ラス、此論詳ニブルンナリ、氏ノ國學韻府未タ譯本ナシ、國家職務ノ部ニ見ユ、

是故ニ立法府ノ議員、州會ノ議員、プロヒンチア〔按〕卷之六第及ヒゲスナルネ〔按〕款〔ロ〕ニ出ツ、猶詳ナルコトハ、ハ勿論、其他邑官、ケマインデ〔按〕卷之八ニ就テ看ル可シ、ハ勿論、其他邑官、ベアムテ、アドホカー〔按〕ト所ニ於テ、原告人、被告人ニ代リテ、辨論スル及ヒ王室ノ私臣等ニ至テモ、官ナリ、詳ナルコトハ、卷之八ニ就テ看ル可シ、

通例國家官吏ト稱ス可ラス、且ツ國事ト神事ヲ、全ク分別セル國ニ於テハ、〔按〕ヒシヨフバルレル〔按〕共ニ神等モ亦、決シテ國家ノ官吏ニアラス、凡ソ以上諸官吏ニ於テハ、或ハ公事ヲ掌ルモ、全ク君主ヨリ、其職掌ヲ受ケス、或ハ其職務、國家ノ事上ニ、關係ナケレハナリ、

三上ノ七

〔第二〕國家職務ノ品類異ナルニ隨テ、各其職官アリ、故ニ國家ノ各職官ハ、則國家全體ノ部分ニシテ、皆固ヨリ各殊ノ職務ヲ掌ル權有リ、是ヲ以テ、各職官皆之ニ充ツル所ノ官員アリテ、必ク其意見ヲ以テ、其職務ヲ行フヲ要ス、但シ權勢ニ至テハ、限制スル所ナキニアラス、○是故ニ國家官吏ト泛稱スルコトハ、必ク國家元首ヨリ寄托セラレタル職掌ヲ、自己ノ意思ヲ以テ、施行シ得ル者ヲ指目ス、去レテ眞ニ國家官吏ト稱スヘキハ、君主ヨリ制馭ノ權ヲ、オブリグカイト〔按〕ト寄托セラレテ、之ヲ施行スル者ヲ云フノミ、其餘ニ至テハ、絶テ國家ノ權柄ヲ負荷スル者ニアラス、唯教育、或ハ經濟等、其他諸務ノ分課ヲ授托セラレタル者ト云フヘシ、是故ニ此等ノ官吏ハ、

適當セル古語ヲ以テ之ヲ目セハ、唯公務官吏エツヘントリヘル、ト稱ス可キ

例ヘハ公學ノ博士、プロヘツ教官、レ公病院ノ督務、チレク醫官、アル及ヒ公務醫官、ヒ衣食住等、其他總テ一般ノ健康ニ利害アル者ヲ檢査スルヲ掌ル醫官等、ス公務建築官、ス隄防橋梁等ノ建築ヲ掌ル官、カ其他出納官、シ官地稅官、ドメーン如キ財務官吏等ハ、皆公務官吏ナリ、
眞ノ國家官吏中ニ就テ、又政官レスベアムテ、ユ法官ベアムテ、ノ別アリ、乃政官ナル者ハ、實ニ政令ノ權ヲ施行スル者ナリ、故ニ其職掌内ニ於テ、公利公益ニ緊要ナルコトハ、必命令指揮シ、以テ之ヲ舉行スル權アリ、但シ是等ノコトヲ爲スニ於テ、敢テ專斷スル能ハス、必上官ノ命ヲ俟サルヲ得サルナリ、○然ルニ法官ハ之ニ反シ、敢テ自己ノ意見ヲ以テ、公利公益ニ緊要ナルト否トナ、考定スルヲ得ス、既ニ規定セル現存ノ法ヲ司守シ、獨之ニ由リテ、審判裁斷スルヲ得ルノミ、但シ此事ヲ行フニ就テハ、敢テ政府ノ命

令指揮ニ束縛セラレ、ヲ要セス、專ラ自己ノ知識ヲ用ヒテ可ナリ是故ニ常規ニ由テ、之ヲ論スレハ、政官ハ專ラ自由ニ處分スル者ト云フ可シ、
法官ハ、專ラ法制ヲ謹守シテ、處分スル者ト云フ可シ、
〔第三〕以上政官法官ノ外、猶一種補助官吏スターツアインゲステ、ト稱スル者アリ、此官吏モ、亦決シテ國家ノ官吏ニアラスト云フ可テス、然レモ其素性タル、眞ノ職官アル者ニアラスト、故ニ亦職權ヲ有セス、尙且獨立セル職掌ヲ有セス、唯上官ニ隨屬シテ、其補助ヲ爲スノミ、則吏官カンツリスト、
諸公局ノ監督アウフセルヘル、イン、エツヘントリヘ、アイン、財務補助官ヒンツ、ゲ是等ナリ、○等は諸官吏モ亦、公務ヲ處分スルヲ以テ、猶僅ニ心思ニ係レル職掌有リ、是ヲ以テ之ヲ國家官吏ノ部ニ列セサルヲ得サルナリ、然ルニ又職務上ニ於テ、自己ノ心思ヲ勞スルヲ須ヒス、唯上官ノ吩咐ニノミ、承奉スルカ如キ、卑官ニ至リテハ、縱令ニ國家ノ爲メニ、必要ナル者ト雖モ、決シシ國家官吏ト稱スルニ足ラズ、則使丁ラカ、イ守門卒ホル、チ學校

輕卒、^ベ裁判局輕卒、^{ワイ}及^ヘ、^ゲ選卒^ゲ、^ス等^ス即^チ是^レナリ、故^ニ此輩
ハ、唯國家ノ奴僕^ス、^ゴ稱^ス可^シ、是^チ以^テ此輩ノ國家ニ對セル
權利ニ於テハ、國家官吏ノ國家ニ對セル權利ト同一ニ、國法ヲ以テ論ス
可^ラス、唯私法ノ使役合約^ヘ、^ル規^ニ從^テ、論^ス可^シ、

〔第四〕國家官吏ノ中、復文官、^チ武官^ス、^テ別^{アリ}、此區別ハ、
素[、]羅馬帝[、]コンスタンチン[、]デ、^ゴロー^セ、^レ紀元[、]二百七十四年^ニ生[、]ノ時^ニ於^テ

テ判然創立セシ者ニシテ、今猶全ク存ス、○但^シ武官ノ中ニ於テハ、獨^リ將校
オ[、]ヒ[、]チ[、]ノ[、]ミ[、]國家官吏ト稱ス可^シ、兵卒、^ソル[、]ダ[、]ノ[、]如^キニ至^テハ、決^シテ國
家官吏ト云フニ足ラス、何者、號令ヲ司ル者ハ、獨^リ將校ノミニシテ、兵卒ハ
之ニ預ラス、必竟兵卒ノ兵役ニ從事スルノ義ハ、或ハ國民タル者、悉皆兵
役ニ從事ス可^キノ義務アルニ出テ、或ハ私法ノ規律ヲ以テ、僱役セラレ
、ニ由ルヲ以テナリ、○武官ノ文官ト相異ナル所以ハ、殊ニ其規律嚴肅
ヲ主トシテ、唯命是^レ奉セサル可^ラサルノ法アルト、及^ヒ其職タル實ニ自

ラ處分スルノ權アラスシテ、殆^ト唯其命セラレ、所^チ奉行スルト、此二件
ニ在リ、

〔第五〕在昔或ハ、國家官吏ノ國家ニ對セル權利ヲ取テ、合約ヲ結^フ所^ノ、私
法規律ニ相同シカル可^シト、說^ク者アリシト雖モ、其理決^シテ此ノ如ク
ナラス、眞ニ國法ノ規律ニ出ル者ナリ、是故ニマンダート^ト、^互ニ^ニ合約^シ、^甲乙^二人
某事ヲ以テ、乙ニ委託スルノ文書ヲ具ス、之ヲマンダート^ト云^フ、但^シ乙ノ其
事ヲ爲ス、決^シテ僱錢ヲ受ルカ爲^ニ、^アラ^ス、唯其榮譽ヲ欣^フ爲^ニ、^爲ス^ナ
リ、或ハ卑賤ナル僱役合約[、]錢^ヲ以^テ僱役スルノ^接、^接、^ノ理^ヲ以^テ、^國家^職
官ヲ論スルカ如キハ、大^ニナル謬^ト云^フ、^抑、^國家^職官ノ^授任^罷黜[、]及^ヒ奉
職等ノ^一、^一モ[、]マンダート^ト若^クハ僱役合約ノ理ニ合スル者ナシ、

凡^ソ國家職官ハ、國家タル者、公事ノ爲^ニ、其意見ヲ以テ授任スル者ナリ、而
シテ之ヲ授任宣旨[、]グ[、]ス[、]デ[、]ク[、]レ[、]ト[、]、^ト號^ス、但^シ儘^之ヲ別種憲法[、]ス[、]ベ[、]チ[、]
ッ[、]セ[、]ト[、]稱^スルモノアリト雖モ、其語甚^ク妥當^ク缺^クハ、聽用ス可^ラス、何者、
授任宣旨ハ、通常立法院ノ施行スル所ニアラス、君主國ニテハ、君主必^ズ之

ヲ施行シ、民主國ニテハ、儘又民選ニ出レハナリ、○或ハ外國人ヲ、國家公
 事ノ爲メ、使役セント欲スル時ハ、預、其旨ヲ本人ニ示シ、其唯諾ヲ得、和約
 シ、然ル後ニ公然之ニ職務ヲ授與スト雖モ、國家敢テ之ヲ外國人ニ請願ス
 ト云フ可ラス、國家ハ必、外國人ノ上ニ在リテ、專ラ其意見ヲ以テ、外國人
 ニ、職務ヲ授與スル者ナリ、是故ニ時アリテ、右和約ヲ爲セシ後、若シ國家其
 約ヲ破リ、外國人ニ職務ヲ授與セサルコトアリト、外國人其違約ヲ私法ニ
 因テ、法院ニ訴フルコト能ハス、縱令之ヲ訴フルモ、法院亦之ヲ國家ニ責メ
 テ、決シテ此和約ヲ遂ケシムルノ權ナシ、但シ國家此ノ如キ和約ニ背クノ
 故ヲ以テ、外國人全ク私法ノ規律ニ屬シタル償金ヲ、交受スルコトハ許ス
 可シ、〔按〕例ヘハ外國人ヲ、某事ニ使役スヘキ和約シテ、國家遂ニ此約
 ヲ破リタルモ、外國人政府ヨリ償金ヲ取ルハ、當然ノコトナリ、
 國家職官ノ眞ニ國家職官タル所以ハ、其職分タル、素、國家ノ爲メニ設クル
 所ニシテ、全ク公事ニ係リ、且、其活動宛カモ有機體ノ活動ニ相同シキニ在
 リ、○故ニ總テ職官ナル者ハ、國家ノ生濟ニ於テ、必需ナルヲ以テ、其榮養

ノ爲メニ設クル者ナリ、決シテ職官ヲ荷フ人ノ爲メニ設クル者ニアラス、○是
 故ニ唯私人ヲ利スルカ爲メニ、職官ヲ與ヘ、或ハ職官ヲ以テ、私事ヲ營ムノ
 具ト爲スカ如キハ、大ニ不可ナリ、中古ノ時、各國ニ於テ、此ノ如キ事數行
 ハレ、且、輒近ニ至リテモ、佛國ニ於テ、尙此ノ如キ事行ハレシハ、必竟國家
 ノ眞理、未、全ク開明セサルヲ以テ、國法猶私法ノ爲メニ束縛セラレ、其能力
 ヲ全伸スル能ハザリシニ坐スルナリ、

○〔按〕有機體ハ、即、活物ナリ、活物ナル者ハ、各、精神體軀アリテ、精神自
 ラ能ク活動シ、亦能ク體軀ヲ活動セシム、金石土塊等ノ無機體、或ハ
 人造器械等ノ、自ラ活動スル能ハサルカ如キニアラス、茲ニ國家職
 官活動ノ力ヲ以テ、有機體ノ活動ニ比スルハ、國家職官タル者ハ、唯
 國家元首ノ命ノミ奉承スルニアラス、必、ヤ自己ノ意見ニ隨テ、謀畫
 區處シ、自ラ其責ヲ盡スヲ以テナリ、

職官ニ附加スル所ノ俸祿ヅソク、ノ如キハ、實ニ私法ノ理ニ出ル者ナリ、

故ニ俸祿ノ有無、職官タルノ理ニ於テ、決シテ利害アルコトナシ、既ニ古來俸祿ヲ附加セサル職官儘之レアリ、然レモ之レカ爲メ、職官ノ理、少シモ變ルコトアラサリシハ、蓋シ職官俸祿ノ有無ニ關セサルノ明證ナリ、

第二款 國家官吏ノ任用 アーンステルング、デ
ル、ス、ク、ターツギーテル、

〔第一〕近今ハ職官ヲ世襲スルノ風、止ミタレモ、中古ノ世ニハ、歐洲各國共ニ、世襲ノ職官多ク、子々孫々同官ヲ繼襲セシ故チ以テ、其威權殆ト王侯ノ如クナルニ至リテ、遂ニ國家ノ一致、及ヒ序次ヲ害シタリキ、元來職官ヲ負荷スル所ノ人ハ、能ク其任ニ堪ヘ、其責ニ任スルノ器ヲ備フル事、甚ダ緊要ナリ、然ルニ能ク其任ニ堪ヘ、其責ニ任スルノ器ハ、子々孫々決シテ能ク世傳スル所ニアラスシテ、唯其人ニ存スル者ナリ、是故ニ職官ヲ世襲スルノ法ハ、人材ヲ得ルノ法ニアラス、却テ人材薦擧ノ道ヲ梗塞スル者ニシテ、國家ニ害アル鮮カラズ、

但シ近今ト雖モ、全ク世襲ノ官ナキニハアラス、去レモ多クハ唯其人ニ榮譽ヲ與フルカ爲メ、授クル者ニシテ、決シテ職掌アル官ニアラサレハ、殆ト有名無實ノ者ナリ、例ヘハ王室ノ世襲職官 エルブ、ホ、ノ如キ是レナリ、〔按〕族等ニ榮譽ヲ與フルカ爲メ、皇國ノ侍從等ニ類セル官ヲ授ケテ、世襲セシムル國アリ、去レモ實ニ其職ヲ奉スルニアラス、唯盛典祭儀等ノ時、其席ニ列スルノミナリ、

〔第二〕古時ノ民主國ニ於テハ、職官授任ノ期限ヲ定メテ、僅ニ數年間ト爲スノ法、徧ク流行シ、而シテ或ハ再任ヲ許シ、或ハ再任ヲ許サ、ルモアリキ、方今ノ民主國ニ於テモ亦、此ノ如キ授任期限ヲ定ムル職官アリ、殊ニ瑞士國ニ於テ此法ヲ用フ、○邑官 ゲマイン、ノ如キハ、固ヨリ大ニ才力ノ鍛練ヲ要スルコト甚ダ罕ナレハ、右ノ如ク授任ノ期限ヲ定ムト雖モ、事ニ就テ甚ダ妨ナシ去レモ國家官吏ノ如キハ、實ニ積年累月、其職ニ鍛練習熟セサル可カラス、而シテ近今萬事學術ヲ要スル世ニ方リテハ、此事最モ緊要ナレハ、右ノ如ク授任ノ期限ヲ定ムルカ如キハ、施政上實ニ大害アリ、凡ツ

七ノ上一

此ノ如キ期限ヲ立テタル國ニ於テハ、其弊ノ赴ク所各人自己ノ榮利ヲ求メント欲シ、比朋黨與其志ヲ違セント欲シ、皆相爭軋シテ、國家ノ職官ヲ得ルヲ願フカ故ニ、官吏ノ交換スルヲ頻數ニシテ、且ツ之レカ爲メニ、國家ノ存在ヲ傷ヒ、其安寧ヲ破リ、遂ニ職官ノ遠大ナル能力ヲ損壞スル、甚ダ堪ヘカラスシテ、其國家ニ害アルヤ、實ニ大ナリ、是故ニ授任ノ期限ヲ立ルノ法ハ、其任ニ適セサル官吏ヲ罷メ、若クハ民人ノ信ヲ失ヘル有司ヲ黜ケ、實ニ其責ニ任スヘキ英材ヲ擧ゲテ、之ニ代ハラシムルニハ、頗ル利アレド、此利ハ上ニ論スル所ノ諸弊害ヲ償フニハ足ラサルナリ。○但シ貴族政治アリスト、ノ國ニテハ、萬事恆常ヲ守リ、且ツ適度ヲ失ハサルヲ好ムノ風行ハル、カ故ニ、此ノ如ク職官授任ノ期限ヲ立ルモ、甚ダ害ナシトイヘド、民人政治デモカ、ノ國ハ、全ク之ニ反シテ、素ト官吏ノ交換ヲ好テ、職官授任ノ短キヲ欲スルノ僻アルカ故ニ、此ノ如キ制度ハ實ニ害アリ、加之、此ノ如キ制度アルキハ、知能ノ士ハ、寧ロ他業ヲ撰ムモ、敢テ仕官ヲ潔トセサルニ至

ルカ故、國家人材ヲ得ルヲ甚ダ難ク、且ツ議論屢變遷スルカ爲メニ、確乎タル條理立メスシテ、遂ニ知能ノ士ヲ驅除スルノ弊害アリ、甚ダ恐ルヘシ、

〔第三〕職官ノ授任ヲ應諾スルト否トハ、本人ノ自由ニ任スルヲ當然ニシテ、既ニ一般ノ通則トナレリ、但シ國家ノ職務タル、素ト國家ト本人トノ、合約ニ出ルヲ以テノ故ニアラス、元來人ノ精神才智ノ上ニ係レル職務ヲ、他人ヨリ強逼シテ、奉セシメント欲スルモ、決シテ得ヘキニアラス、且ツ縱令、本人自ラ之ヲ奉スルモ、唯勢已ムヲ得サルニ出ルキハ、決シテ功益ノアル可キニアラス、唯實ニ本人自ラ好テ、其職官ヲ應諾セル時ノミ、又好テ能ク勉勵スヘキヲ以テナリ、加之、政府其臣民ヲシテ、國家ノ爲メ、特別ニ勞苦セシムルノ理モ、亦決シテアラサレハナリ、○此規律ハ、方今君主民主ノ各國ニ於テ、其ニ皆從用ス、

七ノ上一

但シ國家ノ職官トイヘド、殆ト邑官ニ類スル者、若クハ邑官ト相關涉スル者ニ至リテハ、此例ヲ以テ論ス可ラサル者アリ、蓋シ是等官吏ハ、其才能ヲ要

スルコト甚少、且ツ其人數ハ甚多ヲ要スルカ故ニ、其職務ハ凡ソ臣民悉皆當然盡スヘキ職務ト同一理ナリト視做シテ、全ク本人ノ自由ニ任セサルコト爲セシナリ、

〔第四〕國家ノ職官ニ適應スヘキ人材ヲ、考試スルノ方法ニ於テハ、獨乙ノ任官規制ベアムテンハ、殊ニ嚴密ニシテ、實ニ官試スターツプニ於テ、及第セシ者ニアラサレハ、任用スルコトナシ、蓋シ此規律ノ善良ナルコトハ、敢テ疑フ可ラス、他各國ニ於テ、官吏ヲ選任スルニ、必ク求官生カンギダート即者ナノ考試簿ニ由ルヲ要セサルカ如キ比ニアラス、○官試法アルキハ、既ニ學術習熟ヲ經テ、能ク其任ニ適スヘキ者ニアラサレハ、任用セラル、コトナク、且ツ又在廷ノ官吏、動モスレハ、其比朋黨與ニ脅サレ、及ヒ王室ノ爲ニ欺カレ、漫ニ事ヲ誤ルカ如キ弊害決シテ生スルコトナク、其他少年ニシテ有志ノ徒、專ラ學習ヲ以テ、就官ノ正路ト爲シ、決シテ僥倖ヲ得ント欲スル者ナク、尙且、不學無識者等、浪リニ就官ノ志ヲ起スカ如キ弊害モ亦、

決シテアルコトナシ、○然レ徒ニ此法ノミヲ株守スルハ、甚不可ナリ、時アリテハ、儘此法ニ由ラサルコトモ無カル可ラス、凡ソ外國人ヲ任用セント欲スルニ方リテ、官試ヲ要セスト雖モ、其材能顯然タル時ハ、勿論、縱令ヒ國人ト雖モ、實ニ賢俊ノ徒ヲ舉ル時ニ方リテハ、敢テ考試ヲ用フ可ラス、蓋シ天性聰敏ノ徒ハ、縱令ヒ學習ノ常規ヲ踏マサルモ、儘大ニ有爲ノ才能ヲ顯スコトアリ、然ルヲ唯學習ノ常規ヲ踏マサルノ故ヲ以テ、徒ラニ之ヲ任用セサルハ、實ニ政府ノ迷誤ニアラスヤ、例ヘハ、ミニス、スターツ、タートプロヘツ〔按〕議官等ノ如キ、當路輔弼ノ才能ヲ要スル官、及ヒ大學博士ソール、ノ如キ等、學識ノ廣博ヲ要スル官ニ、任用スヘキ人物ニ於ケルカ如キ、即チ是レナリ、但シ此ノ如キ規律外ノ事ヲ行フニ當リテハ、是ニ由リ或ハ遂ニ規律ヲ傷害スルノ患、全クアラストハ云フ可ラス、然レ能ク着意シテ此事ヲ爲セハ、此患ヲ防シ、亦甚難キニアラス、

右論アルカ如ク、獨乙ノ法ハ、大ニ他各國ノ法ニ優リテ、良善ト稱ス可シ、

七ノ上一六

然レハ弊害モ亦之ニ加ハリテ、動モスレハ、其佳好ノ莫實ヲ損敗スルコトナ
キニアラス、弊害トハ何ソヤ、獨乙ニテハ、始テ求官生ヲ官ニ莅任シ、或ハ
既ニ官ニ就ケル者ヲ、猶高官ニ登用スル等、多クハ唯從來勤仕セル年數
ノ多少ニ拘リテ、專ラ其材能ヲ論セサルヲ云フナリ、○凡、天性敏捷ナル
者、數年間、卑官ニ在リテ、僱工ニ類セル賤役ヲ爲スルハ、遂ニ是ニ由テ、其
英氣疲倦挫摧シ、全ク天性ヲ耗スルニ至ル可シ、故ニ數年ノ後、始テ擢ン
テ、高官ニ用ヒラレ、重職ヲ委托セラル、ハ、既ニ疲倦挫摧セル衰叟、豈能
ク國家ノ用ヲ爲スニ足ル可ケンヤ、○但、此弊害タル、素ト任官規制ノ惡
シキカ爲メニ生シタルニハアラス、全ク官吏權ヲ專ラニスルノ惡習ヨリ
生シテ、漸ク増益シタルニ由ルナリ、

○〔按〕始テ官ニ任用スルニ、從來勤仕セル年數ノ多少ヲ以テスル
ト云ヘルコト、甚ダ解ス可ラス、去レハ既ニ考試ヲ受ケ、未ダ官ニ就カサル時、
姑ク試補トナリテ、其職掌ヲ試習スルコトアリ、蓋シ此試習ノ年數ヲ云フ歟、

七ノ上一七

考試ノ方、通常分ッテ二次トス、乃其一次ノ考試ハ、全ク大學ノ業課ヲ卒、タ
ル後ニ施ス者ニシテ、之ヲ學事考試アリ、ト云フ、即博士之ヲ掌
ナリ、凡、此考試ニ於テハ、考試ヲ爲ス者モ亦考試ヲ受ル者モ、共ニ其材能
ニ適セル事ヲ爲スカ故ニ、其宜シキヲ得ルコト、決シテ他方法ノ及フヘキ
ニアラス、且、此考試ノ方法、良善ナルコトハ、風教自ラ後來大學生徒ノ志ヲ
獎勵スル、甚ダ甚ダカラストス、其二次ノ考試ハ、即實事ノ考試アリ、ト云フ、
〔按〕財務ノ官ニ任用セント欲スル者ハ、財務ノ實際ヲ考試シ、外務ト稱ス、
ノ官ニ登用セント欲スル者ハ、外務ノ實際ヲ考試スルノ類ヲ云、ト稱ス、
○凡、求官生ナル者、必、法科及政科共ニ、其大要ヲ研究セサル可ラサルハ、
固ヨリ論ヲ俟タス、去レハ一人ニシテ、法政諸科ヲ併セ研究シテ、法政ノ二
官ヲ兼攝スルニ堪ユル者ハ、世上殆、罕ナルヲ以テ、求官生ノ自ラ好ム所
ニ隨ヒ、一科ニ就テ、或ハ專ラ法科ヲ修メシメ、或ハ專ラ政科ヲ講セシム
ルコト、甚ダ緊要ナリ、然ルニ求官生ヲシテ、漫ニ數科ヲ學テ、徒ラニ廣博ニ涉
ラシメント欲スルハ、却テ其好ム所ノ一科ヲ專修セント欲スルノ志ヲ

挫折シテ遂ニ其材能ヲ發達ヲ妨害スルナリ然ルニ獨乙ノ考試ハ必眞
ノ法學アイゲントリヘニリヌアルデソツ〔按〕博ク法學ト云フキハ國
ストイヘル其中国ニ就テ國法訴訟法治罪法刑法商法其他理財學等ヲ總稱
除テ其餘ノ者ヲ眞ノ法學ト稱スルナリテ考試スルチ主トシテ國法
學理財學ナチオナル等ノ優劣ニ注意スルコト甚ク少シ蓋獨乙考試法ノ
宿弊ナリ

卑賤ナル官吏ヲ任用スルニハ敢テ官試ヲ要セス只管預實地ニ練熟シ、
殊ニハ唯記録ヲ掌ルニ堪ユレハ乃可ナリ、
他各國ニ於テ用ユル所ノ任官規制ハ獨乙ノ如ク確實ナラス又整備セ
ズ故ニ立憲君主國及民主國共ニ動モスレハ朋黨相引クノ風盛ナルカ
故ニ大臣或ハ權臣ノ黨與首長等ト治體ニ於テ志ヲ同ウスル者若クハ
其寵遇ヲ受ル者ハ未嘗テ學業ヲ研究セス未嘗テ實際ニ練磨セストイ
ヘル頻ニ能ク任用セラレ又既ニ學業ヲ研究シ復能ク實際ニ練磨シテ、
頗ル任ニ堪キ者ト雖モ大臣若クハ權臣ノ黨與首長ハ同志寵者ニ

アラサレハ決シテ任用セラレサルノ弊アリ○政令ノ處置ニ就テ朋
黨相分レ互ニ相争フ時ニ於テ政府其權力ニ損害ナキヲ欲セハ必政府
ト志ヲ共ニシ論ヲ同ウスル者ヲ擧ゲテ之ヲ任用スルコト殊ニ緊要ナリ去
レ同朋相引クノ勢甚盛ニシテ大臣等好惡愛憎ヲ恣ニシ偏ニ同志寵者
ノミヲ擧ルキハ遂ニ國家ノ職務其本意ヲ失ヒ且朋黨常ニ相争フカ爲
ニ政令ノ目的全ク動亂スルニ至ルハ必然ナリ、
○英國ニ於テ學識才能共ニ乏シキ徒權威盛ナル巴力門議員ノ庇護
ヲ以テ官ニ任用セラレシコト屢之レアリ凡セルフ自修ゴートルンメントヘチ許スノ
法ハ政府ノ事務ヲ減スルニ足ルコト辨テ俟タス去レモ猶政府ノ掌中ニ存
セル事務ヲ恰好ニ掌ルカ爲ニ要スル所ノ學識才能ヲ減スルニハ未
足ラサルナリ○

○〔按〕本文云フ所英國ニテハ專ラ自修ノコト行ハル故ニ民ノ私事ハ大
抵民ニ任セテ政府之ニ關セサルコト法ナリ故ニ政府ノ事務甚減省

スルハ、他各國ノ比スヘキニアラス、去レテ猶政府ノ掌中ニ存セル事務ヲ、恰好ニ掌ルカ爲メハ、官吏タル者、必ス其學識才能ヲ具セサル可ラサルヲ、決シテ復他各國ト異ナルヲアラス、然ルニ尙右ノ如ク、其任ニ堪ヘサル者ヲ任用スルコアルハ甚ダ怪シムヘキコナリト云フノ意ナリ、

但シ法官ノ任用ニ就テハ、各國共ニ良善ノ法ヲ用フ、今時ニ在リテハ、法官ハ必ス法學ニ熟達セル者ニアラサレハ、決シテ其職務ニ従事スル能ハサルコト、明カナルヲ以テ、各國共ニ政官ノ任用ニ於ケルカ如キ、妄舉ヲ爲スコトナシ、

〔第五〕官吏ハ、能ク任ニ堪ユルノ器ヲ備フルコト、最モ緊要ナリ、然ルニ能ク任ニ堪ユヘキ人物ヲ、概シテ一種屬中ニ求メント欲スルモ、決シテ得可キニ非ス、是故ニ輒近各國ノ開化大ニ進歩セシヨリ、唯名族貴戚ノミヲ舉ケテ、官吏ト爲スノ法ヲ廢シ、而シテ國家ノ臣民タル者ハ、尊卑ノ論ナク、

悉皆官ニ任シ得ヘキ路ヲ開キタリ、

〔第六〕求官生タル者、自ラ好テアテクナカント、レヘレンダール、及ヒアウフクヲトール〔按〕共ニ試補ノ官、等トナリテ、政府及ヒ法院ニ入り、其補助ヲ爲スナ願フキハ、之ヲ許スコト、當然ニシテ、即チ獨乙國固有ノ法ナリ、而シテ之ヲ試験時ノヒナト稱ス、○求官生學業ノ考試既ニ了ルキハ、則チ試補トナリテ、實地ノ試験ヲ經、以テ實際ノ考試、及ヒ任官ノ預途ヲトルナリ、此法アルカ故ニ、求官生ナル者、能ク實地ニ通曉練達シ、且、能ク其任ニ堪ユヘキト否トノコトモ、益々瞭然トナルナリ、○去レテ徒ラニ此考試法ノ順序ヲ逐フノミナ貴テ、專ラ此事ニ拘泥スルキハ、又自ラ一種書記官ノ風〔按〕所謂官盛ニ流行スルニ至リ、其弊遂ニ官吏妄ニ倨傲ヲ極メ、威權ヲ恣ニスルノ風習ヲ長スルニ流ル、但シ試験時ヲ立ルノ良法ヲ廢セスシテ、此弊害ヲ除去スルコト、甚ダ難カラサル可シ、

〔第七〕何レノ時ヲ以テ任官ノ時期ト指定スヘキヤノ論、紛然トシテ一定シ

難シ去レ既ニ論シタルカ如ク、任官ノ事ハ、元來國家タル者、專ラ其意思
ヲ以テ爲ス者ニシテ、決シテ國家ト臣民トノ契約ニアラサルノ理ニ由
テ、之ヲ考フレハ、政府其意思ヲ決定シテ、之ヲ告述スル時、即是選任ノ旨
ヲ錄載シテ調印スル時ヲ以テ、任官ノ時期ト指定スヘキヲ、固ヨリ當然
ト云フ可シ、故ニ官吏タル者ハ、是時ヨリ、私法ニ屬セル俸祿〔按〕俸祿ノ
私法ニ屬スル
款ノ末條ニ出ツ、一ヲ得ヘキハ勿論、又其職官ニ屬セル權利ヲ受領スル
一、緊要ナルハ、是亦其時ヨリ受領スルノ權アルヘシ、○其後任官ノ宣旨
ヲシテ、本人ニ付與シテ、實ニ之ヲ官ニ就カシムル等ノ一ハ、唯授任ノ
餘業ナリ、決シテ之ヲ以テ、直ニ授任ト爲ス可ラス、

第三款 國家官吏ノ權利及義務

〔第一〕官吏ハ、必職官ニ附屬セル公務ヲ掌ル權利ヲ有ス、之ヲ稱シテコム
ベテ、〔按〕職掌ノト云フ、
權利ト云義、ト云フ、

此權利ハ、實ニ重要ノ者ニシテ、眞ニ國法ニ屬スル者ナリ、故ニ此權利ハ、
必、緊要ナル事ヲ施行スルノ義務ト相抱合シテ、決シテ離ル、一ナシ、是
ヲ以テ、官吏タル者此權利ヲ施用スルト否トノ一ハ、敢テ官吏ノ自由ニ
任テ可ラス、○且、此權利ハ、官吏ヲシテ、自ラ欲スル所ヲ爲サシムルカ爲、
ニ與フル者ニアラス、唯、公事ヲ奉行セシムル爲ニ、與フル者ナリ、是故ニ
官吏タル者、其職掌ノ權利及事務ノ規律ヲ以テ、永シ其身ニ附著セル者
ト爲スヲ得ス、抑、此權利規律ハ、或ハ憲法ノ議定ニ出テ、或ハ上官ノ示令
ニ出ル者ナリ、是故ニ憲法ヲ以テ、此權利規律ヲ改革スルキハ、官吏タル
者、縱令之ヲ欲セスト雖、敢テ之ヲ拒ムノ權ナク、且、從來職官ニ附屬セ
サル職務ノ、又新ニ増加スル一アリ、亦敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、蓋、職官
ハ、眞ニ全ク國家ニ從屬スル者ナリ、故ニ官吏ノ權利義務モ、亦固ヨリ國
家ニ從屬スル者ナリ、

〔第二〕官吏ハ、其職官ニ相應セル稱號〔按〕職官ノ稱號及高官ノ
榮譽ヲ示ス尊稱ヲ云、例ヘハ、大臣、參

議、卿、輔、及、レ殿下、及、レ品階〔按〕高卑諸、レ得ルノ權利アリ、但、レ此權利ハ、閣下等ノ如シ、及、レ品階官相應ノ品階アリ、レ全ク國法ニ屬スル者ニシテ、決シテ私權利ト云フ可ラス、

是故ニ憲法ヲ以テ、稱號品階ヲ改革スルハ、素ヨリ當然ノコトニシテ、決シテ私法ノ區域ヲ侵セル處分ト云フ可ラス、但、レ官吏其職ヲ退ケル後、猶故ト

ノ如ク、稱號品階ヲ保有シ得ルコトアリ、然ルキハ、則此事退職セル者ノ私權利トナルナリ、〔按〕功勞アリシ官吏等ニハ、退職ノ後モ、猶稱號品階ヲ與ヘ置クコトアリ、

〔第三〕官吏タル者、公務ノ爲ニ消セシ費用、及、レ公事ノ爲ニ受ケタル損失等ノ償還ヲ得ル權利ハ、唯官吏ノ私權利ト稱スヘキノミ、而シテ俸祿アル官吏、或ハ俸祿ナキ官吏共ニ、皆此權利ヲ有ス、

〔第四〕官吏其職務ヲ奉ズルカ爲ニ、其償金〔按〕即俸祿ヲ求ムルハ、決シテ當然ノ理ニ出ルニアラス、此職官ニ俸祿ヲ附加シ、彼職官ニ俸祿ヲ附加セサル等ノコトハ、全ク國家ノ自カラ定ムル所ナリ、而シテ官吏俸祿アル職官ニ

任シテ、俸祿ヲ得ルノ權利ハ、全ク私權利ニ屬スル者ナリ、何者、俸祿ナル者ハ、政府其金スタターヲ以テ、之ヲ給スレハナリ、〔按〕金錢給與ノコトハ、決アラズ、全ク私法ニ屬スルヲ以テナリ、

但、俸祿ニハ、二個ノ本質アリ、既ニ獨乙各國ノ内、其國憲ニ於テ、明カニ品位ゲハルト及、職務祿ゲハルトノ別ヲ爲セル國アリ、而シテ品位祿ナル者ハ、即官吏ヲシテ、其品位ニ相應セル營生ヲ爲サシムルニ緊要ニシ

テ且、レ官吏ノ學藝鍛練ヲ要スルキハ、此祿殊ニ缺ク可ラサル者ト成ルナリ、○職務祿ナル者ハ、全ク職務ヲ奉スルニ就テ、要スル所ノ費用、及、レシテ

用多ノ爲ニ設ル者ナリ、官吏若シ其職ヲ免サレ、其官ヲ退ケル時ニ於テ、此二祿ノ區別判然タル可シ、何者、官吏其職ヲ免サレ、其官ヲ退ケル後モ、或

ハ猶舊ニ依テ、品位祿ヲ得ルコトアリト雖モ、職務祿ヲ得ルノ權利ハ、免職ノ後、全ク熄滅スレハナリ、是故ニ品位祿ハ、殊ニ私權利ニ屬シ、職務祿ハ、職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕

職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕

職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕

職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕職官及、レ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金スボルテル又ケヒール〔按〕

ニシテ例へハ、賣買、貸借等、官ノ證印ヲ得ル時等ニ於テ、私人ヨリ其事ヲ掌レル官吏ニ報ユル金ヲ云、テ得ル職官アリ、此謝金ハ、即其官吏ノ別俸トナリ、而シテ形貌ニ於テハ、必ス職務ノ如ク然リ、又官吏ノ生計ニ便利ナラシメンカ爲メニ、之ヲ本俸ニ合算スルキト雖モ、此理ハ亦變スルコトナシ、〔按〕例へハ本俸ハ、一年一千圓ニシテ、謝金ハ大凡五定ムルカ如キヲ、本俸ニ合算ス、ト云フナリ、○但此ノ如キ職官ノ職掌ヲ、唯公利公益ニ著眼シテ定ムルコト、全ク國家ノ權ニ在ルカ故ニ、又憲法ヲ以テ、右謝金ノ額ヲ定立シ、或ハ改革スル等ノコトアルハ、固ヨリ當然ナリ、而シテ若シ謝金大ニ減少スルニ方リテ、憲法ヲ以テ、俸祿ノ額ヲ適宜ニ増加スルハ、唯其事ノ良好處分ナルヲ以テ、方リ、故ニ縱令、國家此事ヲ爲サ、ルモ、本人私法ノ規律ヲ以テ、政府ニ迫リテ、其損失ニ就キ、十分ノ償金ヲ取り得ルノ理、決シテ有ル可ラス、〔第五〕俸祿ハ、素ク私法ノ理ニ屬スル者ナルカ故ニ、官吏若シ過失ナクシテ、俄ニ其職ヲ罷ラル、キハ、則猶殘レル奉仕年限ノ間ハ、必ス安息祿ハ、ルヘケ罪ナクシテ職ヲ免スハ、通例安息ト云、即救助祿オン、シテ得ルノ權利アリ、稱ス、故ニ免職後ノ祿ヲ、安息祿ト云、即救助祿オン、シテ得ルノ權利アリ、

而シテ彼品位祿ナル者、即此安息祿トナル、固ヨリ當然ナリ、去レテ預、品位祿ト、職務ノ區別ヲ立ルコトナケレハ、則直ニ俸祿ヲ以テ、安息祿ト爲ス可シ、但シ俸祿全額ノ内ニ於テ、實ニ職務ノ施行ニ就テ、緊要ナル費用、及ヒレバ、出ツタチオンヌコス、テ前ニ充ツヘキ部分ハ、必ス其中ヨリ減除ス可シ、○預、憲法ヲ以テ、安息祿ノ額數、及ヒ其規律ヲ詳定スルヲ良好ト爲ス、何者、官吏俄ニ其職ヲ罷メラルレハ、必ス安息祿ヲ受ルノ權利アルハ、固ヨリ疑フヘキコトニアラサレハ、預、憲法上ニ其額數ノ規律アラサレハ、官吏ノ免職毎ニ之ヲ定ムルハ、輒チ甚ク難シシテ、且、此ノ如クナルキハ、政府或ハ之ヲ定ムルニ、動モスレハ、私情ヲ交ユルカ如キ流弊モ亦行レテ、其害タル甚クナカラサレハナリ、○安息祿ハ、現ニ國家ノ用ヲ爲サ、ル者ニ與フル祿ナルカ故ニ、其總計甚ク増加スルコトハ、國家遂ニ之ヲ資給スルニ堪ヘサルノ恐レアリ、去レテ方今ノ世、實ニ一事業トシテ、奉務スヘキ職官、唯榮譽ノ爲メニ奉務スル職ニ、俸祿ヲ附加スルハ、實ニ已ム可ラサルカ如ク、方官ト相異ナル者ヲ云、

七ノ上二八

今適宜ノ安息祿ヲ賜與スルノ制アルモ、亦猶實ニ已ム可ラサルノ理ニ出ルナリ、凡ソ官吏ノ俸祿ハ、工商諸業ノ利アルニ比スレハ、其利タル甚薄クシテ殆、其家眷ヲ撫養スルヲ得ルニ過キサレハ、俸祿ヲ以テ富ヲ致スハ甚難キモノナリ、然ルニ官吏タル者ハ其初、預メ學習練磨ノ功ヲ積ミ、且既ニ其職ニ就ケル後ニ及ヒテモ、勉勵辛苦ノ勞ヲ要スルヲ殆、工商諸業ノ比ニアラサルヲ明カナリ、故ニ國家タル者、斯國務ニ盡力セシ者ヲ顧テ、之ヲシテ貧困ノ憂ナカラシムルノ義務ヲ負ハサル可ラス、國家此事ヲ爲サント欲セハ、安息祿ノ制ヲ立ルノ外、決シテ他術アラサル可シ、○國家安息祿ヲ資給スルニ堪ヘサルノ憂アルハ、即此祿制ヲ立ルノ失ナリト雖、現ニ職務ヲ奉スル所ノ官吏能ク其職掌ヲ盡スキハ、則此得テ以テ彼失ヲ償フト云フ可シ、且、安息祿ノ制ナキハ、官吏動モスレハ賄賂ヲ貪リ、或ハ民物ヲ剝奪スル等ノ害少ナカラスト雖、若シ此制アルキハ、此ノ如キ害モ、亦隨テ生セサルノ理ナリ、

國家死亡セル官吏ノ寡婦孤兒等ヲ救育スルハ、決シテ當然ノ義務ト云フ可ラス、何者、職官ハ其久シキモ、本人ノ終生ニ止マルニ過キサレハ、俸祿モ亦、決シテ子孫ニ及フノ理アラサレハナリ、去レテ政府或ハ慈惠ヲ以テ右等ノ徒ノ救助金ヲ預備スル國アリ、但シ此金ハ、殊ニ官吏俸祿ノ内ニ就キ、常ニ數分ヲ減除シテ、之ヲ蓄積シ、以テ其寡婦孤兒ニ適宜ニ資給スルナリ、

〔第六〕官吏ノ義務ハ多クハ其有スル所ノ權利ニリ生スル者ナリ、且、官吏

七ノ上二九

タル者、其上官ニ對シテ恭順ゲホールヲ守リ、國家國民ニ對シテ忠義トニ盡シ、及ビ官職ヲ秘匿スルゲハイム等ノコトハ、總テ其身初、國家職官ニ列スルニヨリ、生スル所ノ義務ナリ、故ニ此義務タルヤ、官吏通常爲ス所ノ職務誓約、ゲインズ及ビ職官誓約アムツニヨリ、始テ生スルニハアラス、唯此誓約ニ由テ、其義務益、確實トナルノミ、凡ソ誓約ナル者ハ、決シテ職官ノ義務ヲ定立スル者ニアラス、又決シテ此義務ノ區域ヲ變革スル者ニアラス、

○三上ノ七

職官ノ品性異ナルニ隨テ、恭順ノ種類亦相同シカラス、例ヘハ、政官ノ恭順ハ、法官ノ恭順ト、其旨全ク相異ナリ、何者、政官ハ政府ニ從屬シテ、實ニ其指令ニ恭順スヘキ者ナレトモ、法官ハ之ニ反シテ、實事ニ於テハ、全ク獨立シテ、殆ド政府ニ從屬セサルノ規律ニシテ、實ニ公正ナル獄訟ニ於テ、最モ緊要ノコトナレハナリ、〔按〕法官實事ニ於テハ、政府ニ從屬セサルコト、詳ニ卷之六第十七款ニ見ユ、○但シ、縱令政官ト雖モ、奴僕ノ如ク、政府ノ命令ハ、際限ナク、偏ニ遵奉スルヲ緊要ト爲スニハアラズ、必ク現存ノ法制及道義ノ理ニ由テ、其中自ラ限制スル所アリ、然ルニ官吏タル者ノ遵奉スヘキ命令ト、遵奉スヘカラサル命令アリテ、詳ニ之ヲ判定スルハ、殊ニ難事ノ一ナリ、

〔甲〕上官其職掌内ニ於テ、當然ノ法則ヲ以テ、下セル命令、及ヒ委托ハ、即形貌ニ於テ、法ニ合スル者ナルカ故ニ、屬官タル者、必ク自己ノ職掌ニ應シテ、之ヲ遵奉施行スヘキコト、固ヨリ當然ナリ、去レモ上官若シ職掌外ノ事、及ヒ唯私情ニ涉レル事ヲ依囑シ、或ハ署名セル命令書ヲ要スル時、之ヲ用ヒスシテ、

依囑スルカ如キハ、之ヲ拒テ遵奉セサルコト、固ヨリ當然ト云フ可シ、何者、官吏タル者ハ、決シテ上官ノ僕妾ニアラス、實ニ國家ノ官吏タレハナリ、凡ソ上官指令セル事ノ、能ク正理公道ニ協フト否トハ、特ニ命令ノ形貌ニ於テ、判然タルヘケレハ、先ッ此形貌ヲ考定スルコト、最モ緊要ナリ、〔按〕命令然ノ法則ニ協フト否トヲ考定スルヲ、但シ上官指令セル事、實ニ其職掌内云、命令ノ事理ヲ考定スルニハアラズ、但シ上官指令セル事、實ニ其職掌内ニ屬スルヤ否ヤ、判然明カナリ難キコト雖モ、上官若シ之ヲ以テ、斷然其職掌内ニ屬スルト爲セハ、屬官タル者ハ敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ故ニ此ノ如キハ、再考熟思シテ、其行フト輟ムトヲ、決スルヲ俟ツノ權利アリ、加之、上官ノ指令ヲ奉スルニ、敬思ヲ加ヘサルハ、其底ル所、國家ノ法制紊レ、安寧ノ破ルヘキヲ察セハ、必ク自己ノ意ヲ述テ、上官ヲ諫メ、以テ上官ノ再熟考スルヲ俟ツヲ以テ、自己ノ義務トナスヲ要ス、

一三上ノ七

〔乙〕官吏上官ノ命ニ恭順スルノ緊要ナルハ、論ヲ俟ダストイヘモ、上官若シ

神教及道義ヲ毀壞スヘキ旨ヲ命シ、或ハ覆法ノ所業ニ與ニスヘキヲ命スル時ニ於テモ、猶之ニ恭順ス可キノ理ハ、決シテ有ラズ、神教及道義ヲ毀壞シ、或ハ覆法ノ所業ニ與ニスルカ如キハ、決シテ國家ノ事務、職官ノ職掌ト爲ス可ラス、蓋シ天神ノ人ニ禁シタル事、及ヒ刑法ノ國家臣民ニ禁シタル事ヲ以テ、之ヲ國家官吏ニ求ムルノ理ハ、萬々アル可ラサレハナリ、

〔丙〕但シ上官ノ指令、唯事理ニ於テノミ、正理及ヒ憲法ニ背戾スルコトアリトモ、〔按〕貌ニ於テハ、法ニ合、屬官敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、此ノ如キ時ニ於テハ、唯セサルコトナキヲ云、屬官敢テ之ヲ拒ムノ權アルノミ、凡ソ屬官タ自ラ緊要ナリト思惟セル説ヲ、上官ニ述告スルノ權アルノミ、凡ソ屬官タル者ハ、常ニ上官ノ能ク正理憲法ヲ遵守シテ、敢テ之ニ背カサルヲ希フヲ要ス、故ニ上官時アリ誤リテ、輕卒ニ思考シ、遂ニ背法ノ事ヲ指令スルコトアラハ、屬官タル者ハ、公平ノ心、尊敬ノ意ヲ以テ、上官ヲ熟諫スヘシ、此ノ如クナルキハ、上官ノ意、或ハ之ニ由テ回り、其指令ヲ改ムルコト、必スシモ之レナシト云フ可ラス、○屬官タル者ハ、政府及ヒ上官過誤アルニ方リテハ、

必ス忠告シテ之ヲ改メシメ、以テ政府上官ヲシテ、他日ノ悔ナカラシムルヲ怠ル勿レ、而シテ政府上官遂ニ之ヲ用ヒスシテ、猶其處分ヲ改ムルコトナケレハ、屬官タル者ハ、則已ムヲ得ス、止之ニ恭順スルヲ以テ、其義務ト爲スヘキノミ、但シ此ノ如キ時ニ於テハ、其處分ヲ保任スル者ハ、獨リ政府上官ノミ、屬官ハ決シテ、之ニ預ルコトナシ、○此ノ如キ時ニ於テ、屬官タル者、政府上官ニ恭順セサルヲ許スルハ、遂ニ政府ノ一致破レ、威權モ共ニ痿痺スルニ至ルコト必然ニシテ、其害タルヤ、保任ノ義務ヲ負ヘル、政府上官ノ一二背法ヨリ生スル害ヨリモ、更ニ甚シカル可シ、

○儘此理ヲ國憲上ニ詳定セル國アリ、例ヘハ亞諾威爾國一千八百三十三年天保四年ノ國憲、第一百六十一章ニ云、「上官當然ノ規律ヲ以テ下セル指令ハ、獨リ上官ノミ之ヲ保任ス可シ、屬官ハ決シテ保任セスシテ可ナリト、」

指令ノ國憲ニ背戾セル時ニ於テモ、屬官ノ處分ハ、復全ク上ニ論スルカ

如シ、〔按〕前條ニハ、指令ノ憲法ニ背戻セル者ニ就テ云ヒ、茲故ニ屬官タル者ハ、縱令ニ上官ノ指令スル處、國憲ノ一二規律ニ背戻スル所アリト思維スルモ、敢テ之ヲ拒ムヲ許サス、若シ之ヲ拒ムヲ許スハ、上下ノ序次紊亂シテ、上權遂ニ亡滅スルニ至ルノ患ヒアリ、但シ若シ別種ノ規律アリテ、常法外ノ處分ヲ許ス者ハ、此限ニアラス、

〔第七〕忠義トイフ、ハ、其達スル所、恭順ノ義務ヨリモ更ニ廣シ、官吏上官ヨリ指令セラレタル事ヲ、形貌及ヒ事理ニ於テ、能ク遵奉シテ、之ヲ施行スレハ、乃チ能ク恭順ヲ盡セリト云フ可シ、去レテ未ダ忠義ヲ盡セリト云フ可ラス、夫レ忠義ハ、唯指令ヲ遵奉スルノミニ止マラス、猶官吏自己ノ所業ニ就テ存スルアリ、但シ今世忠義ヲ尊ムノ意ハ、中古ノ一ヘンス、ヘルハ、ハッスンク

〔按〕中古ノ一ヘンス、ヘルハ、ハッスンク、封建ノ制ニ類似スル者ナリ、ノ世ニ於テ、唯忠義ノミヲ以テ、國家制度ノ卷之四第十九款ニ詳ナリ、ノ世ニ於テ、唯忠義ノミヲ以テ、國家制度ノ大基本ト爲セシトハ、全ク別趣ニシテ、〔按〕中古ノ一ヘンス、ヘルハ、ハッスンク、法等ヲ以テ、君臣間ノ規律ヲ立ルコトナリ、必ズ憲法ヲ以テ、官吏ノ權利ヲ確定シ、

且、職官ノ事務ヲ以テ、唯君臣ノ義ヨリ生シテ、偏ニ君ノ爲メニ盡スヘキ務ト爲サス、專ラ治安ノ緊要ナル理ヨリ生シテ、偏ニ國家ノ爲メニ盡スヘキ務ト爲サスハ、論ヲ俟ダス、去レテ此理ニ由リ、忠義ヲ以テ、今世ノ開明ニ適セスト云フハ、甚ダ不可ナリ、今世ト雖モ、忠義ハ決シテ廢廢ス可ラス、蓋シ百官能ク一致親睦シテ、同ク國家ノ爲メニ力ヲ盡スハ、專ラ忠義ノ存スルニ由テナリ、

國家大小ノ事ニ於テ、屬官ノ意見論說、縱令ニ或ハ上官ト相異ナルコトアリモ、唯是ヲ以テ、屬官既ニ忠義ヲ傷フトハ云フ可ラス、去レテ若シ屬官國家制度ノ大本ヲ信セスシテ、專ラ之ヲ傾倒センコトヲ謀ルカ如キハ、既ニ國家官吏タルニ必要ナル忠義ノ務ヲ傷フト云フ可シ、例ヘハ、君主國ノ官吏ニシテ、民主政體ヲ立テ、ノヲ謀リ、或ハ民主國ノ官吏ニシテ、君主政體ヲ起サンコトヲ企ルカ如キ、則チ是ナリ、其他官吏タル者、若シ政府ヲ傾覆セントスル所ノ逆謀ニ與ニスルカ如キハ、亦全ク忠義ヲ傷害スト云フ可シ、官

吏タル者此ノ如キニ至リテハ、政府決シテ安全ヲ保ツ能ハサル、敢テ辨
 ナ俟タス、[○]又官吏タル者、政府ノ嚮導者ナルミニステルヲ懺視シテ、之
 ナ倒サンコトヲ謀ルモ、亦忠義ヲ傷フ者ニシテ、勢此ノ如キニ至ルキハ、政
 令ノ權遂ニ全ク陵夷スルニ至ル可シ、官吏ノ所業、縱令未嘗テ不恭順ヲ
 顯サ、ルキト雖亦然リ、[○]官吏タル者、政府上官ト全ク相反スル意見ヲ
 抱クコトアリト、未嘗テ忠義ヲ傷フト云フ可ラス、加之、縱令心中政府上官
 ナ惡ムノ情アルモ、其奉職上ニ於テ、尙忠義ヲ盡セハ、則未嘗テ忠義ヲ傷
 フ者ト爲ス可ラス、去レモ官吏若シ怨惡ノ情ヲ奉職上ニ施スニ至ルキハ、遂
 ニ國權ノ一致破レテ、殆ト安全ナル能ハサルニ至ル必然ナリ、但シ官吏ノ意
 見、政體ノ本意、或ハ政令ノ方向ト、全ク相表裏スルカ爲メニ、政府上官ニ對
 シテ、忠義ヲ盡スノ心ヲ捨テ、遂ニ抗拒ノ情ヲ、言行ニ顯ハサ、ルヲ得サ
 ルニ至ルキハ、君子ハ必シ其官ヲ辭セサル可ラス、若シ然セサレハ、官吏タル
 ニ必要ナル忠義ノ務ト、自己ノ意見ト相戾リテ君子ノ體面ヲ損スルコト、

甚^ク擧カラス、然ルニ法官ノ如キハ、其職掌政令ニ關セズ、又政府ノ意思ニ
 屬セズシテ、獨立スル者ナルカ故ニ、曾テ上ニ論スルカ如キ患アラズ、
 ○ギヅウ 佛人、一千七百八^{カ著セル}華盛頓^{一生史ノ緒論中、華盛頓ノ}
 論ヲ擧ク、曰ク、「余吾國ノ政柄ヲ掌握スル間ハ、人或ハ政府衆議ト全ク
 相表裏セル所見ヲ抱クヲ知り、而シテ之ヲ要路ニ擧ルコトハ、敢テ爲ス能
 ハス、若シ此ノ如キコトヲ爲セハ、則政府自刃スルナリ」ト、^{〔按〕「政府自ラ}
 リト、[○]又ペルツ^{獨乙人、一千七百}九十五年^{ニ生ル、カ著セル}ス^{タイン}一生史中^{〔按〕ス}
 ハ獨乙人、一千七百五十七年^{ニ生レ、八百三十一年ニ死ス、普魯士ニミニステル}ス^{タイン}カ、忠義ヲ存
 セサル官吏ノ國家ニ、大害ヲ爲ス所以ヲ歎シタル論ヲ擧ク、曰ク、「凡
 國家官吏、過半廉恥ヲ失ヒ、忠義ヲ喪フニ至リテハ、已ムヲ得ズ嚴酷ノ
 處置ヲ施シ、或ハ劇ニ其職ヲ放テ、或ハ之ヲ幽囚シ、或ハ之ヲ寂漠ノ地
 ニ放逐シ、以テ國家ヲ害シ、政府ヲ倒サント欲スル暴論ノ蔓延スルヲ
 防クノ外、決シテ他ノ術計アルコトナシ」ト、

其他官吏シル者ハ國家元首ノ許可ヲ受ケサレハ、敢テ外國ノ職官ヲ兼任セズ、又外國ノ勳爵俸祿等ヲ受ケズ、其他總テ外國君主、若シハ其政府ノ免許等ヲ受ケサルコトモ、亦官吏ノ忠義ト云フ可シ、

〔第八〕官事ヲ秘匿スルコトハ、モ亦官吏ノ必守ルヘキ義務ナリ、去レテ此事全ク限界ナキニハアラズ、唯其發露ニ由テ、政府若シハ其事ニ關セル私人ノ爲ニ、害ヲ生スヘキ事件ハ、必、秘匿シテ、敢テ漏洩セサル可ク、且、大義ニ於テモ、敢テ漏洩スルヲ要セサル事件〔按〕若シ政府上官等大惡無道ノ隱謀アルニ方リテハ、縱令、政府上官ニ害アリ、之ヲ漏洩シテ、其害ヲ防カサル可ラス、蓋シ人ノ天神ニ仕フル大義此ノ如シ、ハ、必、秘匿シテ漏洩セサルヲ要ス、其他ハ之ヲ漏洩スルモ、決シテ妨、ナシトス、然ルニ決シテ秘匿スルヲ要セサル事件ヲモ、猶秘匿シ、或ハ國憲及ヒ憲法ニ悖戻セル處分ヲ、掩蔽スルノ意ニリ、故サラニ之ヲ秘匿スルト、及ヒ輕忽ニ官事ヲ漏洩スルトノ二事ハ、譬ヘハ、猶相對セル巖礁ノコトニ、宜シク共ニ之ヲ避ケテ、其中路ヲ行クヘシ、

〔第九〕國家ハ其法制秩序ヲ保護スルノ義務ヲ負フカ故ニ、官吏若シ其職務ヲ怠リ、或ハ其規律ニ背クコトアルハ、必、之ニ刑罪ヲ加フノ權利ヲ握ル、但シ此罪ニ二種アリ、其一ハ、職官ヲ以テ犯ス所ノ大罪〔按〕例ヘハ、賄賂ヲ貪リ、官金ヲ私シ、或ハ官ニシテ、刑法ヲ以テ罰スル所ノ者、其二ハ、職事ヲ漏洩スル等ノ罪ナリ、〔按〕尋常ノ法ニテハ、罪トニシ官ノ義務ニ背ク罪〔按〕テ、懲戒法〔按〕テ、甲刑〔按〕テ、乙刑〔按〕テ、背ク罪ヲ罰スル刑ニハ、專ラ國家ノ安寧健全ヲ保護スルヲ本旨ト爲ス、故ニ此二刑中、又司法、フテ、警保、ツアリ、ニ權ノ別アリ、〔按〕司法ハ、專ラ公權、又警保ハ、專ラ安寧健全ヲ保護スルノ權ナルカ故ニ、若シ云フナリ、○甲ハ、即、尋常ノ刑法ヲ用ヒ、且、通常ノ治罪法ニ由テ、之ヲ審判スルヲ常則トス、但シ又國家ノ爲ニ、謀リテ、此常則ヲ棄テ、以テ他法ヲ用フル事ニ様アリ、即、其一ハ、職官ヲ以テ犯セル大罪ヲ審判スルノ權ヲ以テ、法院當然ノ權トシテ、之ニ委セス、唯政府若シ

七ノ上四〇

ハ此事ヲ法院ニ委任スヘキ權ヲ有セル職官ヨリ、法官ニ指令シテ、此罪ヲ審判セシムルノ法ト、又其二ハ、別ニ官吏ノ審判ヲ爲スヘキ法官ヲ設置スルノ法ト、是ナリ、

懲戒ノ治罪法ハ、其區域尋常ノ治罪法ヨリモ廣博ナリ、故ニ刑官ハ、判シテ殆ト無罪トシテ、釋セシ所業ト雖モ、懲戒法ニ於テ、國家ノ要務、及其職官ノ義務ニ戻レル所業タルトハ、必ズ懲戒刑ニ處セサル可ラス、〇都テ職務ニ於テ犯セル罪ハ、小罪ト雖モ、懲戒刑ヲ以テ之ヲ罰シ、且、職務ヲ怠ルノ罪モ亦、之ヲ以テ罰ス、其他官吏ノ尋常私事ニ關セル所業ト雖モ、若シ職官ノ威ヲ汚シ、民人ノ信ヲ失フニ足ルモノナレハ、必ズ懲戒刑ヲ以テ之ヲ罰ス、

○普魯士國一千八百四十九年嘉永二年ノ布告、ヘルオルドヌング第一章ニ云、「官吏タル者ハ、官事私事ニ論ナシ、其言行、宜シク民人ノ望ニ協ヒ、其信ヲ得ヘシ、是レ即其諸義務中ノ一ナリ」ト、

七ノ上一四一

懲戒刑ハ、分テ二類トス、即其一ハ、唯過失ヲ罰スル刑、オールドヌングナリ、即チ傲戒、ワルヌ、譴責、ヘル、及些少ノ罰金、ベシユレンクテ、ゲルド、ブ、等ノ如シ、其二ハ、暫ク職務ヲ停ムルノ刑、アインス、テ、唯暫ク職務ノミヲ停ムル處ノ刑、刑ヲ云フ、他官ニ選請スルノ刑、ヘルセツ、グ、デ、ベ、ア、ム、テ、按、其職官ヲ免ラスシテ、安息ヲ命スル刑、ウン、フ、ライ、ケ、ヘルセツ、グ、イ、ン、デ、ン、給ス、或ハ放職、エン、ト、ラ、ッ、ス、グ、按、ノ刑等ナリ、而シテ第一刑ハ、通常審判ノ法ヲ用フルヲ要セス、唯上官ノ權ヲ以テ、處分スルヲ許ス、去レ、第二刑ニ於テハ、上官若シ專恣不正ノ處分ヲ爲ス、ハ、大ニ、屬官ノ權利ヲ枉害スルノ恐レアルヲ以テ、必ズ審判ノ法ヲ用ヒサルヲ得ス、或ハ又放職ノ刑ハ、尋常ノ法院ニテ施行シ、暫ク職務ヲ禁スル刑、他官ニ選請スル刑、及ヒ安息ヲ命スル刑等ハ、總テ政府ニテ施行スルノ法ヲ立ル國アリ、〇但、尋常ノ法院ハ、官吏ノ罪ヲ審判スルニ於テモ、唯其平民ノ罪科ヲ審判スルノ方法ヲ用フルヲ知ルノミ、是ヲ以テ、唯其人ヲ視テ、其職官ヲ視ル能ハス、故ニ職

七ノ上四二

官ニ於テ緊要ナル事ナ、十分ニ辨知スル能ハス、又官吏ノ言行善良ナラサルキハ、大ニ國權ノ一致和同ヲ傷害スル所以ノ理ヲモ、詳細ニ洞悉スル能ハサル者ナリ、然ルニ此ノ如キ法院ニ、官吏ノ罪科ヲ審判スルノ特權ヲ與フルハ、決シテ良法ト云フ可ラス、況ヤ此法アルキハ、二三官吏ノ幸ハ、却テ國家及諸職官ノ害トナリ、且、私法獨、捷ヲ獲テ、國法ヲ倒スノ理ナリ、○或ハ其編制宜シキヲ以テ、能ク國法ノ理ヲ詳悉シ、實ニ官吏ノ罪ヲ審判スルニ堪ユル處ノ法院アラハ、此ノ如キ特權ヲ委任スルモ、國家ノ爲ニ、決シテ害ヲ生スルコトナカル可シ、若シ此ノ如キ法院アラサレハ、已ムヲ得サルニ方リテハ、政府必、此權ヲ握リテ、官吏ノ言行、其任ニ當ラサル者ヲ、退黜スルヲ緊要ト爲ス、○

〔按〕尋常ノ法院ハ、能ク私人ノ罪ヲ審判シ得ト雖モ、職官ノ罪ヲ審判スルニ至テハ、拙陋ナル者多シ、故ニ職官ニ於テ、有罪トナルヘキ所業ヲモ、私法ニ照準シテ、無罪ト爲スコトナキニアラス、若シ此ノ如ク

ナルキハ、罪ヲ免レシ官吏ハ、僥幸ヲ得レトモ、之ニ由テ國家諸職官ノ規律ハ、遂ニ紊亂セサルヲ得ス、是レ即、本文二三官吏ノ幸ハ、却テ國家及諸職官ノ害トナリ、且、私法獨、捷ヲ獲テ、國法ヲ倒スト云フ所以ナリ、

○普魯士國一千八百四十九年 嘉永七年七月十一日ノ布告ニ云、「官吏忠義ノ務ヲ傷フ時、若シハ職掌ニ於テ緊要ナル膽量ヲ失フ時、其他政府ヲ怨惡スル黨ニ與スル時ニ於テハ、殊ニ之ヲ退黜スルヲ要ス」ト、

第四款 國家職務ノ止息、エンデ、デス、スター、ツギーンステス、

〔第一〕官吏ハ、職官ノ爲ニ任用スル者ニシテ、決シテ官吏ノ爲ニ職官ヲ設ルニアラス、故ニ職官ヲ廢止スルキハ、官吏亦其職ヲ喪フハ、固ヨリ當然ナリ、總テ職官ノ廢立ヲ定メ、及其品類ヲ立ルコトハ、公衆ノ利害如何ヲ視テ、施行スル者ナリ、故ニ此事ハ、全ク國法ニ屬スル處分ト云フ可シ、然レモ

七ノ上四

官吏品位祿ヲ得ルノ權利ハ、全シ私法ノ理ニ出ル者ナルカ故ニ、
官ヲ廢止スルコトアリト、此權利ヲ併セテ、共ニ廢止スルノ理ハ、
決シテ有ル可ラス、元來右ノ如ク、職官廢止ノ爲ニ無官トナリシ者ハ、
若シ其職官ノ廢止ナケレハ、則チ猶數年ノ間、俸祿ヲ得ヘキ者ナルカ故ニ、
縱令無官トナリシ後ト雖モ、其數年間ハ、必ス品位祿ヲ受ルノ權利ヲ有ス、

〔第二〕官吏授任セラレタル職官ノ奉仕ヲ承諾スルト否トハ、
本人ノ自由ニ任スコト、一般ノ通則ナルカ如ク、職官ヲ辭謝スルコトモ亦、
近今ノ國法ニ於テハ、必ス本人ノ自由ニ任ステ、通則ト爲スニ至レリ、
但シ任官ヲ承諾スルノ自由ヨリ、復テ之ヲ辭謝スルノ自由ノ由テ起ルニハ、
アラス、辭謝ノ自由ヲ生スル因故ハ、必ス他ニ在ル者アリ、
何者、總テ義務ヲ擔當スルト否トノ自由ニ在ルノ理ヲ推テ、
又之ヲ放擲スルモ、其自由ニ在リトスルノ理ハ、
決シテ有ル可ラサレハナリ、他ノ因故トハ、何ソヤ、
即チ本人ノ氣力及ヒ情意ナリ、凡ソ國家職官ノ如キハ、
特ニ官吏タル者ノ氣力ノ強弱、情意

七ノ上四

ノ向背ニ由テ、利害ヲ生スルコト最モ多ク、
而シテ政府縱令官吏ノ氣力ヲシテ強壯ナラシメ、
情意ヲシテ歸向セシメント欲スルモ、
勢ハ決シテ能ハサルナリ、
然レモ本人氣力ノ強弱ト、
情意ノ向背ヲ問ハス、
強ヒテ職務ヲ掌ラシメシト欲シ、
敢テ其辭謝ヲ許サ、
ルキハ、
決シテ國家ノ爲ニ少益アラサルコト必然ナリ、
○但シ若シ國民各奉務スヘキ職官
〔按〕本卷第三款〔第三〕
如キハ、
少ナクモ預定セル期限内ハ、
必ス辭職ヲ許サ、
ルコト爲ス、
○

○普魯士國ノ法律ニテ、
〔按〕國土ノ法ト云フ義ニシテ、
普國固有ノ法律ニテ、
羅馬法等ヨリ撰用セル法ニアラサルナリ、
ニ云フ官吏自ラ職ヲ辭スルニ方リテ、
之ヲ許客セサルハ、
唯公衆利益ノ爲ニ甚害アル時ソミナル可シト、
○巴以里國一千八百十八年
文政ノ

布告ニ云フ、
國家官吏ハ、
其職ヲ辭スルコト自由ナル可シ、
但シ品位祿、
職務祿、
稱號及ヒ職掌ノ標章
〔按〕服色等ノ標章ヲ云フ歟、
皆之ヲ失フ可シ、
總テ職ヲ辭スル

○例ニ云フ、
英國ノ法律ニテ、
二年間セリ、
〔按〕州縣ノ官ニ奉仕セシ者

ハ、其後三年間ノ休暇ヲ得ヘキコト、本人自由ニ任ス、

但シ官吏自ラ職官ヲ辭スルノミニテハ、猶其職官ヲ離ル、コト能ハス、蓋官吏タル者、恣ニ職官ヲ離ル、ノ理ハ決シテアラサレハナリ、官吏若シ恣ニ職官ヲ離ルレハ、是即自ラ職官ヲ放擲スルナリ、凡シ官吏ノ辭職ヲ請フキハ、嘗テ職官ヲ授任シタル、國家元首復之ヲ罷免スルニ、其際只十分ノ理柄生ス、故ニ官吏タル者、實ニ此罷免ヲ得テ、始テ其職ヲ離ル、ヲ得ルナリ、且免官ノ時期ヲ定ルカ如キハ、公衆ノ利害ヲ視テ、施爲スルコト、全ク政府上官ノ權ニアリ、

官吏緊要ノ事故〔按〕疾病老衰等ノ類ヲ云、アラスシテ、辭職スルカ爲メニ其請ヲ允ス

キハ、乃、職官ヨリ生スル所ノ權利ハ、國家ニ屬スル者〔按〕職掌ニ係レル權利ルノ權及私法ニ屬スル者、〔按〕俸祿ヲ得ノ權利ヲ云、ノ別ナク、皆之ヲ失フ可シ、

〔第三〕去レテ官吏當然安息ヲ請フノ權利ヲ得タル者ハ、前條ノ理ヲ以テ論シ難シ、但シ此ノ如キ官吏ト雖モ、安息ヲ請フキハ、眞ニ職掌ニ係レル權ヲ

失フハ、固ヨリ言テ俟テ、唯稱號品階等ノ如キ、榮譽ノ權利、及ヒ俸祿〔按〕安息ヲ得ルノ權利ハ、猶必保存スルヲ得可シ、而シテ其救助祿〔按〕即安息祿ナリ、

多少ハ、通例嘗テ勤仕セル、年數、及ヒ其人ノ年齢ニ隨テ、各差アリ、○高齡〔獨

乙ニテハ七十歳、比耳時ニテハ六十五歳〕ニシテ、且、既ニ數十年間〔三十年

或ハ四十年〕勤仕セル者、及ヒ縱令此年齢年數ニ滿タサルモ、疾病等ニ由テ勤仕ニ堪ヘサル者ハ、救助祿ヲ得ルノ權利ヲ得ヘシ、且、官吏若シ職務ノ爲

ニ、疾病疵傷等ヲ得テ、遂ニ勤仕ニ堪ヘサルニ至ルキハ、必復救助祿ヲ得ル固ヨリ當然ナリ、何者、國家ノ職務ヲ委任セラレタル者、其職務ノ爲ニ

傷害ヲ受ルルキハ、國家之ヲ償フノ義務ヲ負フ、固ヨリ法ノ公理ニ出レハナリ、

七 上 四 七
〔第四〕官吏ノ請求ニ依ラスシテ、其職ヲ罷免シ得ヘキヤ否、且、如何ナル時ニ於テ罷免シ得可キヤノコトニ就テハ、近今各國ノ議論相異ナリ、獨乙國ニ於テハ、既ニ其帝國ノ時ニ於テ、法學士ノ論ニ基キ、官吏タル者ノ私身ノ

七ノ上四八

爲ニ大ニ其家計ヲ慮リテ職官ハ通例官吏ノ終生保有スヘキ權利トナシ而シテ政府敢テ恣ニ之ヲ罷免スルコトナカリキ唯官吏若シ其職掌ニ背クキハ必ス法院ノ審判ニ由テ免黜セラレタリキ○但シ時アリ大ニ榮譽ヲ與ヘテ職ヲ免ルスハ決シテ國家ノ理ニ戻ラサル所以ヲ論スルノ徒モ儘之レアリシカモ前世期一千七百ノ末ニ至リテハ終身任用スルヲ以テ善トスルノ論盛ニ世ニ行ハレ遂ニ近今ノ國憲ニ於テ終身任用ノ法ヲ立テシ國アルニ至ル蓋シ自由權ノ進歩シタル所以ニシテ且ツ政府ノ專恣ヲ防制スルノ良法ト云フヘシ即チ獨乙ニテ此法ヲ用ヒ又近世ニ至リテハ瑞士國ニテモ某官ニ於テ之ヲ用フ但僅ニ定期間任用スルノ官殊ニ多シ然ルニ英國ニテハ政論朋黨ポリチーセ、パルターテ議論相異ナルカ爲ニ黨與數派ニ分ル之ヲ政論朋黨ノ威權盛ニシテ職官ハ特ニ國家ノ爲ニ授任スル者ニシテ決シテ私人ノ願望ニ由テ授任スル者ニアラスト云フ論ヲ主張スルカ故ニ獨乙ノ議論ニハ全ク相反シテ苟クモ官吏タル者ノ私身ノ爲ニ慮ルノ論

七ノ上四九

ナク特ニ國家ノ爲ニ謀ルノミ故ニ英國ニテハ君主自由ニ職官ヲ授任スルノ權利ト共ニ又之ヲ自由ニ赦免スルノ權利トモ併セ握リテ決シテ此權利ヲ限制セサルノ法ヲ立テタリ○但シ法官ハ必ス實ニ君主ニ從屬セサルヲ良法ト爲スカ故ニ君主トイヘモ自由ニ罷免スル能ハサルノ法アリ既ニ維廉第三世一千六百五十年ニ生ノ世ニ於テ通常法ゲマイテ〔按〕英語ニコムモソナラノ法官ハ寵愛ノ寵ヲ云アル時間任用スルノ舊法ヲ改メ而シテ行狀〔按〕法官ノ正善ナル時間任用スルノ法ヲ立テタリ但シ行狀正善ナラサルコアルニ至リテハ必國君巴力門ト商議シテ之ヲ免黜スルコトナセリ○北亞米利加ノ法モ亦英法ニ倣フ佛國ニテハ政官ヲ免スルハ往古ヨリ君主ノ專ラニスル法ナリキ唯法官ヲ免黜ス可ラサル一ハ既ニ第十六世期〔按〕一千五ニ於テ通則トナセリ獨乙ノ法ハ官吏タル者ノ私身ノ爲ニ慮ルコト實ニ甚ダシキニ過ルノ弊アルハ辨テ俟タス去レモ若此弊ヲ除去シ而シテ更ニ國家ノ爲ニ謀ルコトナモ

○五上ノ七

爲セハ此法却テ他ノ立憲各國ノ法ニ優ルヲ明カナリ他各國ノ法ノ如キハ君主自由ニ官吏ヲ免職スルヲ許ストイヘト獨乙ノ法ハ皆ニ之ヲ許サ、ルノ益アルノミナラス亦政論朋黨ノ縱ニ政府ヲ籠絡シテ遂ニ官吏進退ノ權ヲ奪フヲ防シニ足ルノ益アリ、

職官ハ國家ノ爲ニ設立スルノ理ニ由テ國家ハ必自己ノ安寧ノ爲ニ官吏ヲ任用スルノ權利アルキハ又自己ノ安寧ノ爲ニ謀リテ一官吏ヲ免職シテ他ノ一官吏ヲ以テ之ニ代任スルノ權利ヲモ併テ掌握セサル可ラス而シテ此權利ハ必嘗テ之ヲ任用セシ者ノ掌ルヘキヲ固ヨリ當然ナリ故ニ若何レノ官此權利ヲ掌握スヘキ乎ノヲ決定シ難キキニ方リテハ〔按〕嘗テ任用ヲ掌リシ官若シ既ニ廢絶シタルカ如キキニ於テハ本法ノ如ク嘗テ任用ヲ掌リシ官復赦免ヲ掌ル可カラサルカ故ニ何レノ官此權利ヲ施行スヘキ乎甚々國家元首此權利ヲ掌握ス可シ○官吏ノ退職ヲ獨、法院ニ委任スル所ノ各國ニ於テモ退職ノヲ若シ全ク政治上ニ關係シテ少モ私法ノヲニ關係ナキキハ必此規律〔按〕任用ノ權ヲ握ル者復赦免ヲ用

ソルヲ要ス、

○北亞米利加ニテハ統領嘗テセナトノ補助ヲ以テ任用セシ官吏

トイヘト統領獨之法赦免スルノ權利ヲ握ルノ法アリ甚理ニ戻レリ但此法〔按〕國家安寧ノ爲ニ謀リ亦必限制スル所アリ即政府ニ從屬セサル法院少爲ニ之ヲ限制シ或ハ官吏ノ私身ノ爲ニ慮リテ之ヲ限制ス、是故ニ司法ノ事ヲ全法院ノ特權ニ任スル國ニ於テハ甲ノ限制府〔按〕政屬セサル法院ノ爲ニチナスカ爲ニ近世一法ヲ立テ縱令政府ノ權ト雖モ、法官ヲ本人ノ意ニ戻リテ免職スルヲ得ス又他官ニ遷任スルヲ得ス若シ安息ヲ命スルハ必全祿ヲ給セサルヲ得サルトナシ而シテ英國ニテハ、實ニ已ムヲ得サルニ方リテハ巴力門ノ議ヲ以テ法官ヲ罷免スルノ規律ヲ立テタリ、律ヲ立テ又獨乙ニテハ法院ノ審判ヲ以テ之ヲ罷免スルノ規律ヲ立テタリ、乙ノ限制〔按〕官吏ノ私身ノ爲ニ慮ニ爲スニハ大概左ノ數件ノ外免職ノ事ヲ行フ可カラズト爲ス可シ、

一五上ノ七

甲 官吏罪犯アルカ爲ニ官吏タルノ品行ヲ損スルヲ灼然タルキハ、
 乙 官吏任用ノ後縱令罪犯ノ如アラスト雖モ其職掌ニ勉勵セス、或
 丙 官吏精神昏迷シテ職官ノ事務ヲ失忘シ實ニ國家ノ爲ニ緊要ノ
 丁 官吏縱令其身一ノ間然スヘキコトナシト雖モ自ラ他ノ事故ニ
 由テ實ニ其職ニ居ル能ハサルニ至ル時若クハ大ニ人望ヲ失ス
 ルニ至ルキハ遂ニ其職ヲ罷免不可シ即官吏ノ事ヨリシテ雄強
 ナル外國政府ト葛藤相生シ解テ不可ラサルニ至ルキハ縱令其官
 吏常ニ能ク職務ヲ盡シテ曾テ之ニ背キシコトナシト云フモ遂ニ

其職掌ヲ奉スル能ハサルニ至ルカ故ニ已テ得ス其職務ヲ停メ
 サル可ラス(余カ見テ以テスルハ普魯士王佛帝那破倫第一世ノ
 強威遠敵シ難キカ爲ニ遂ニミニステルスダイシテ罷メシカ如
 キ是レナリ)又官吏公衆ノ惡ヲ受ケテ之ニ由テ遂ニ騷亂ノ起
 ラシトスルキハ縱令其官吏亦能ク常ニ職務ヲ盡シテ曾テ之ニ
 背キシコトナシト云フモ既ニ大ニ人望ヲ失フテ之ヲ罷メサ
 ル可ラス
 (按)次タボノハ普國柱石ノ臣ト稱セラレシ賢相ナリシカ、
 當時佛帝耶破倫第一世カ擅ニ獨乙チ謀ルチ惡ミ之チ抗拒ス
 ルノ策ヲ企テシカ故ニ那破倫ノ威ヲ以テ普國ニ迫テ之チ退
 黜セシメタル事ナリ
 右數件次如キコトアルニ方カテハ國家必ス其官吏ヲ罷免シ以テ公衆ノ爲
 ニ妨害ヲ避テサル可ラス但第一件即甲行ニ論セルカ如キコトアルニ方

リテハ、法院、刑法ノ通則ニ隨テ、官吏ノ罪ヲ審判スルコト、當然ナルヲ以テ、政府ハ敢テ之ニ關セス、獨リ法院此事ヲ掌リ、其權ヲ以テ、官吏ヲ退黜ス可シ、然ルキハ稱號品階、俸祿、及救助祿ヲ得ルノ權利等ヲモ、亦共ニ剝奪スルコト當然ナリ、

第二件、即乙行ニ論セルカ如キハ、官吏實ニ罪犯ノコトアルカ爲メ、之ヲ黜シルニアラサルヲ以テ、決シテ尋常ノ法院ヲシテ、審判セシム可ラス、必ス懲戒法ニ由テ、之ヲ罷シ、可シ、但本人ヲシテ、自己ヲ防護スルニ、自由ナラシムルコトニ、意ヲ用フルコト肝要ナリ、〔按〕冤罪アルヲ恐ル、カ故ニ、本人ヲシテ、其情實ヲ陳セシムルコト、自由ナラシム要ナリ、○罪過ニ足ラサルモノヲ稱スルコト、大小ニ隨テ、或ハ相應ノ安息祿ヲ與ヘテ、安息ヲ命シ、或ハ官吏ノ私身ノ體面、及ヒ其稱號、品階等ヲ妨害セスシテ、唯其職ヲ免スル、〔但〕俸祿ヲ得ルノ權ハ、全ク廢除ス可シ、〔等〕ノ差等アルヘシ、然レモ上段ノ赦免〔按〕安息祿ヲ與ヘテ、安息ヲ命スルノ一段ヲ云ハ、唯職官ヲ免スルノミニシテ、未ダ官吏ノ其職ニ在リテ、受ケタル私權利〔按〕安息祿ヲナ、妨害得ルノ權利、

スルニ至ラサルヲ以テ、下段ノ赦免〔按〕官吏私身ノ體面、及ヒ其稱號、品階等ヲ損害セスト、雖モ職官ト共ニ、全ク廢除スルニ於ケルモ、更ニ自由ニ處分スルノ權利、尙政府ニ在ルヘキコト、論ヲ俟ス、

第三件、即丙行ニ論セルカ如キコトアルニ方リテハ、安息〔按〕安息ヲ命スルコト、當然ナリ、故ニ通例放職〔按〕安息、スルヲ許サス、何者、官吏決シテ罪アルニアラス、唯精神心思ノ常ヲ失フ者ナレハナリ、

第四件、即丁行ニ論シタルカ如キコトアルニ方リテハ、或ハ安息ヲ命シ、或ハ他官ニ遷任ス可シ、但、其職官ノ品性ハ、必ス實ニ前官ニ同シカル可ク、〔按〕例ハ、甲省ノ卿ナレハ、乙省ノ卿ニ遷シ、或、且、品階、俸祿、共ニ舊ニ依ハ、乙省ノ輔ナレハ、甲省ノ輔ニ遷ス、ノ類ヲ云、

テ變テ可ラズ、○丙丁ノ二行ニ論シタルカ如キ時ニ於テハ、政府上官、能ク事情ヲ酌量シテ、至當ノ處分ヲ爲ス、最モ緊要ナリ、而シテ現ニ免職ス可キ官吏、嘗テ國家元首ノ授任ヲ受ケシ者ナラハ、必ス國家元首ノ准許、及ヒ命令ヲ俟テ、之ヲ免ス可シ、

然ルニ政府故ナク、縦ニ官吏ヲ免黜シ、剩サヘ此時ニ於テ、官吏ヲシテ、自
己ノ利益ヲ防護スル〔按〕冤ヲ訴テ得サラシムルノ國、近今儘之レナキニ
非スト、雖モ、甚、職官ノ安靜ニ害アリ、

〔第五〕姑ク職掌ヲ禁スル〔按〕前款第九ニ出ツ、ハ、或ハ刑罰ノ爲ニ施行シ、
或ハ公衆ノ利益ノ爲ニ唯一時ノ處分トシテ、施行ス可シ〔按〕意下條ニ
而テ、刑罰ノ爲ニ施行スル時ニ於テハ、或ハ法院治罪法ヲ以テ之ヲ施シ、
或ハ政府上官懲戒法ヲ以テ之ヲ施シ得可シ、然ルキハ官吏、姑ク其職掌
ヲ施行スルノ權利ヲ失ヒ、及通例其時間ハ、俸祿ノ全額、若クハ若干部分
ヲ受ル能ハサル可シ、
姑ク職掌ヲ禁スル〔按〕公衆利益ノ爲ニ一時ノ處分トシテ、施行スル〔按〕
ニ就テハ、憲法ヲ以テ、預メ其時ヲ定ム可シ、例ヘハ官吏罪犯ノ訴ヘアル
時ク如キ是レナリ、但此ク如キ訴ヘアラスト、雖モ、儘政府ノ權ヲ以テ、右ノ如
ク一時ノ處分ヲ爲ス〔按〕アリ、即チ安息ヲ命スルノ制度ナキ國ニ於テ、大ニ

民人ノ怨惡ヲ受ケタル官吏ヲシテ、一時之ヲ避ケシメント欲スル時ノ
如キ是レナリ〔按〕本文論スルカ如キ状態アルキニ於テモ、官吏ヲシテ、仍
ニ前文ニ姑ク職掌ヲ禁スル〔按〕公衆利益ノ爲ニ一時ノ處分トシテ、施行スル
爲ニ、一時ノ處分トシテ、施行スル〔按〕云フナリ、○一時ノ處分ヲ爲スノ意、
決シテ刑罰ヲ施スカ爲ニアラサルキハ、其官吏ノ官ニ在リテ受ケタル
私權利〔按〕俸祿ヲハ、決シテ奪フ可ラス、然レモ敢テ俸祿ノ全額ヲ與フル
ヲ要セス、唯其一半ノ品位祿ノミヲ與フ可シ、何者、官吏實ニ私事ノ爲ニ受
ル者ハ、唯此祿ノミナシハナリ、○又縱令、罪犯審問ノ時間、姑ク其職掌ヲ停
ム、此時ト雖モ、品位祿ノ與フ可シ、但シ若シ罪過ノ爲ニ、償金及罰金ヲ出サ
シムル下有ルニ於テハ、之ニ充ツルカ爲ニ、此祿ヲ本人ニ付與セスシテ、
姑ク法院ニ附托ス可シ、

第五款 輔弼ノ官ニシテ、總員ノ相合スル者、ナク、
〔第一〕ニシテ、國家元首以輔弼トナリテ、君權ノ諸方向ニ發輝スル

チ助ツル者ナリ、凡ソ立憲君主國ノ如キハ、其君主政令諸課ノ處分ニ於テ、必本課ヲ委任セルミニニステルノ輔佐ヲ假ラサルヲ得ス、而シテミニステルハ、其處分ニ就テ、必保任ノ義務ヲ負ハサル可ラス、○又民主國トイヘテ、三統領アインツ、二大臣プレジデントヲ以テ政府ノ主長トナセル國〔按〕北亞米利加ノ如キ是ナリ、瑞士ノ如キハ、數員ヲ以テ之ニシテ、必ミニステル、即スターツセクンテールヲ置テ、統領ノ輔佐ト爲ス、但君主國ノ統領ハ、自ラ保任ノ義務ヲ負フカ故ニミニステルノ爲ニ、其權ヲ限制セラル、一君主ニ比スレハ、更ニ少シ、二ニステルハ、決シテ國家元首ノ私臣ニアラス、是故ニ元首ノ命令依囑ヲ悉皆遵奉スルノ義務ヲ負ハサルノミナラス、必亦自ラ任シテ、政府ノ嚮導トナリ、以テ君主ノ命令依囑スル所實ニ法ニ合シテ、國家ニ緊要ナリヤ否ヲ考定シ、且ツ自ラ見ル所ヲ以テ、之ヲ君主ニ論述スルノ權アリ、國政ノ大體ニ於テ、君主ノ所見、若ミニステルト合セサルコアルキハ、是

ニ由テ政府ノ能力挫折シテ、盛ニ發進スル能ハサルノ恐レアリ、是ヲ以テ君主ハ、必其欲スル所ニ隨テ、自由ニミニステルヲ選任スルヲ得ルノ法アリ、故ニ他人強ヒテ薦ムル所ノ人物アルモ、君主若シ之ヲ信セサレハ、必之ヲ舉ルヲ要セス、且、縱令君主ノ舉メト欲スル人物ト雖モ、其人若シ君主ヲ信セサレバ、亦必其選舉ヲ承奉シテ、ミニステルトナルヲ要セサルナリ、○君相相ヒ信スルハ實ニ緊要ナリト雖モ、其間必兄弟朋友ノ親愛アルカ如クナル可シト云フニハアラズ、唯政治上ニ於テ、君主ハ其ミニステル才幹實ニ現今ノ政令ヲ執ルニ堪ユルヲ信シ、又ミニステルハ君主輔佐ヲ吾レニ任シテ、敢テ疑フ所ナキヲ信スレハ即足レリ、
〔第二〕國務ノ品類、及方向ニ隨テ、之ヲ區分シテ、數部ト爲スノ方法數種アリ、但事務ノ區域甚ク廣博ナル各部ハ、必ミニステル一員、其首位ニ在リテ、之ヲ統括スルヲ善シトス、何者、每部必一人其精神ノ全力ヲ以テ、之ニ任スル者アラサル可ラサレハナリ、○數部デバル、一區分ハ、通例左ノ如シ、

七上六

〔甲〕外務省 イセ、オ 總テ外國交際、及ヒ其諸關係ノ事務ヲ掌ル、其他合邦
ア、ブ、デ、ス、相、統、合、ス、ル、者、ヲ、云、米、國、瑞、士、等、ノ、如、シ、ス、タ、ー、テ、ン、 盟、邦、ス、タ、ー、テ、ン、 獨、乙、ス、ル、者、 如、シ、ニ、於、テ、ハ、兼、テ、其、各、邦、聯、合、ノ、事、ヲ、掌、ル、

〔乙〕內務省 イ、ネ、レ、 總テ國內諸部 イ、ン、テ、レ、 オ、ル、ガ、ニ、ス、ヲ、總、管、シ、且、 國
內ノ諸政令ヲ掌ル、但、別種重要ノ事務ハ、別ニ諸省 〔按〕 州縣等 ヲ、云、 以下 〔按〕 諸省 ヲ、云、 之ヲ
掌テシム、

〔丙〕兵部省 キ、リ、グ、ス、ミ、 國家ノ兵備軍務ヲ掌ル、

〔丁〕警保省 キ、リ、ツ、イ、ミ、 國家ノ警保權ヲ掌ル、但、或ハ之ヲ司法省ニ合
シ、或ハ內務省ノ屬司 ト、シ、テ、 國、ヲ、

〔戊〕司法省 ユ、ス、フ、ツ、ミ、 國家元首預ル所ノ司法事務ヲ掌ル、〔按〕 法院
ヲ、ス、尙、卷、之、六、第、十、ト、混、ス、可、
七、款、ヲ、參、看、ス、可、

〔己〕財務省 ヒ、ナ、ツ、ミ、 財務ノ權ヲ施行シ、財用ノ供給ヲ掌ル、

〔庚〕教部省 シ、ウ、ム、 神教、及ヒ諸學術ノ教育ニ關係セル事務ヲ掌ル、

〔辛〕土木ノ公役、及ヒ工商ノ事務ヲ掌ル所ノ省、ミ、ニ、ス、テ、リ、ウ、ム、ヒ、ユ、エ、ル、
ハ、ン、デ、ル、ウ、ン、ド、ゲ、エ、ル、 在昔ハ、此事務ヲ、內務省若クハ財務省ニ合併セシカニ、
今時開化ノ世ニ於テハ、是等ノ事業ヲ盛大ニスルヲ、甚々切要ナルヲ以
テ、多クハ別ニ一省ヲ置テ、之ヲ掌ラシム、

民主國ニ於テハ、或ハ合議官 コ、ル、ノ、ギ、 ヲ置テ、右ノ諸事務ヲ掌ラシム、
蓋シ民人政體 デ、モ、カ、 ヲ貴ヘル國ニ於テハ、總テ一人全權ヲ握リテ、事務
ヲ統括スルヲ嫌思スルヲ、甚々シキカ爲ナリ、〔按〕 瑞士國ノ如キハ、合議
官 ヲ、置、ク、 米國ハ然ラス、

〔第三〕國家元首、右諸省 ミ、ニ、ス、テ、ル、 上ニ在リテ、之ヲ統括ス、是故ニ君主
ハ、必、各、ミ、ニ、ス、テ、ル、 親シク接遇スルヲ要ス、但、國政ノ大體ニ於テ、ミ、ニ、
ス、テ、ル、各、員、ノ、所、見、互、ニ、合、同、一、致、ス、ル、ヲ、モ、亦、甚、緊、要、ナ、リ、蓋、各、省、ノ、事、務、

互ニ關涉スル所アリテ、甲省 ミ、ニ、ス、テ、ル、 乙省 ミ、ニ、ス、テ、ル、 處分
ニ利害ヲ生スルカ如キヲ、必、シ、モ、無、キ、能、ハ、ス、是、ヲ、以、テ、ミ、ニ、ス、テ、ル、 總員
ヲ合シテ、ミ、ニ、ス、テ、ル、 合院 ケ、サ、ム、ト、ミ、ニ、ス、テ、リ、ウ、ム、 〔按〕 即チ設ケ、以テ

七上六

共ニ要務ヲ商議セシムルノ制度アルナリ、然ルニ此制アラサルキハ、ミ
 ニステル各員、各自ニ君主ト議シテ、事ヲ決定スルノミニシテ、決シテ、相
 共ニ商議スルコトナキカ故ニ、政令ノ爲ニ害アリ、○ミニステル合院ノ内、
 相合同一致スルキハ、其勢力盛強ナルカ故ニ、君主及ニ兩院、并ニ國民ノ爲
 ニ、壓制セラル、カ如キ、恐レアルコトナシ、去レテ若シミニステル相合同一致
 スルコト甚シキニ過キテ、遂ニ君主ノ威權ヲ蔑如シ、其統御ヲ仰カサルニ
 至ルカ如キハ、甚不可ナリ、是故ニ君主タル者ハ、ミニステル各自ニ召
 シテ、政ヲ議シ事ヲ定ムルモ、決シテ妨ケナク、且、ミニステル總員ノ中、一
 人ヲ汰シテ、之ヲ退黜スルモ、亦決シテ妨ケナシトス、
 ミニステルブレシデント 〔接〕ミニステルノ首領ト云フ義ニシテ、本邦
 大政大臣ノ如シ、但、又兼テ一省卿ノ職ヲ帶フ、
 一人アリテ、ミニステル合院ノ首坐ヲ占ム、英國ニ於テハミニステル總
 員ノ中ニ於テ、必、門閥品階ノ最モ貴キ者ヲ撰テ、之ヲミニステルブレシ
 デントト爲スナ善シトス、是レ全ク形ヲ取り、實ヲ捨ツル者ナレトモ、蓋、英

國ノ能ク實際ニ老練シテ、發明スル所以ナリ、然ルニ他各國ニ於テハ、多
 クハ實ニ政柄ノ大綱ヲ執レル者ヲ以テ、ミニステルブレシデントト爲
 スコト常ナリ、○第一法 〔接〕英國ニテ、ナ用フルキハ、二個ノ利益アリ、何者、
 第一、君主猜忌ノ情ヲ生スルコト自ラ少ク、第二ニハ、實ニ政柄ヲ執レルミ
 ニステルヲ警視セル徒ノ射レル箭直ニ此ミニステルニ中ルコト少クシ
 テ、且、其實權、決シテ痿痺スルノ患ナケレハナリ、○然リト雖モ、第二法 〔接〕
 政柄ヲ握レルミニステルヲ、ミニステルブレシデントト爲ス、ナ用フルキハ、ミニステル合院能
 シ和同シテ、其勢力盛強トナリ、且、院中ノ序次、自ラ宜シキヲ得ルノ益ア
 リ、

○〔接〕實ニ政令ノ大綱ヲ執レルミニステルヲ以テ、ミニステルブレシ
 シデントトナスキハ、其威權愈盛ナルカ故ニ、自ラ君主猜忌ノ情ヲ
 發セサル能ハス、且、此ミニステルヲ警視セル徒ノ、之ヲ傾倒センコト
 謀ルモ、亦愈熾ナリト雖モ、門閥品階貴キ者ヲ、ミニステルブレシデント

トト爲スキハ、權威甚盛ナラサルカ故ニ、君主ノ之ヲ猜忌スルモ自薄ク、且、此時ニ於テハ、實ニ政柄ヲ執レルミニステルハ、譬ヘハ此門閥品階貴キミニステルヲ干盾トシテ、自ラ其後面ニ潛伏スルカ如キ景狀ナルカ故ニ、之ヲ監視セル徒ノ傾倒ヲ謀ル勢力モ、自ラ殺弱スルナリ、

〔第四〕ミニステルハ、政令ノ處分ニ就テ、君主ニ自己ノ所見ヲ述告シテ、其裁定ヲ乞ヒ、及、君主出ス所ノ施令ノ文書ニ、共ニ連署スル者ナリ、又君主ハ、ミニステルノ論述スル所ヲ聞テ、其可否得失ヲ自由ニ思量シ、且、若シ議政官スターツラート〔按〕本ノ議ヲ聽カント欲セハ、則チ召シテ之ニ謀リ、而シテ自己ノ所見ヲ以テ、或ハ之ヲ採用シ、或ハ之ヲ採用セサルノ權ヲ有ス、君主縱令、一ニノ政令ニ於テ、ミニステルノ議ヲ採用セサルコトアリ、
ニ由テミニステル其職ヲ退クヲ要スルノ理、決シテアルナシ、蓋シ君主僅ニ一ニノ議ヲ採用セサルハ、未ダミニステルヲ厭惡スルニアラサレハ

ナリ、去レモ若シ此ノ如キ時ニ於テ、君相ノ際其見ル所全ク相表裏シ、國政ノ大體ニ於テ、遂ニ後來其議論ノ和同セサル可キ勢、預シメ洞察ス可キニ至リテハ、已ムヲ得ス、其ミニステルヲ罷免スルノ外、決シテ他術アルコトナシ、而シテ其處分ニ至テハ、或ハ君主之ヲ罷免シ、或ハミニステル自ラ解職ヲ求ム可シ、兩様共ニ必ス自由ナルヲ要ス、
君主ハ必スミニステルノ建議ヲ俟、ヲ要スルノ理ハ、決シテ之レアラズ、又預メ自己ノ意見ヲ示シテ、ミニステルヲシテ、靜ニ之ヲ熟思シ、其施行ノ方法ヲ設定シテ、以テ上聞セシメ、而シテ其可否得失ヲ裁定スルノ權アリ、但シミニステルハ、必ス自己ノ所見ヲ君主ニ建白シ、又君主ノ處分、或ハ不正不當ノコトアレハ、之ヲ諫諍シ、君主若シ之ヲ聽カサルハ、已ムヲ得ス、連署ヲ辭シ、其事ヲ輔佐セサルヲ以テ、自己ノ義務ト爲ス可シ、
日常小事ノ如キハ、政令ノ要務ナラサルヲ以テ、君主專ラ之ヲミニステルニ委託シテ、通例之ニ關セサルヲ善シトス、但シミニステル事ヲ施行スル、

或ハ粗漏ニ涉リ、又ハ專恣ノ處分ヲ爲ス等ノ恐レアラハ、小事ト雖モ、君主必親カラ之ヲ聞知セサル可ラス、○政令諸務ノ方法ヲ一致セシメテ、互ニ睽離セサラシメ、及ヒ公衆安寧ノ術ヲ營ム等ノ如キ、大政務ニ至リテハ、君主必怠慢ナク、丁寧綿密ニ注意シ、而シテ其力ノ及フ限リハ、必自ラ主トナリテ、之ニ從事スルヲ要ス、但シミニステルノ輔佐ヲ假ルハ、固ヨリ當然ナリ、總テ君相ノ際、互ニ其處分ニ就テ、隱秘スルハ、甚不可ナリ、

〔第五〕君主實ニ施行セント欲スル政令ノ文書ニハ、必其事ニ參與セルミニステル、君主ト共ニ連署スルヲ要ス、若シ此連署ナキ文書ハ、未ダ眞實ノ政令タルヘキ形貌ヲ得サル者トス、ミニステル斯連署ヲ爲スルハ、之ニ由テ、其處分ヲ保任スルノ義務ヲ負フ可シ、故ニ若シ其處分ノ不正不當ナルカ爲メニ、他日罪ヲ受ルコアルニ方リテ、嘗テ特ニ君命ニ由テ處分セシ由ヲ辨スル能ハ、決シテ其罪ヲ免ガレ、能ハサルコト當然ナリ、總テミニステルタル者ハ、敢テ君主ノ非ヲ擧ケテ、自ラ其罪ヲ遁ル可ラス、政令處分ノ

惡キハ、全ク自己ノ罪ナリト爲シ、又其處分ノ仁善ニシテ、公衆ノ之ヲ感戴スルニ至ルハ、全ク君主ノ功ナリト爲スヲ要ス、

ミニステル保任ノ形狀ニ數種アリ、

〔甲〕公論エツヘントリヘ、マイヌング〔接〕天下ノ公論ヲ云フ、ニ對シテ保任ス可シ、凡ソ出版ノ自由ヲ許セル國ニ於テハ、天下千萬ノ眼目、悉クミニステルノ舉動ヲ注視ス、〔接〕出版自由ノ國ニテハ、新聞ヲ以テ、善惡ニ就キ、ミニステルノ擧動ヲ公告スルカ故ニ、天下悉ク之ヲ知テ、論スルヲ得ルナリ、故ニ其一擧一動、直ニ天下ノ評論ニ掛ラサル者ナシ、殊ニミニステルヲ監視スル黨

與ノ論ニ至テハ、最モ其盛ヲ極ム、方今各國共ニ、君主其處分ヲ保任セサルノ規律アリト雖モ、此規律決シテミニステルノ罪ヲ掩フ能ハス、且、縱令ヒ君主言ヲ設ケテ、ミニステルノ非ヲ庇護セント欲シ、某處分ハ決シテ獨リミニステル自己ノ意ニ出ルニアラス、カレ他特ニ吾意ヲ體シ、吾命ヲ奉シテ、行フ所ナリト説クト云フモ、亦決シテミニステルヲ救フニ足ラサルナリ、

〔乙〕兩院ニ對シテ保任ス可シ、兩院ハ、公衆ニ代リ、其不平ノ意ヲ遞傳シテ、君主ニ告訴スルノ權利アリ、且ツ專ラ其事ヲ處分セシミニステルニ、處分ノ嫌疑スヘキ所以ナリ、告述スルノ權利アリ、ミニステル若シ兩院多數ル、カムメルン、デノ望ヲ失フキハ、國家ノ爲メニ甚々重害タリ、何者、形勢此ノ如クナルニ至ルキハ、兩院ミニステルノ處分ニ就キ、其方法ヲ准許スルヲ欲セサルカ故ニ、縱令其方法中、公衆ノ爲ニ仁善ナルコアルモ、或阻閣セラレテ、遂ニ行フ能ハサルニ至レハナリ、是故ニミニステル大イニ兩院ノ嫉惡ヲ受ケテ、遂ニ銷ス可カラサルニ至リテハ、巴ムナ得ス其職ヲ罷免スルノ外、他術アルナシ、去レモ此事決シテ、國法ノ規律タルニハアラス、既ニ各國ニ於テ、唯兩院少數 ミソ、デル、カ ムメ、ノ左袒ヲ得タルミニステル、多數ノ嫉惡ヲモ願ミス、猶多年ノ間、自若トシテ其職ニ止マリシ例少カラス、○英國ニテハ、往昔ヨリ巴力門政令 バルラメンツレギールン グ〔按〕英國ニテハ、巴力門ノ威權盛ニシテ、專ラ政令ノ實權ヲ握ル、ノ法行ハレテ、巴力門

威權盛強ナルコト實ニ驚クニ堪タリ、蓋シ若シ他ノ立憲各國ニ於テ、巴力門ノ威權、此ノ如ク盛強ニ過ルキハ、殆ト治安ニ害アルヤ、必然ナリト雖モ、英國ニテハ、此法却テ治安ニ益アリ、故ニミニステル若シ巴力門ノ爲メニ一敗ヲ取ルコトアルハ、動モスレハ、其職ヲ辭スルニ至ルコト、從來ノ風習トナレリ、然ルニ此國ニ於テスラ、古來二三ノミニステルハ、大イニ下院ノ嫉惡ヲ受ケテ、尙且、數年間、能ク政柄ヲ握リタリキ、例ヘハ賢相ビット 一千七百五十年ニ生レ其八百零六年ノ如キ則チ是ナリ ○蓋シ若シ大地各國ニテ、ミニステル一敗ヲ取ル毎ニ、輒チ其職ヲ辭スルノ風習アルキハ、國家ノ爲メニ、甚々不利ナル可シト雖モ、英國ニテハ、却テ不利ナラサルハ、何ッヤ、英國ニテハ、君主及兩院ノ信ヲ兼テ得タル人傑少カラス、且ツ此國ニテハ、國家ノ礎石トナリテ、強盛ノ威權ヲ備フル者ハ、貴族、富人、及識者ニシテ、貴族ハ、父祖ノ品行ヲ墜サシテ、恐レ、富人ハ、自己ノ利ヲ失ハシテ、恐レ、識者ハ、其道ニ背カンコトヲ恐ル、カ爲メニ、輕舉暴動ヲナシテ、敢テ政府ニ抗拒セント欲スルノ意アラ

サレハナリ、然ルニ大地ノ羅馬人種各國、及ヒ日耳曼人種各國〔按〕前冊ノ註ス、如キハ、未タ英國ノ如ク、眞ノ靜寧ヲ得ル能ハスシテ、殊ニ平民〔按〕殊ニ貧賤無識ノ徒ヲ云、ノ權、甚ダ強大ニ過ルヲ以テ、縱令ヒミニステル一旦兩院多數ノ嫉惡ヲ受ルコアリヒ、敢テ之ヲ願ミス、自若トシテ其職ニ止マルヲ緊要トス、但シミニステル若シ終始多數ノ嫉惡ヲ受ルニ至リテハ、勢復々其職ニ居ル能ハサルハ論ヲ俟タス、

○當時下院君主ニ抗疏シテ、左ノ旨ヲ述タリ、曰ク「政府若シホルク卷之六上ニ出ノ代者タル臣等ノ信セサル政令ヲ執テ、敢テ改メサルキハ、必ス國家ノ安寧ヲ害ス可シト」〔按〕蓋シビットヲ惡テ、此ノ如ク云フナリ、然ルニビット其後遂ニ天下ノ信ヲ得タリ、故ニ下院改選ノ後ニ及ヒテハ、其多數悉クビットニ左祖スルニ至レリ、〔按〕方今普國ノ賢相卑思麥ノ如キモ、其初メ甚ダ人望ヲ得サリシカ、方今ハ殆ト全國ノ人望ヲ得ルニ至レリトゾ、是故ニ通例ノ景狀ヲ以テ論スレハ、ミニステルトナリテ、國務ヲ掌ルヘキ者ハ、必ス君主及ヒ兩院ノ信ヲ得ル者ナル可シ、

〔丙〕國事ノ告訴カタラツゲ、アルニ方リテハ、國事法院ゲリフト、ニ對シテ、保任ス可シ、國事ノ告訴ヲ爲スノ法ハ、各國ニ於テ根殊ナリ、或ハ各院各自ニ之ヲ爲シ得ルノ國アリ、或ハ獨百姓院ホルクスカムメル、之ヲ爲シ得ルノ國アリ、或ハ兩院合シテ、始テ之ヲ爲シ得ルノ國アリ、唯兩院合シテ、始テ告訴ヲ爲シ得ルノ國ニ於テハ、告訴ノ事甚ダ限制セラル、ナリ〔按〕蓋シ兩院ノ論、一致セサレハ、告訴ヲ爲シ得サレハナリ、○又此ノ如キ告訴ノ審判ヲ掌ルヘキ官ニ至リテモ、各國復々相同シカラス、或ハ上院之ヲ掌リ、或ハ別種ノ國事法院之ヲ掌ル、卷ノ五第十一第十二ノ兩款ヲ參看ス可シ、

〔第六〕ミニステルノ政令ニ關セル保任ポリチーセ、ヘルアン、ハ、其法律ニ關セル保任ユリスチーセ、ヘルアン、トナルトリフカイト、トハ、相異ナリ、政令ニ關セル保任ノ制、全備セル國ニ於テハ、ミニステル唯見ル所ヲ愆リ、不當ノ政令ヲ爲セシ時ト雖モ、亦得テ之ヲ告訴スルヲ許スカ故ニ、ミニステル必ス其處分ノ保任ヲ辨解セサル可ラス、之ヲ政令ニ關セル保任ノ辨解ト云フ、但シミニス

テ爾若現存ノ法制(國憲及憲法)ヲ毀損シ、及ヒ罪科ヲ犯セシ時ニアラサ
 レハ、決シテ法律ニ關セル保任ノ辨解ヲ爲スヲ要セス、○是故ニ政令ニ
 關セル保任ノ辨解ハ、縱令ヒミニステル背法ノ罪科ナシト雖モ、其理治不
 當ニシテ、國家ノ安寧ヲ營ムニ足ラサル時ニ於テ爲ス可ク、又法律ニ關
 セル保任ノ辨解ハ、唯法ニ戻レルヲ爲セシ時ニ於テノミ爲ス可シ、
 瑞典國ニテハ、ミニステル若右二様ノ保任ニ背ケルキニハ、別ニ其告訴
 ヲ掌ルノ官アリ、乃チミニステルノ政令不當ナル時、及現存ノ法制ニ背
 ケル時ニ於テハ、共ニステンデ〔按〕即代ノ一部局之ヲ告訴スルヲ得、〔按〕
 典國ニテハ、代國府中ニ數部局ヲ置キ、諸事ヲ分掌セシム、其中國憲ヲ保
 護スルヲ掌ル一局アリ、此局即ミニステルノ罪過ヲ告訴スルヲ掌ルナ
 リ、但政令不當ナルキハ、之ヲステンデ〔按〕代國府ノニ告訴シ、若國憲及ヒ
 憲法ニ背戻セルヲアルキハ、スターツアーノワルト〔按〕罪犯者ヲ追捕
 ルヲ掌ル官ナリ、卷之ノ紹介ヲ以テ之ヲオーベルステル、ゲリフツホフ
 八第四款ニ詳ナリ、〔按〕最高法院ニ告訴スルヲ得ルナリ、○ステンデ其一部局ヨリ告訴セシ旨意ヲ

思量シテ、若理アリトスルキハ、其事ヲ君主ニ聞シ、告訴セラレタルヲ
 ト〔按〕議官若シハ、スターツセクレテール〔按〕ミニス、〔按〕テ罪センヲ請フノ
 權アリ、凡、ラートタル者ハ、能ク其任ニ堪ユヘキ材能ヲ具ヘ、且、能ク實際
 ニ練磨シ、兼テ公正廉ニシテ、能ク天下ノ人望ヲ得ルヲ要スルヲ、國家
 ノ憲法ナリ、故ニ若其政令不當ナルカ爲、ニ告訴セラル、キハ、既ニ天下
 ノ人望ヲ失フ、明瞭ナルヲ以テ、仍長ク其職ニ在ル能ハサルヲ、固ヨリ
 明カナリ、○但國事法院ス、スターツハ、法律ノ規律ヲ以テ、其犯人ノ罪科ヲ密
 判シ、而シテ之ニ法律上定ムル所ノ刑ヲ加フ、
 英國ニテハ、右論スルカ如ク、政令ニ關セル保任ト、法律ニ關セル保任ト
 ノ別ヲ立ルヲナシ、故チ以テミニステルノ事ニ就テ、告訴スヘキヲアル
 キハ、總テ其事ノ、或ハ專ラ政令ニ關シ、或ハ專ラ法律ニ關スルニ論ナク、下
 院之ヲ告訴シテ、上院之ヲ審判ス、且、此國ニテハ、ミニステルノ施行セシ
 所業中ニ就テ、必、告訴スヘキ所業ト、告訴ス可ラサル所業ノ區別ヲ立テ、

及^レ刑罰ヲ加フヘキ所業ト、刑罰ヲ加フヘカテサル所業トノ區別ヲ判カチ、
 或ハ保任法〔按〕ヘルアントナルトリフカイツゲセツ、及^レ處刑法〔按〕ミニス
 テルナリ、刑罰ヲ設ル等ノ一ヲ以テ、甚^ク緊要ト爲サス、唯時ニ臨テ、國家ノ爲
 ニ至當ノ處置ヲ施スヲ以テ、緊要ト爲ス。○此國往昔ハ、甚^ク慘酷ノ處置
 多カリシカ、爾後實際ニ練磨スルニ隨テ、漸ク變シテ寬仁ノ處置ヲ爲ス
 一トナレリ、又北亞米利加ニ於テハ、政令ニ關セル事、及^レ法律ニ關セル事
 共ニ、都テセナート〔按〕上、其告訴ヲ受ケテ、之ヲ判定スト雖モ、其權亦限
 制スル所アリテ、唯縱カニ放職、エントセツ、及^レ不應官〔按〕職官ニ應セストシ
 テ、罷免スルノ義、ノ罰ヲ加フルノミ、若^シ刑法ヲ以テ刑罰ヲ加フル、當然
 ナル可シト思フキハ、其審判ヲ尋常ノゲスナルチンゲリフト〔按〕ゲス
 用フル、法院ノ義ゲスナルチニ委スル法ナリ、余カ所見ヲ以テスレハ、此
 ノ一ハ、卷之八ニ詳カナリ、ニ委スル法ナリ、余カ所見ヲ以テスレハ、此
 法蓋^シ英國ノ法ノ全備セル者ナラン、

○英國ノ法學士中、或ハ尋常刑法ノ理ニ由テ、唯罪犯アル時ニ於テノ

ミ、保任ノ法ヲ用ヒ、其餘ハ之ヲ用ヒサルノ規律ヲ立テント欲セシ者
 アリシカニ、此論遂ニ行ハレサリキ、

佛國ニテハ、ミニスレル唯國家ニ對セル罪犯スターツヘルゲーヘン、〔按〕
 アル時ニ於テノミ、下院之ヲ上院ニ告訴スルノ法アリ、但^シ又政令不當ナ
 ルノ罪モ亦、國家ニ對セル罪犯ノ部ニ屬スル一トナセリ、凡^ソ告訴スヘキ
 罪ハ、第一ニ、謀叛ノ罪、ヘルテート、佛語ニ、即^チ總テ君主、及^レ國家、并ニ國憲ヲ
 危ウスルヲ云、第二ニ、民財ヲ剝奪スルノ罪、エルプレッスン、佛語ニ、即^チ法
 ニ背イテ、稅歛ヲ厚ウシ、賄賂ヲ貪リ、官金ヲ私贓スル等ノ一、復^タ之ニ屬ス、
 第三ニ、忠義ヲ捨テ、其職掌ニ背クノ罪、ヘルウントロイウン、佛語、其他
 總テ憲法ニ背戻スル罪、權威ヲ恣ニスル罪、并ニ總テ國家ノ公益公利ヲ
 損害スル罪〔按〕政令不、等、並ヒニ亦之ニ屬ス、
 獨乙ニテハ、從來專ラ法律ニ背ケル罪ニ著眼シテ、政令ヲ害スル罪ニ、注
 意スル一甚^ク少シ、是故ニ其審判ヲ以テ、唯國事法院ニ任シテ、嘗テ政府ニ

七 任スルヲナシ、

上ノ七〔第七〕ミニステルノ保任有名無實トナラサルヲ要スルカ故ニ、各國共、近
六七 今ノ國憲ニ於テハ、君主ミニステルノ罪過ノ查問ヲ停止スルノ權、及ヒ其

既ニ審判セル罪ヲ赦ス等ノ權利ヲ限制シ、或ハ廢棄シタリキ、
ヲ停止シ、或ハ罪ヲ赦ス等ノ權
ハ、卷之六第十七款ニ詳ナリ、
○〔按〕吾主查問

○比耳時ノ國憲第九十一章ニ云、「カッサチオンスホフ〔按〕上等法院、ミニステ
ルノ罪ヲ審判スルキハ、立法府ノ一院、其赦罪ヲ請フニアラサレハ、君
主敢テ之ヲ赦ス可ラス」ト、

大井潤一 校

國法汎論卷之七 上終

國法汎論卷之七 下目錄

第六款 議政ノ官

第七款 兵權○常備軍及ヒ護國軍

第八款 警保

第一 警保ノ本性

第九款

第二 警保ノ區別及ヒ其專要ノ職掌

錄目下ノ七

瑞士 イカ、ブルンヂュリ 著

加藤弘之 譯

第六款 議政ノ官

〔第一〕方今ノ世ニ於テハ、兩院アリテ憲法ヲ議定シ、ミニステル合院アリテ、國政ノ要務ヲ施行シ、其他ノ諸事務ニ至テハ、各省ニ於テ、其ミニステル之ヲ分掌シ得ルカ故ニ、別ニ議政ノ官ヲ置クハ、無用ニ屬スルノ説ヲ唱フル者アリ、

實ニ君權無限ノ國ニアブツルニテ、ニ於テハ、兩院ヲ設ルコトナク、唯議政ノ官アリテ兩院ノ職掌ヲ關攝スルカ故ニ、此國ニテ此官ヲ置クハ、立憲君主國ニシテ、モナルヒ、ニ於テ、此官ヲ置クヨリモ、更ニ緊要ナルコト論ヲ俟タス、但シ縱令ニ兩院ヲ置ク所ノ立憲君主國ト雖モ、此官全ク無用ニ屬ストハ云フ可ラス、抑、此國ニテハ、議政ノ官直ニ憲法ヲ制立スルノ職掌ヲ

帶フルニハアラス、去レ其兩院ニ於テ政府ヨリ示ス所ノ法案（ゲセツニスホ
ールシニラグ、
 ナ採用スルト否トハ、殊ニ其法案ノ得失可否ニ由ルカ故ニ、必ス議政官ヲ
 置テ預、此法案ヲ商議取捨セシムルヲ、甚ク緊要ナリ、是レ即議政官ノ主務タ
 ル所ナリ、○ミニステルハ、能ク政務ヲ創始シ、其方向ヲ示定シ、及ヒ其處分
 ナ嚮導スル者ナリ、去レ其職ヲ、素ト治安ノ劇務ヲ統理シテ、心身須臾モ、
 閑靜ナル暇アラサルカ故ニ、其政令ニ就キ、曾テ潛思熟慮スル能ハサル
 者ナリ、故ニ必ス閑散ニ居リ、潛思熟慮ヲ以テ、其本務トスル者アラサル可
 ラス、而シテ此職務ヲ負フ者ハ、能ク廣博ナル國務ヲ詳悉シ、且、憲法及慣用
 法ノ可否得失ヲ、自在ニ觀察シ、并ニ國事ノ至要ナル者ト、否ラサル者ト
 ナ辨識スルヲ、緊要ニシテ、且、又比朋黨與ノ論判ノ爲メニ、決シテ動カサレ
 サルヲ、亦甚ク緊要ナリ、然ルニ兩院ノ如キハ、素、此ノ如キ職務ヲ負フニ適
 セサルノミナラス、固ヨリ此ノ如キ職務ヲ負フ可キ者ニアラス、又ミニ
 ステルヲシテ、此職務ヲ負ハシメント欲スルモ、前論スルカ如ク、事務繁

劇ニシテ餘暇アラサルヲ如何セシ、是ヲ以テ事ニ老練セル徒、數員ヲ合
 シテ、別ニ一官ヲ設ケ、以テ此務ヲ負ハシメサルヲ得ス、是即議政官ノ必
 要ナル所以ナリ、故ニ此官ニ充ツル者ハ、能ク國家ノ事體、風習ヲ熟知シ
 テ、之ニ適應セル政令ヲ、謀議シ得ル者ニアラサレハ、不可ナリ、○長ヘニ
 變更セサル議政ノ官アリテ、頻ニ變更スルミニステルノ權勢ヲ限制ス
 ルハ、國家安寧ノ道ニ於テ、其利少ナカラス、

議政ノ官ハ、素、君側ニ在リテ、自由ニ政令ヲ參議セシメンガ爲メニ、設立ス
 ル者ニシテ、猶ホ兩院ノホルク〔按〕卷ノ六ニ代ハリテ、ホルクノ利害、及ヒ其
 所見ヲ論達セシムルカ爲メニ、設立スルカ如シ、那破倫〔按〕第一ノ語ニ云
 フ「議政ノ官ハ、余カ商量ノ爲メノ心思ナリ、ミニステルハ、余カ施行ノ爲メノ
 心思ナリ」ト、

〔第二〕又政府示ス所ノアルゾマイチ、ヘルオールドマング〔按〕政府徧ク示令
 卷之六第十九ノ如キモ、通例議政ノ官參議シテ、其可否ヲ論スル者ナリ、故
 款ニ詳ナリ、

四下ノ七

ニ此時ニ於テハ、此官兩院ニ代ハリテ、專ラ兩院ノ職掌ヲ爲スナリ、〔按〕政府示ス所ノ布告ノ如キハ、立法府ノ關スル所ニアリ、是ヲ以テ此ノ如キハニ於テハ、此官決シテ缺ク可ラサル者ナリ、總テミニステルノ建議スル所ヲ定決スル者ハ、獨リ君主ニ止マルト雖モ、先ツ其可否ヲ議政官ニ咨詢シテ、然後ニ定決スルキハ、其事大ニ確實トナルノ益アリ、

〔第三〕又或ハ、國家事アルニ迫テ、之ヲ救防スルニ、非常ノ斷決ヲ要スル時ニ於テモ、亦議政官ノ議ヲ聽クコトアリ、蓋シ此時ニ莅ミテ、其處分甚ダ急忙ナルノ害ハ、亦其甚ダ緩慢ナルノ害ト、全ク相殊ナラス、實ニ此ノ如キ際ニ臨ミ、能ク機ヲ視テ之ニ應スルノ處分ヲ爲シ得ル者ハ、獨リ實際ニ練磨セシ英傑ノミナリ、去レテ非常ヲ救フカ爲メニ非常權ヲ以テ、一時常法常制ヲ廢棄シ、以テ國家ノ難ヲ救ハント欲スルニハ、必ス首トシテ議政官ノ議ヲ聽クヲ以テ、尋常ノ法則ト爲サ、ル可ラス、○但シ若シ此ノ如クスルキハ、或ハ樞機、他ニ漏ル、ノ恐レナキ能ハス、且、又一二ノ議政官、或ハ不當ノ論ヲ執リ、却

五下ノ七

テ政府ノ緊要ナル處分ヲ、障礙スルノ恐ナキニアラスト雖モ、是等ノコトハ、細ニ意ヲ用フレハ、防キ難キニアラス、但シ君主老練セル議政官ノ議ヲ聽クヲ要スルハ、唯丁寧綿密ニ思慮シテ、敢テ粗忽ノ命ヲ下サ、ランテ欲スルカ爲メナルノミ、故ニ君主必ス議政官ノ許可ヲ得サレハ、敢テ其處分ヲ爲ス能ハスト云フノ理ハ、決シテアルコトナシ、蓋シ若シ必ス議政官ノ許可ヲ得サル可ラサルノ法アルキハ、政府ノ權、遂ニ之カ爲メニ束縛セラル、ニ至ルハ、必然ナルヲ以テナリ、

〔第四〕又所謂ヘルワルツングスストライチグカイト〔按〕政務ノコトニ就

ル、ノ判定ニ就テ、決シテ議政官ニ取ルコト、屢之レアリ、例ヘハ、エキスプロプリアナオシ〔按〕公衆利益ノ爲メ、私人ノ有セル土田ヲ賃金ヲ與ヘテ、政府ニ取ルチ云、ノコトアルニ方リテ、私人其有テ政府ニ附與スルコト、實ニ緊要ナリヤ否ノ論定マラサルキニ於テ、其決シテ議政官ニ取ルカ如シ、又租税ノ議ニ就テモ、決シテ議政官ニ取ルコトアリ、例ヘハ、某種類ニ租税ヲ附加スヘキヤ、將某物ニ租税ヲ附加スヘキ

ヤ、其論定マテサルハ、〔按〕某種類ト云フハ、例ヘハ、金屬ナレハ、金銀銅鍍ノ
 フナリ、本文ノ意、蓋シ金銀銅鍍ノ種類ニ租税ヲ附加シテ、其金銀銅鍍ヲ以
 テ製シタル物ニ租税ヲ取ラスシテ、可ナルヘキヤ、將テ種類ニハ租税ヲ
 取ラスシテ、其以テ製シタル物ニ租税ヲ取ル、復決テ議政官ニ取ルカ如
 シ、其他總令、私人ニ屬セルト雖モ、政府之ヲ監督シテ、其准許ト否トナ
 定決スルコト緊要ナルカ如キハ、議政官ヲシテ之ヲ商議定決セシムルナ
 リ、例ヘハ、證書會社〔按〕アソチオンゲセルシャフト〔按〕工商等ノ業ヲ爲スカ爲
 ス、之ヲ證書會社ニ會社ヲ結フキハ、入社ノ徒、其證書ヲ得テ、之ヲ所持
 社ト云フナリ、及、公衆ノ事ニ係レル會社〔按〕エツヘントリヘ、コルボラチオン
 係レル會社ナリ、教、ノ創立廢止并ニ特准權利〔按〕私事ニ關セス、公衆ノ事ニ
 會、大學校等ノ如シ、ノ創立廢止并ニ特准權利〔按〕私事ニ關セス、公衆ノ事ニ
 唯一私人、或ハ一會社ニ、ヲ授與スル等ノ類、及、其他猶之レアリ、
 ノミ准許スルコトアリ、

〔第五〕又議政官ヲシテ、ミニステルノ處分ニ就キ、監察セシムルヲ善トナ
 ス、凡ソミニステルヲ監察シテ、其處分ノ非違ヲ責問シ、以テミニステルヲ
 シテ、之ヲ辨解セシムル權ヲ有スル高官〔按〕議政官ナルハ、一ハ君權ヲ
 保護シテ、其盛大ヲ傷フコトナク、一ハ臣民ヲ保護シテ、其權利及ヒ利監ヲ全

ウスルノ功アルコト實ニ甚カラスミニステルヲ監察スル高官アラサルハ
 ハ、ミニステル、或、其罪惡ヲ隱蔽シ得ヘシト雖モ、若シ此官アルハ、罪惡ア
 リト雖モ、速ニ發露スヘキカ故ニ、國家ノ災害ヲ未萌ニ銷滅ズルヲ得ヘ
 シ、且、之レガ爲メ、自ラ後來ノ罪惡ヲ戒戒スルヲ得ルニ至ルヘシ、

〔第六〕歐羅巴各國ニ於テ、始テ議政官ヲ設置セシハ、其來ル甚ク尚シ、但シ其職
 掌及ヒ編制ノ方法等ニ至リテハ、各國亦異同アリ、○議政諸員ハ、優大ナル
 識見ノ相合シテ、君主ノ知藝トナル者ナリ、是故ニ或ハ此官ヲ以テ數年
 間國事ニ勤勞セル報酬ニ充ツル者ト爲シ、或ハ老衰セル官吏ニ與フル、
 虛職ト爲スカ如キハ、甚ク不可ナリ、〔按〕ミニステル、及、其他高官ニ在リテ、
 之ハ、數年間ノ勤勞ヲ空ウスルカ故ニ、唯其勤勞ヲ謝スルカ爲メ、ト欲ス
 之ヲ議政官ニ轉任スルコトアルカ如キハ、甚ク不可ナリト云フノ意、凡ソ議政
 官タル者ハ、實ニ經世ノ才識ヲ備ヘ、兼テ法學ニ博通シ、及、深ク實際ニ練
 磨スルコト甚ク緊要ニシテ、此三件ヲ兼備スル者、獨リ能ク其任ニ堪ユルヲ得
 ルノミ、○ミニステル、議政官ニ對シ、自己ノ權ヲ逞ウシテ、議政官ヲ壓制

ス可ラス、元來ミニステルノ直ニ事務ヲ掌ルト議政官ノ實ニ監察ヲ掌ルトハ、其職掌全ク相殊ナリ、若シ事務ヲ掌ル官、其權ヲ弄シ、監察ヲ掌レル官ヲ制スルニ至ラハ、監察ヲ掌レル官ハ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ル可シ、故ニミニステルハ、必ス議政官ニ列シテ、共ニ商議スルヲ要ス、去レモ只事ノ可否ヲ論スルノミニシテ、其決議ニ加ハラサルヲ良法ト爲ス、

第七款 兵權

ミリテール、○常備軍、ステールヘン、及ヒ護國軍、ランド、ゲワルト、

〔第一〕國家ノ兵權ハ、全ク國家外面ノ權勢ヲ發耀スル所以ノ者ニシテ、且、此權〔按〕即兵ハ必ス此目的ニ應シテ、整治スルカ故ニ、國家諸權柄中ニ於テ、最モ猛烈ナル者ナリ、是故ニ軍隊ハ、必ス嚴肅ナル軍法ヲ以テ、之ヲ緊束シ、及ヒ十分無限ノ恭順ヲ以テ、其義務トナスコト、甚緊要ニシテ、是等ノコトハ、他ノ諸權柄ニ於テ、絶テアラサル所ナリ、蓋シ外面ノ權勢ハ、多クハ形體法ヒシトセス、ゲセツ〔按〕形體ニ備ハル自然及ヒ運動法〔按〕メカニトセス、ゲセツ、ノ法ヲ云フ、即格物學ニ於テ講スル法ナリ、及ヒ運動法〔按〕堅硬物〔流動物ト

相反ス、運動ノ自然法ヲ云フ、即器械學ニ於テ講スル法ナリ、而シテ此ニ法精神活動ノ自然法ト相反對ス、ヨリ生スル者ニシテ、此法ヲ施用スルノ權力〔按〕即兵ハ、其目的ヲ達スルニ至ル迄ハ、決シテ弛マサルヲ要ス、〔按〕戰爭ハ即外面ノ權ヲ發スル者ナリ、凡ソ戰爭ヲ爲スヤ、必ス殊ニ形體及ヒ運動ノ二法ニ出ルナリ、去レモ又必ス此二法ヲ施用スル所ノ權柄アラサル可ラス、是即兵權ナリ、然ルニ若シ將卒ヲシテ自由ニ其意見ヲ述フルヲ許スルハ、軍隊ノ一致、及其能力共ニ墜弛シテ、遂ニ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ルヤ必然ナリ、○國家ノ兵備ハ、即國家ノ威力ナリ、兵士ノ務ハ、殊ニ國家ニ奉スル所ノ務ナリ、故ニ甚貴シ、且譽多シ、而シテ此兵備ハ、攻撃ト防守トノ爲ニ設置スル者ナリ、然ルニ或ハ「防守戰ノミ獨能ク立憲國ノ意ニ適ス」ト云フ説アルハ、殊ニ怪シム可シ、縱令國家ノ權利ヲ保守スルカ爲メ、戰ト雖モ、景況ニ隨テハ、必ス攻撃ヲ施スヲ要スルノ理アルコト、猶私人ノ私權利ヲ保守センカ然ルニ、自ラ法院ニ告訴スルヲ要スルノ理アルガ如シ、加之、掠奪戰ト雖モ、又必ス爲ス可ラサルトスルハ、不可ナリ、但シ近今ハ、列國法〔按〕ヘルケルレフト、大ニ開明シ、且ッ開化即萬國公法ナリ、

七

モ亦増進シタルカ故ニ、掠奪戰ハ、甚罕ナルノミ、

十下

〔第二〕中古ノ世ニハ、常備軍ヲ設置スルコトナカリシカ、爾後君權無限ノ政
チスル盛ナルニ至リテ、始テ常備軍ヲ設置セリ、然ルニ方今ノ世ハ、君
權無限ノ政喪ヒタレトモ、獨、常備軍ハ國家ノ爲ニ必要ナルヲ以テ、必之ヲ
置クコトナレリ、凡、常備軍ヲ創立セシ以來、道理ニ合セサル戰爭ハ、漸次
ニ跡ヲ絶シ、且、兵事ノ學術大ニ開明シ、其他武人モ、眞ニ武人タルノ德行
ヲ備フルニ至レリ、

常備軍ノ員數ハ、國ノ位置、及隣邦ト相關セル景況ニ隨テ、其多寡ヲ生ス
可シ、故ニ殊ニ國內ノ法ニ關シテ、其多寡ヲ生スルニアラス、但、又此事モ、
必、アラストハ云フ可ラス、何者、常備軍ノ兵數甚多キハ、之ニ由リテ已
ムヲ得ス、厚ク収斂セサル可ラサルニ至ルハ、固ヨリ論ナシ、其他動モス
レハ、君主其國憲ニ背イテ、兵權ヲ弄シ、私政ヲ恣ニスルカ如キ弊害ノ生
スルヲ以テ、立憲國ニ於テハ、務テ兵數ノ增多スルコトヲ禁スルハ、固ヨリ

當然ナレハナリ、〔按〕國內ノ法ニ關シテ、兵去、其結局兵數ノ多寡ヲ定ム
數ノ多寡ヲ定ムルナリ、

ルハ、決シテ國內ノ法ニ由ルニアラス、特ニ國家保護ノ難易ニ由ルノミ、若
政府ノ眼力權勢、ニツナカラ缺クル所ナケレハ、國內ノ安寧ヲ保護スルカ
爲ニハ、僅ニ少數ノ常備兵ヲ設置スレハ足レリ、然ルニ若、國界ノ形勢自
ラ外寇ノ侵襲ヲ受ケ易ク、且、鄰邦ノ交誼既ニ破ル、ニ至リ、而、鄰邦甚
巨大ノ常備軍ヲ備フルニ方リテ、其侵襲ヲ防遏シテ、國家ノ安寧ヲ保ツ
ニハ、實ニ之ニ對峙スヘキ兵備ナカル可ラス、是時ニ於テ僅ニ護國軍ヲ
備フルノミニテハ、決シテ國家ノ危難ヲ濟フニ足ラス、

〔第三〕方今ノ世ニ於テハ、臣民タル者、國家ノ兵役ニ從事スルヲ以テ、當然
ノ義務トナスコト、殆通則トナルニ至レリ、而、止、其護國軍ニ入ルヲ以テ、
當然ノ義務ト爲スノミナラス、亦常備軍ニ入ルヲモ、必、當然ノ義務トナ
ス、但、實事ニ於テハ、獨、兵卒ノ職ノミ、臣民當然ノ義務ニシテ、將校ノ職ハ、
必、其志願ニ依テ、之ヲ備役スルナリ、○獨、乙、太古ノ法ニテハ、臣民當然ノ

一七下

七
一
二

義務ト云フハ、唯國內ノ防禦及國中ノ戰爭ニ從役スヘキ國兵ホルクストナルコトノミナリキ、但、非常ノ變亂アル時、若クハ敵國ヲ侵襲スル時ニ當テ、兵士トナリ、元帥ニ從行スル者ハ、皆自ラ請願セル者ノミナリキ、又中古ノ世ニ於テハ、眞ノ兵役ハ封地レノヘンノ受有ニ由リテ生シタリキ、新世ニ至リ、常備兵始テ立チシ時ニ於テハ、皆自ラ請願スル者ヲ僱役スルノ法ナリキ、○是故ニ太古ノ法ニキレハ、常備軍ニ入ルハ、必自ラ請願スル者ニ止マレ、又護國軍ニ入ルハ、臣民當然ノ義務ニシテ、凡ソ臣民タル者ハ、悉皆免ル可ス、然レ者ト爲ス可シ、蓋此太古ノ法ハ、大ニ常備軍人性ニ適スト云フ可シ、何者、常備軍ノ職務ハ、即、各種ノ職業、カルヲ以テ、此軍ニ入ル所ノ兵卒ハ、固ヨリ、武事ヲ好ミ、且能ク武技ニ長スルノ性質ヲ備ヘ、進ンテ兵士トナルヲ欲スル者ニアテサレハ、決シテ用フルニ足ラサレハナリ、○然ルニ已ムヲ得サルノ事理アラサルニ、各人チシテ其學習ヲ廢シ、其職業、及今日諸般ノ務ヲ關イテ、專ラ兵事ヲ練習セシ

七
一
二
三

メントスルハ、即、私人ノ自由權ヲ侵スル所業ト云フヘキノミ、故ニ時勢實ニ已ムヲ得サルニアテサレハ、此ノ如キ所業ヲ以テ正理ニ合スル者ト爲ス可ラス、○之ニ反シテ、自ラ請願スル者ヲ僱役シテ、常備兵トナスルノ法ハ、國法ニ於テ、固然トシテ、所ナラズ、然レ此法ヲ用フルハ、實ニ武事ニ練熟セル精銳ノ軍兵ヲ得ルニ足ル可キ、但、若、兵役ヲ欲スル者ノ甚多カラサルカ爲メ、請願者ノミテテ、常備軍ノ兵數甚僅少ナルニ方リ、若、一旦事アルハ、已ムヲ得ズ、兵役ヲ以テ、臣民當然ノ義務トナシ、以テ許多ノ兵士ヲ募ル要ス、○但、此ノ如キ勢態ハ、實ニ驕奢淫逸ニ流シテ、衰弊極リ、皆キ國ヲアテサレハ、殆アラサルコトナリ、而シテ此ノ如キ國民ハ、國費ヲ以テ、外國ノ兵ヲ僱役スルニ至リテモ、敢テ概歎スル能ハス、總テ此ノ如キ國ニテハ、本國ノ人民ヲ以テ、強大ノ軍隊ヲ編制スル能ハサルカ故ニ、國土ヲ防禦スルニ方リテハ、自己ノ金、及自己ノ自由ノ一分ヲ割テ、最モ高價ナル平和安寧ヲ買ハサルヲ得サルナリ、

七 英國荷蘭及北亞米利加ニテハ常備軍設置ノ方法至當ヲ得ルト雖モ他
一 各國ニ於テハ方今ノ軍制ニ於テ臣民ノ常備兵トナルヲ其當然ノ義務
下 爲ス但其法二種アリ即チ一法ハ兵士ヲ取ルニ拈鬮子ヲ以テ之ヲ定ム
四 ルヲ常則トナス去レ鬮子ヲ得タル者若シ自ラ兵士トナルヲ欲セサルモ
ハ適當セル代人ヲ出スヲ許ス即チ佛國及獨乙各國ノ法是レナリ他ノ一法
ハ甚嚴ナル者ニシテ本人必兵士トナルヲ要シテ決シテ代人ヲ出スヲ
許サズ即チ普魯士等ノ如キ是レナリ○國勢ノ更ニ強大ニ至ルヲ務メ攻伐
ヲ事トスル國或ハ下民ヲ制御スルニ政府強盛ノ威權ヲ要スル國ノ如
キハ右第二法如キ嚴法ヲ用フルヲ緊要ナリ去レ此法ハ私人ノ自由
權ヲ十分ニ敬重スル方今文明國普通ノ狀態ニハ決シテ適應セサルナ
リ

〔第四〕護國軍ハ國內ノ防禦及其平和保護ノ爲ニ設クル者ニシテ國境外
ニ用フル者ニアラス○護國軍ノ兵數充足シ其編制宜シキヲ得及其技

術練熟スルモハ能ク國民ノ銳氣ヲ養フテ挫折セサラシメ且ツ同數ノ常
備兵ニ叱スルニ其費用更ニ少許ヲ要シテ以テ國家ノ勢力ヲ振起スル
ニ足ル尙也○加之護國軍ハ常ニ國民中ニ在リテ之ト相合スルヲ以テ
政府ノ權ヲ以テ此兵ヲ用ヒ強クテ民人ノ自由ヲ保護スルニ足ルト云フ可
故ニ此兵却テ能ク國家ヲ序次民人ノ自由ヲ保護スルニ足ルト云フ可
ク且此兵モ亦常備兵ノ如ク武官ノ恭順（按）武官ノ上命ニ恭順スル
ノ法ハ文官ノ上命ニ恭順ス（按）武官ノ上命ニ恭順スルヲ守ラサル可ラサルノ法アリテ全ク國家
元首ニ從屬スル者ナルカ故ニ能ク國內ノ反側不逞ノ徒ヲ鎮壓スルニ
足ル云々可シ

七ノ下一五

○或ハ護國軍ヲ國境外ノ戰爭ニ用フル國アレモ此事決シテ護國軍
ノ常分ニアラス是故ニ單ニ政府ノ指令ノミヲ以テ之ヲ國境外ノ戰
争ニ用フルハ決シテ許ササル所ナリ○西班牙一千八百三十八年九年
ノ國憲第十七章ニ云「已ムヲ得サルコトアルニ方リテハ國君各州

プロヒノナオナールミリツツ〔按〕護國軍ナリ、本州内ニ於テ用フルヲ得ヘシ、但シ若シ之ヲ本州外ニ用ヒント欲スルキハ、必ス先ツ〔按〕立法ノ許可ヲ得サル可ラスト、○比耳時ノ國憲第百二十三章ニ云、「〔按〕ビュルゲルガルテ〔接〕亦護國軍ナリ、〔接〕他方ニ出發セシメント欲スルキハ、必ス憲法ヲ以テ之ヲ定ム可シト、

護國兵ハ常備兵ノ如ク、常ニ戰事ニ從事スルヲ以テ、其當務ト爲サス、無事ノ日ニハ、各其本業ニ歸從ス、是レ其常備兵ト相異ナル所以ナリ、去レモ又此兵ヲ以テ、ランドスツルム〔接〕非常ノ時、唯其居住ノ近傍ノミチ防禦スル兵ト同視ス可ラス、何者、護國兵ハ主トシテ武技ニ練熟スル者ヲ簡用スルカ故ニ、專ラ弱年及ヒ壯年ノ者ヨリ掄拔スト雖モ、ランドスツルムハ、然ラサレハナリ、○護國軍ハ常ニ常備軍ト相連絡シテ、例ヘハ猶常備軍ハ、〔按〕其核ノ如ク、護國軍ハ其夾殼ノ如クナルヘシ、而シテ護國軍ハ必ス常備軍ニ同シキ精神ヲ備ヘ、及ヒ常備軍或ハ其本性ヲ失ヒ、遂ニ平民〔按〕兵士ニ對シテ云、「ニ對シテ離スルニ至ルヲ預

防スルヲ良トス、然ルニ護國軍ヲ以テ、全ク政府ニ從屬セスシテ、常備軍ト分隔セル者トナシ、且ツ護國軍ヲ以テ國ノ兵トシテ、而シテ王ノ兵ナル常備軍トハ、方ニ相反對セル者ナリト爲スキハ、遂ニ軍隊ノ和同破ル、カ故ニ、必竟國家ノ勢力ヲ増大スヘキ軍隊ナル者、却テ其レチ減損スルニ至ルノ害アリ、常備護國ノ二軍ハ、例ヘハ猶雙手ノコトシ、故ニ其相應護スルヤ、當ニ雙手ノ相應護スルカ如クナル可シ、然ルニ此二軍相和同セスシテ、互ヒニ警視スルキハ、猶左手ノ右手ヲ妨碍スルカコトク、其害タル甚クシカラス、

○〔按〕護國兵ハ、通例國境外ノ戰爭ニハ、應用セサレモ、國內ノ防禦ニハ、當然用フ可キ者ナルカ故ニ、必ス強壯精銳ヲ要シテ、大抵四十五歳以下ノ者ヲ擇テ、用フトイヘモ、ランドスツルムハ、大非常ノ形勢ニ隨テ、唯其居住ノ近傍ヲ防禦セシムル者ナルカ故ニ、必ス強壯精銳ノミチ撰ム可ラス、大抵六十歳以下ノ者ハ、皆取テ此兵ニ充ツ、

七ノ下

護國軍ノ中自ラ等級ヲ設ケ先ツ弱年ニシテ妻子ノ養育ニ眷顧少キ者及ヒ氣力盛ニシテ戰爭ヲ喜ブ者等ヲ徵集シテ之ヲ第一軍トナシ而シテ既ニ壯年ニ至レル者ヲ徵集シテ之ヲ第二軍及ヒ後軍ト爲スナリ、

〔第五〕ラングスタットルハ唯非常ノ時ニ於テ用フ可キ者ニシテ素ト眞ノ軍隊

ニアラス又大イニ武技ニ練熟セル者ニアラス大抵未タ常備軍若クハ護國軍ニ入ラサル者ニシテ仍國家ノ防禦ニ耐ユヘキ氣力アル者ハ皆此軍ニ充ツ可シ強悍ノ民多キ山國ニテハ婦人モ亦此軍ニ入りテ男子ヲ援ク能ク強勇ノ功ヲ奏スルコトアリ去レ此事ハ唯異常ノ事トス通例ハ獨リ男子ノミ此軍ニ入ル可シ、

ラングスタットルモ亦國家ノ全軍ト相連絡スルノ制アリテ必國家元首ニ從屬セサル可ラズ又此軍隊中ニ就テ精銳ナル者ト否ラサル者トヲ分ツ等級ヲ立テ而シテ攻撃及ヒ軍陣運動ニ堪ヘサル兵ハ隘路ヲ防禦セシメ及ヒ既ニ擊破セル敵軍ヲ尾撃セシムルトハ能ク良功ヲ奏スルコトアリ、

〔第六〕軍隊ハ自ラ戰爭ヲ用フヘキト否トノ事ヲ定決スル能ハス又兵權ハ通例自ラ民事ノ區域ニ侵入スルヲ得ス必國家元首ノ命ヲ俟テ始メテ動ク可シ且其令ニ由テ兵事ノ端緒ヲ開キ及ヒ方向ヲ取ル可シ但シ時アリ公衆ノ安寧ヲ保護スルカ爲メニ兵力ヲ要スル時ニ於テハ僅ニ數隊政官ノ未ニ應ニシテ其ヲ援ケ戰爭ニ從事スルコトアリ

○ 壤地利 一千八百四十九年 嘉永ノ國憲第一百十四章ニ云「國內ニ於テハ軍隊唯政官ノ未ニ應ニシテ出發スルヲ得ヘシ但シ既ニ憲法ニ載定セシ場合ニ於ケルノミナル可シ且必憲法ニ載定セル規律ヲ用フ可シ」ト、

第八款 警保

第一 警保ノ本性

七ノ下

此款ニ至リ始メテ方今警保ノ旨意ヲ説明スルヲ得○凡ソ國法ニ於テ警保ヲ論スルノ學今時ニ及ヒテ頗隆盛ニ至リシカニ其弊害却テ甚シク而シテ

○二下ノ七

實際ニ於テハ、更ニ之ヨリ甚ダシキ者アリ、何者、或ハ警保權ノ區域ヲ限制スルヲ、嚴密ニ過キテ、警保官タル者、公衆安寧ノ爲ニ、當然施行スヘキ事、及ヒ照願スヘキ事ヲモ、却テ職掌外ノ事トシテ、之ヲ聞キ、或ハ又其權ノ區域ヲ増大スルヲ、度ヲ過キテ、警保官タル者、其關係ス可ラサル臣民ノ私事ニ關係シテ、恰モ臣民ノ看護人ノ如クナリテ、遂ニ故ナク其自由ノ權ヲ、障害スルカ如キヲアレンハナリ、

警保官ノ職掌ハ、本來刑罰ヲ施スニアラス、唯照願ヲナスナリ、總テ警保官タル者ハ、公衆ノ安寧ヲ保全スルヲ以テ、全ク其目的トナスヲ當然ナリ、是故ニ此官ハ其職掌ヲ盡スニ於テ、民事ニ親切ナルヲ、實ニ他ノ諸權柄ニ超越セサル可ラス、然ルニ此官動モスレハ、民人ノ嫌忌嫉惡ヲ受ルハ何ソヤ、惡人タル者、或ハ却テ警保官ヲ畏怖セサルハ何ソヤ、ゲ一テ獨乙人、一千七百四十九年ニ嘗テメヒストヘニス、〔按〕一種ノ言ニ托シテ作レル詩アリ、吾レハ能ク警保官ト和スルノ術ヲ知ル、然レモ慘刻ナル

一二下ノ七

刑官ト和スルノ術ヲ知ラスト、〔按〕蓋シ鬼言ニ托シテ、警保官ノ其職掌ニ堪ヘス、動モスレハ惡人ノ爲ニ籠絡セラルナリ、又温和柔順ニシテ、絶テ惡事ヲ爲サ、ル徒、或ハ却テ警保官ヲ畏懼シテ、之ニ接スルヲ欲セサルハ何ソヤ、眞ニ怪ムニ堪ヘタリ、是等ノ事ハ、特別ニ論説講明セサレハ、悉ク解ス可ラス、〔按〕以下數條ニ於テ、舊羅馬ノ制度ハ、警保權ノ威力ヲ強大ニ爲セシカレ、未ダ曾テ民人ノ、太ニ此官ヲ嫌忌嫉惡セシテ聞カス、此國、民主政體ノ時ニ方リテハ、尊貴ノ人ハ、榮譽ヲ買フカ爲メニ、警保權ヲ委託セラレテ、之ヲ施行スルヲ希望セリ、當時ニザールト稱スル官ハ、殊ニ警保權ヲ掌握セシ長官ニシテ、恰モ政府ノ高官ニ入ル門戸ノ如ク然リキ、而シテ德行全キ貴人ハ、行狀檢査ツニスル、〔按〕民人行狀ノ務ニ從事スルヲ以テ、甚ダ榮譽トナセリ、故ニ善惡ヲ檢査スルナリ、〔按〕民人行狀ハ、右貴人ノ掌ル所ナリキ、行狀ノ警保〔按〕シテ、〔按〕民人ノ行狀ハ、右貴人ノ掌ル所ナリキ、但シ國事警保〔按〕シテ、〔按〕國家ノ安寧健ノ權ハ、都府ノ長ハ、ウエプト、ト、〔按〕羅馬ニテハ、都府ノ長ハ、ウエプト、長ハ、即兼テ國ノ長ナリキ、ナルコンスルノ掌中ニアリキ、○當時ノ制度

七ノ下二

ニテ、別ニ警保ノ一官局ヲ設クルコトナクシテ、諸官局ノ長官等、各此權ヲ分掌シタリキ、故ニ諸長官等ハ、僅ニ此權ノ一分ヲ握ルニ過キスト、雖此之ニ由リテ、其榮譽威權、二ツナガラ盛大トナレリ、凡、今時ノ警保權ノ景況ヲ取テ、當時ノ警保權ノ景況ニ比シテ、其優劣如何ヲ考フルキハ、方今ノ警保權ハ、當時ノ警保權ニ及ハサルコト遠クシテ、實ニ耻ツルニ堪トタリ、中古日耳曼ニ於テハ、警保權ノ制度、頗ル陋劣ナリキ、蓋、方今ノ警保權、甚々其用ニ適シ難クシテ、真ノ大改革ヲ爲スニアラサレハ、其弊得テ救フ可ラサルハ、適ニ中古陋劣ナル警保權ノ弊ヲ承クレハナリ、且、中古ニ於テハ、實ニ警保諸權ノ實心タル道義ノ旨意ハ、全ク國家ノ關セサル所ナリキ、故ニ教會タル者、專ラ神教ノ意ニ由リテ、民人交際上ノ行狀ヲ警保スルノ權ヲ掌握シ、國家ハ民人ノ行狀ニ於テハ、全ク措テ問ハサリキ、○其他中古ノ慣習ニテ、各私人、各親族、各會社ノ自主自立ヲ貴重スルコト甚クシウシテ、遂ニ全ク公衆ノ同利同益ヲ忘失セシカ故ニ、民事ノ區域ニ侵入スルヲ主トナセル警保權ヲハ、務テ微弱ニセサル可ラストセリ、是ニ於テ各私人、各親族、各會社ノ自主自立、次第ニ其踰越ス可ラサル區域ノ外ニ侵蝕シ、而シテ警保權ハ、遂ニ私人ノ爲ニ阻止セラル、ニ至レリ、然ルニ中古ノ末ニ至ルニ及テ、其形勢一變シ、全ク相表裏セル一弊ヲ生シタリ、蓋、當時國家ノ威權、漸ク復興シテ強大トナリ、以テ全ク各私人ノ權ヲ制馭シ得ルノ勢ヲ生セシカ故ニ、頻ニ民人ノ幸福ヲ増益セント欲シテ、遂ニ深ク民事ノ區域ニ侵入シ、國家ノ全然關ス可ラサルコトニ關シテ、老成人ヲ遇スル、殆、兒童ヲ馭スルニ異ナラス、遂ニ全ク民人ノ自由ヲ束縛スルニ至レリ、即、國家タル者、天下民人ノ看護アルケマイ子、ベホチ司リテ、全ク過度ノ政令ヒールレギヲ爲スコトナリ、凡、神教ノ旨意、行狀及ヒ衣食住ノ規制、并ニ工商諸業ノ方法等、一モ政府ノ指令ニ出デサル者アラサルニ至レリ、○國家是等ノコトヲ指令スルヤ、其意ハ全ク仁惠ニ出ツト雖、其處分不可ナルヲ以テ、却テ民人ノ害トナリ、加之、此法アルカ

七ノ下二

三、

七ノ下二四

爲ニ適警保權ヲ施行スル者、動モズレハ不正ノ所業ヲ恣ニシテ、大ニ民人ヲ困シムルコトナリキ、然ルニ此大弊害、却テ又再變ヲ促スノ原因トナリテ、輒近ニ至リテハ、遂ニ大ニ警保官ノ權ヲ限制シテ、決シテ國家安寧ノ增益ニ從事スルコトヲ得サラシメ、唯僅ニ國家及私人ノ安寧ヲ保護スルコトニ從事スルヲ得セシムルノミトナレリ、

警保權ノ景況、斯^カ屢變回セシカニ、終始偏倚シテ、未^ダ曾テ中正ヲ得ルニ至ラス、蓋^シ此權ノ景況、中正至當ヲ得テ、能ク靜止シ且^ツ能ク公義正道ニ合スルヲ得ルニ至ルハ、恐ラクハ後世始^メテ能クス可キノミ、

此目的ヲ達セント欲セバ、先^ッボリツアイ〔按〕即警保ノ原語ニシテ、公衆ノ安寧健全ヲ照顧警保スルノ義ナリ、警保ノ譯字、原義ヲ盡シ難シト雖モ、未^ダ安ナル名稱ノ本義ヲ明晰ニスルヲ緊要ト爲ス、此稱ハ、素ト公衆ノ安寧健全ヲ、目下ノ景況ニ應シテ、照顧警保スル一種ノ制御權オブリグカイトト、テ徵スルコト明カナリ、故ニ此權ハ目下ノ景況ニ隨テ、或ハ指令シ、或ハ禁止シ、或ハ強逼シ、以テ其能力ヲ顯ハス

七ノ下二五

者ナリ、是^レ即^チ此權ノ本性ニ固有スル力ナリ、○是故ニ警保權ハ他諸權柄トハ異ニシテ、須臾モ休止スルコトナク、常ニ能力ヲ備ヘテ、必要ノコトアレハ、必^ズ之ニ應^ジテ其力ヲ顯サ、ル可ラス、此權ハ絶^テ靜坐スル能ハス、又絶^テ睡眠スル能ハス、此權若^シ靜坐睡眠スルコトアレハ、則^チ是^レ公衆ノ交際破ル、ノ徵ト云フ可シ、凡^ソ公衆ノ爲^メニ已ム可^クサルコトアル毎ニ、此權輒^チ其能力ヲ發シテ、自^ラ之ヲ助ク可シ、此權ハ必^ズ自己ノ意見ヲ以テ、其務ヲ成シ、而^シ決シテ淹滯スルナカル可シ、故ニ此權ハ、實ニ一種特別ノ權柄ト云フ可シ、

預^メ警保權ノ能力活動スル所ノ方向ヲ詳定シ、及^ヒ其能力ノ品類ヲ細別セント欲スルハ、徒ニ無益ノ勞ニ屬スルノミ、凡^ソ警保權ハ、國家ノ中心ニリ興起シ、其周邊ニ向テ發動シ、而^シ今日千差萬別ノ事業ニ應シテ、其能力ヲ顯ハス者ナリ、故ニ總テ預^メ料ル可^クサル事ノ突然生スルニ方リ、其景況ニ應シテ、適宜ノ處分ヲ爲サント欲セバ、此權必^ズ之ニ應スルノ自由ヲ

七 具へサル可ラス此權若シ此自由ヲ具へサルキハ、決シテ之ニ應シテ其用
下ノチ爲スニ足ラス、凡シ此權ノ關係スヘキ事體ノ景狀千差萬別ナルニ隨テ、
六二 此權ノ活動スル景狀モ亦宜シク千差萬別ナル可シ

是故ニ預警保權施行ノ方法ヲ詳定セント欲スルハ、甚ダシキ謬見ナリ、必
ヤ此權ヲ掌握スル者自由ニ其方法ヲ撰ヒ、以テ景狀ニ適スル處分ヲ爲
サ、ル可ラス、此事即チ此權ノ本性ニ慚ヘリ、然ルニ警保權ノ憲法イゲセツ
ツ、ゲーブソク〔按〕警保權施、チ以テ預、後來此權ヲ施行スルノ方法ヲ悉
行ノ方法ヲ定ムル憲法ナリ、皆確定セント欲スルモ、決シテ得ヘカラス、若シ強ヒテ之ヲ確定シ、之ニ由テ
此權ヲ施行セシメント欲スレハ、必弊害ヲ生ス可シ、○是故ニ此權ヲ掌
握スル者、チシテ自由ニ其方法ヲ撰ハシメサル可ラス、去レ此自由亦、決
シテ限制スル所ナキニハアラス、此權ヲ施行スル者、必現存ノ法制ヲ遵
守スヘキハ、固ヨリ當然ニシテ、唯實ニ已ムチ得サルノ事生スルニアラ
サレハ、決シテ現存ノ私法、若クハ國法ニ背キ、或ハ之ヲ破ルチ許サス、且ッ

私人ニ任セテ却テ功益アルヘキ事ニハ、決シテ此權ヲ施行ス可ラス、○
但シ其歸テ要スルニ、日々變化スル所ノ公衆ノ要務ニ應シ、今日ノ景況ニ
隨テ適宜ノ方法ヲ用フルチ以テ、此權ノ大眼目ト爲ス可シ、是レ即チ此權ノ
最上ノ憲法ナリ、最高ノ義務ナリ

去レ此權此ノ如ク自由ヲ得ルキハ、遂ニ國家ニ害ヲキ能ハス、且ツ殊ニ私
人ニ害アルハ、愈更ニ大ニシテ、動搖スルハ、苛酷ニ至ルチ免レヌ、是故ニ預
國法ヲ以テ十分ニ之ヲ防制スル術アラサル可ラス、而シテ方今ノ世ニ
於テ實、其法僅ニ二件アル、一、即チ時アリ、上等警保局ニ告訴スルチ許ス
ノ法〔按〕私人下等警保局ノ處分ニ服セサルキハ、ト、及ヒ警保權ノ憲法書ヲ
設ケテ、此權ヲ限制スルノ一法ノミ、但シ第一法ヲ用フルニ方リテ、上等警
七 保局若シ告訴セル私人ノ論ヲ是トシテ、之ニ權利ヲ與フルキハ、遂ニ下等
下ノ警保局ノ威權ヲ損害スル事ノ恐、甚ダ少ナカラサルチ以テ、此法ヲ用フル
七 一、公通例爲シ難シト、又第二法ノ如キハ、尋常ノ混亂起ルニ方リ、及ヒ當サ

七ノ下二八

ニ警保官ノ權ヲ以テ罰スヘキ罪ヲ犯ス者アルニ方リテ、此官ヲシテ能ク常度ヲ守リ、恣ニ權力ヲ振フ能ハサラシムルニ足ルヲ必然ナリ、去レヒ此法ニ由テ常ニ警保官ノ權力ヲ中正適度トナスハ、甚難シテ、動モスレハ却テ此權ヲ限制スルヲ甚シキニ過キテ、遂ニ警保權ノ自由ナル活動ヲ阻止スルニ至ル、是レ即チ此權ノ專恣ニ至ルノ弊ヲ矯メント欲シテ、却テ又此權ニ必要ナル自由力ヲ抑制スルノ一弊ヲ生スルナリ、以上論スル所、至方今警保制度ノ弊害ナリ、今復茲ニ羅馬ノ制度ヲ論說セサル可ラス、抑羅馬ノ法ニテハ、警保ノ權ヲ施行スル者ト同權力ナル他官吏、若クハ更ニ之ヨリ權力盛ナル他官吏等、警保權ヲ施行スル者ノ處分ヲ代京スルノ法アリ、殊ニホルクストリブン〔按〕羅馬ノナル者、當カハリテヒキヤケル然此事ヲ爲シ得ルノ權アリシカ、蓋シ此法、能ク警保權ノ制度ニ適應ス、○凡ソ神速ノ果斷ヲ以テ、處決スルヲ要スルニ方リテ、警保官ノ處分、若シ至當ヲ得サルヲアレンハ、又神速ニ此處分ヲ防制セサル可ラス、然ルニ私人警保

七ノ下二九

ノ一局ニ於テ、現ニ不當ノ處分ヲ受ケシキ、更ニ上等ニシテ遠隔セル官司ニ、登訴ニ服セサルキ、更ニ上局ニ訴フルヲ云、〔按〕下局ノ處分スルヲ要スル法アルキハ、決シテ不當ノ處分ヲ、神速ニ防制スルニ足ラス、蓋シ同等ニシテ接近セル官ニ、警保官ノ不當ナル處分ヲ禁止スルノ權ヲ與フルキハ、能ク其害ヲ防制スルニ足ル可シ、但シ自由ニ處分スルノ權ヲ警保官ニ許サント欲セハ、亦必ス其處分ニ就テ、十分ナル保任ノ務ヲ負ハシメサル可ラス、若シ此務ナキキハ、則チ其權遂ニ專恣ニ流ル、必然ナレハナリ、故ニ自由ノ權ヲ許スヲ愈大イナレハ、保任ノ務モ亦隨テ、愈大イナルヲ要ス、然ルニ此保任ノ法ヲ用ント欲セハ、必ス今時ノ登訴法ヲ廢シテ、他ノ制度ヲ用ヒサル可ラス、○茲ニ相反セル二事ニ於テ、共ニ保護ノ道ナカル可ラス、即チ其一、警保官ノ國家安寧ノ爲、施爲スル諸業ニ、必要ナル自由權ヲ保護シテ、之ヲ失ハサラシムルト、其二、私人ノ權利ヲ保護シテ、警保官ノ暴權ヲ避ケシムルト、是レナリ、凡ソ警保官自